2021年度
授業改善のための学生アンケート
実施報告書

東邦音楽大学大学院
東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

目　次

はじめに ・・ 1
2021 年度授業改善のための
　学生アンケートについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
授業・レッスンアンケート用紙 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
参考資料　～　全体集計結果表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
　講義・演習系、実技（個人レッスン）、大学院　全体集計結果

専攻別集計結果・アンケート結果考察

◆ 大学 ◆
ピアノ ・・ 21
声楽 ・・・ 49
管弦打楽器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
音楽療法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
音楽専門教育科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
基礎教育科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 169
教職に関する専門科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 211
音楽療法に関する科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 227
文化教養科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 235
外国人留学生に関する科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 241
◆ 短大 ◆
ピアノ ・・ 255
声楽 ・・・ 267
管弦打楽器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 275
電子オルガン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 283
ピアノ指導者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 289
音楽教養実技 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 297
音楽専門教育科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 305
基礎教育科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 323
◆ 大学院 ◆
ピアノ領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 339
管弦打領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 351
声楽領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 357
作曲領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 371
共通科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 377

はじめに

多様な背景を持って入学する学生に対する、学士課程教育の改革や改善が年々求められています。本学では、これらの状況に対して教育の改善、充実をはかるため全学的な FD 活動が活発に遂行されています。継続的な研修会をはじめ、各種アンケートの実施等、着々と FD 活動の実質化を計ってきました。

本学の「授業改善のための学生アンケート」は、平成 17 年度の実施以来、教育内容、指導方法の改善に重要な役割を果しています。教員一人一人が自主的な自己点検、評価を行い教育の質的向上を目指すための重要なエビデンスになっています。今後はピアレビューを踏まえた授業公開やアクティブ・ラーニングの活用等の実現化に議論を深めたいと思います。教育に関する問題、課題は絶えることはありません。今後とも改革、改善のため不断の対応を推進して行きたいと思います。

令和 4 年 3 月

東邦音楽大学・短期大学
FD 委員会

山崎　明美(委員長)
高橋　幸雄
遠山　菜穂美
大場　文惠
宮野　陽子
中島　裕紀
國谷　尊之
荻久保　和明
木下　容子
粕谷　麻里乃
江沢　博昭
吉野　正巳
山岡　香苗

2021 年度　授業改善のための学生アンケートについて

Ⅰ　実施目的

学生による「授業改善のためのアンケート」は、学生の視点から見た授業・レッスン内容、方法、教材などについて意見を聴取し、より充実した授業・レッスンにするための参考資料とするものである。

Ⅱ　実施対象科目

原則として、すべての開講科目・レッスンについて行う。

Ⅲ　実施機関

東邦音楽大学・同短期大学 FD 委員会

Ⅳ　調査内容

別紙のとおり

Ⅴ　実施手順

各授業・レッスン担当教員が、授業・レッスン時間終了前に、学生に本調査の趣旨を説明し、用紙を配布した。学生が回答記入後、回収した。

Ⅵ　集計

集計は、株式会社教育ソフトウェアに依頼した。

Ⅶ　教員への結果通知

各授業・レッスン担当教員の各授業・レッスンごとの個人集計分は、令和 4 年 3 月初旬から順次手渡し、分析を依頼した。

Ⅷ　結果の公表と活用

調査結果については、自己点検・評価特別検討委員会で報告書にまとめ、委員会の責任において公表する。各教員は調査結果を参考にして、次年度の授業・レッスンの内容の改善に役立てる。

授業改善のための学生アンケート 講義・演習科目系用

東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

このアンケート調査は、授業内容をより充実したものにするために、担当者が授業を検討し、改善を図るために実施するものです。あなたの成績評価とは一切関係ありませんので、率直に答えてください。またアンケートの参加は、皆さんの自由意思によるものです。以下の項目のそれぞれに対して、授業を受けたあなたの評価を５点法で評価してください。

科目名	曜日
担当教員名	時限

記入上の注意

1.記入は、ＨＢの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2.訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3.用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例　良い例 ●　悪い例 ✓ ⊖ ✕ ⊙ ○ うすい

		強くそう思う	ある程度そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全くそう思わない
		5	4	3	2	1
I 授業への取り組みについて	a. この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	⑤	④	③	②	①
	b. この授業の出席は良好であった。	⑤	④	③	②	①
	c. 熱意を持って積極的に取り組んだ。	⑤	④	③	②	①
	d. １回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	⑤ 5時間以上	④ 4時間	③ 3時間	② 2時間	① 1時間未満
II 授業内容・授業方法について	a. この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	⑤	④	③	②	①
	b. この授業の難易度はどうでしたか。	⑤ 難しい	④ やや難しい	③ 適切	② やや易しい	① 易しい
	c. 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	⑤	④	③	②	①
	d. この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	⑤	④	③	②	①
	e. 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	⑤	④	③	②	①
	f. 授業内外における質問や相談の対応は適切だった。	⑤	④	③	②	①
	g. 授業回数や時間は守られていた。	⑤	④	③	②	①
	h. この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	⑤	④	③	②	①
III 授業の成果について	a. 開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	⑤	④	③	②	①
	b. 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	⑤	④	③	②	①
	c. この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	⑤ 新しい知識・技能が身についた	④ 新しいものの見方が身についた	③ 関連分野をさらに学びたくなった	② 問題発見・問題解決能力がついた	① コミュニケーション能力が向上した
	d. この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	⑤	④	③	②	①

IV 自由記述欄

この授業で良かった点、改善すべき点等について書いてください。

K15308C 90 kg

授業改善のための学生アンケート 実技（個人レッスン）用

東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

このアンケート調査は、授業内容をより充実したものにするために、担当者が授業を検討し、改善を図るために実施するものです。あなたの成績評価とは一切関係ありませんので、率直に答えてください。またアンケートの参加は、皆さんの自由意思によるものです。以下の項目のそれぞれに対して、授業を受けたあなたの評価を５点法で評価してください。

科目名

担当教員名

記入上の注意

1. 記入は、ＨＢの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2. 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3. 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例　良い例　悪い例　うすい

		強くそう思う	ある程度そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全くそう思わない
		5	4	3	2	1
I レッスンへの取り組みについて	a. このレッスンの出席は良好であった。	⑤	④	③	②	①
	b. 熱意を持って積極的に取り組んだ。	⑤	④	③	②	①
	c. １回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	⑤ 5時間以上	④ 4時間	③ 3時間	② 2時間	① 1時間未満
II レッスン内容・指導方法について	a. このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	⑤	④	③	②	①
	b. このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	⑤	④	③	②	①
	c. 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	⑤	④	③	②	①
	d. レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	⑤	④	③	②	①
	e. このレッスンの回数や時間は守られていた。	⑤	④	③	②	①
III 授業の成果について	a. 開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	⑤	④	③	②	①
	b. このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	⑤	④	③	②	①
	c. このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	⑤	④	③	②	①

IV 自由記述欄

このレッスンで良かった点、改善すべき点等について書いてください。

K15309C 90 kg

授業改善のための学生アンケート

講義・演習科目・レッスン（共通）用

東邦音楽大学
大学院

このアンケート調査は、授業内容をより充実したものにするために、担当者が授業を検討し、改善を図るために実施するものです。あなたの成績評価とは一切関係ありませんので、率直に答えてください。またアンケートの参加は、皆さんの自由意思によるものです。以下の項目のそれぞれに対して、授業を受けたあなたの評価を５点法で評価してください。

科目名	曜日（授業のみ記入）
担当教員名	時限（授業のみ記入）

記入上の注意

1. 記入は、ＨＢの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2. 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3. 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例　良い例 ●　悪い例 ✓ ⊖ ✗ ⊙ ○（うすい）

			5 強くそう思う	4 ある程度そう思う	3 どちらとも言えない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない
I	授業・レッスンへの取り組みについて	a. この授業・レッスンへの出席は良好であった。	⑤	④	③	②	①
		b. 熱意を持って積極的に取り組んだ。	⑤	④	③	②	①
		c. １回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	⑤ ５時間以上	④ ４時間	③ ３時間	② ２時間	① １時間未満
II	授業・レッスンの内容・指導方法について	a. シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	⑤	④	③	②	①
		b. 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	⑤	④	③	②	①
		c. 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	⑤	④	③	②	①
		d. この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	⑤	④	③	②	①
		e. 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	⑤	④	③	②	①
III	授業・レッスンの成果について	a. この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	⑤	④	③	②	①
		b. この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	⑤	④	③	②	①
		c. この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	⑤	④	③	②	①
		d. この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	⑤	④	③	②	①

IV 自由記述欄

この授業・レッスンで良かった点、改善すべき点等について書いてください。

K15310C 90 kg

全 体 集 計 結 果 表

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

区分	大学
科目数	180

履修者数	2,386
回答者数	1,850

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%) 5	4	3	2	1	有効回答数	無効回答数
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.30	502	388	446	184	324	1,844	6
				27.2	21.0	24.2	10.0	17.6		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.51	1,242	381	156	53	15	1,847	3
				67.2	20.6	8.4	2.9	0.8		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.34	998	545	229	40	20	1,832	18
				54.5	29.7	12.5	2.2	1.1		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.62	99	46	134	332	1,232	1,843	7
				5.4	2.5	7.3	18.0	66.8		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.12	858	397	540	15	25	1,835	15
				46.8	21.6	29.4	0.8	1.4		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.88	219	410	1,084	74	53	1,840	10
				11.9	22.3	58.9	4.0	2.9		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20	934	432	411	41	27	1,845	5
				50.6	23.4	22.3	2.2	1.5		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.34	1,101	390	257	66	28	1,842	8
				59.8	21.2	14.0	3.6	1.5		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.35	1,113	357	300	47	26	1,843	7
				60.4	19.4	16.3	2.6	1.4		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.43	1,185	326	293	27	16	1,847	3
				64.2	17.7	15.9	1.5	0.9		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.62	1,394	250	166	21	14	1,845	5
				75.6	13.6	9.0	1.1	0.8		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.58	1,318	304	199	16	8	1,845	5
				71.4	16.5	10.8	0.9	0.4		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.23	873	581	344	31	14	1,843	7
				47.4	31.5	18.7	1.7	0.8		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.36	1,072	463	242	34	32	1,843	7
				58.2	25.1	13.1	1.8	1.7		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	–	1,321	719	599	350	362	1,781	69
				74.2	40.4	33.6	19.7	20.3		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.49	1,034	306	142	29	28	1,539	311
				67.2	19.9	9.2	1.9	1.8		

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

区分	短大
科目数	34

履修者数	255
回答者数	157

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.55	29	64	38	8	15	154	3
				18.8	41.6	24.7	5.2	9.7		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.53	96	47	12	1	0	156	1
				61.5	30.1	7.7	0.6	0.0		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.37	78	62	12	3	1	156	1
				50.0	39.7	7.7	1.9	0.6		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.44	5	1	10	25	115	156	1
				3.2	0.6	6.4	16.0	73.7		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.31	81	44	28	1	1	155	2
				52.3	28.4	18.1	0.6	0.6		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.10	14	29	106	1	6	156	1
				9.0	18.6	67.9	0.6	3.8		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.21	74	50	25	5	2	156	1
				47.4	32.1	16.0	3.2	1.3		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.47	98	36	19	3	0	156	1
				62.8	23.1	12.2	1.9	0.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.34	83	48	21	3	1	156	1
				53.2	30.8	13.5	1.9	0.6		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.47	100	31	23	2	0	156	1
				64.1	19.9	14.7	1.3	0.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.59	114	20	20	0	1	155	2
				73.5	12.9	12.9	0.0	0.6		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.56	106	33	16	1	0	156	1
				67.9	21.2	10.3	0.6	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.21	54	82	16	3	0	155	2
				34.8	52.9	10.3	1.9	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.38	84	53	13	3	2	155	2
				54.2	34.2	8.4	1.9	1.3		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	–	118	66	46	25	27	156	1
				75.6	42.3	29.5	16.0	17.3		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.61	85	28	7	2	0	122	35
				69.7	23.0	5.7	1.6	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

区分	大学
科目数	55

履修者数	317
回答者数	276

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.70	213	49	9	4	1	276	0
				77.2	17.8	3.3	1.4	0.4		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	217	49	7	2	0	275	1
				78.9	17.8	2.5	0.7	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.21	91	22	56	66	40	275	1
				33.1	8.0	20.4	24.0	14.5		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.89	253	16	6	1	0	276	0
				91.7	5.8	2.2	0.4	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.93	260	14	1	1	0	276	0
				94.2	5.1	0.4	0.4	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.91	259	12	3	2	0	276	0
				93.8	4.3	1.1	0.7	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.93	262	10	3	1	0	276	0
				94.9	3.6	1.1	0.4	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.86	250	18	2	6	0	276	0
				90.6	6.5	0.7	2.2	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.54	169	90	14	3	0	276	0
				61.2	32.6	5.1	1.1	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.88	246	26	4	0	0	276	0
				89.1	9.4	1.4	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.95	262	13	1	0	0	276	0
				94.9	4.7	0.4	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

区分	短大
科目数	27

履修者数	40
回答者数	39

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.56	27	7	5	0	0	39	0
				69.2	17.9	12.8	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.56	22	17	0	0	0	39	0
				56.4	43.6	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.90	8	3	10	13	5	39	0
				20.5	7.7	25.6	33.3	12.8		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.87	34	5	0	0	0	39	0
				87.2	12.8	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.90	35	4	0	0	0	39	0
				89.7	10.3	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.95	37	2	0	0	0	39	0
				94.9	5.1	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.87	35	3	1	0	0	39	0
				89.7	7.7	2.6	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.95	37	2	0	0	0	39	0
				94.9	5.1	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.08	12	18	9	0	0	39	0
				30.8	46.2	23.1	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.74	29	10	0	0	0	39	0
				74.4	25.6	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.97	38	1	0	0	0	39	0
				97.4	2.6	0.0	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　大学院

区分	大学院
科目数	29

履修者数	81
回答者数	64

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.70	48	12	2	1	0	63	1
				76.2	19.0	3.2	1.6	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.86	56	7	1	0	0	64	0
				87.5	10.9	1.6	0.0	0.0		
	c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.41	23	8	13	10	9	63	1
				36.5	12.7	20.6	15.9	14.3		
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.91	58	6	0	0	0	64	0
				90.6	9.4	0.0	0.0	0.0		
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.92	59	5	0	0	0	64	0
				92.2	7.8	0.0	0.0	0.0		
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.95	60	3	0	0	0	63	1
				95.2	4.8	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.97	62	2	0	0	0	64	0
				96.9	3.1	0.0	0.0	0.0		
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	4.78	29	6	1	0	0	36	28
				80.6	16.7	2.8	0.0	0.0		
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.89	57	7	0	0	0	64	0
				89.1	10.9	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.95	61	3	0	0	0	64	0
				95.3	4.7	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.92	59	5	0	0	0	64	0
				92.2	7.8	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.97	61	2	0	0	0	63	1
				96.8	3.2	0.0	0.0	0.0		

東 邦 音 楽 大 学

ピ ア ノ

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	01. ピアノ
科目数	24

履修者数	165
回答者数	151

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.69	117	26	4	3	1	151	0
				77.5	17.2	2.6	2.0	0.7		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.72	114	31	4	1	0	150	1
				76.0	20.7	2.7	0.7	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.17	44	12	34	46	14	150	1
				29.3	8.0	22.7	30.7	9.3		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.87	137	10	3	1	0	151	0
				90.7	6.6	2.0	0.7	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.91	140	10	0	1	0	151	0
				92.7	6.6	0.0	0.7	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.93	144	5	1	1	0	151	0
				95.4	3.3	0.7	0.7	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.94	143	7	1	0	0	151	0
				94.7	4.6	0.7	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.86	136	12	0	3	0	151	0
				90.1	7.9	0.0	2.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	87	54	9	1	0	151	0
				57.6	35.8	6.0	0.7	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.83	130	17	4	0	0	151	0
				86.1	11.3	2.6	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.94	142	9	0	0	0	151	0
				94.0	6.0	0.0	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	ピアノ
教員名	國谷　尊之

職名	02. 教授

履修者数	10
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.84
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.89	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.55
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

2021年度は、大学のピアノ専門レッスンを10名担当した。学年別の内訳は1年次生3名、2年次生1名、3年次生4名、4年次生2名である。うち1名はKonzertfach演奏専攻、2名は教職実践専攻である。
レッスンでの表現技術や知識の習得のみならず、コミュニケーションスキルや社会人基礎力の向上についての指導も取り入れ、それがさらに能動的な学びにつながるように考えている。演奏専攻の学生には、2回の演奏専攻演奏会と実技試験、学内演奏会など、様々な演奏機会を有効に組み合わせられるよう考慮しながらレッスンを行った。今年度もウィーンアカデミー研修を行うことができなかったが、ウィーンアカデミー教授による動画レッスンも拝聴し、最大限の学修に努めた。トライアルコンサート等、各種演奏会に向けての指導も必要に応じて行った。

●　問題点

到達目標を充分に達成できたかを問う項目で、「どちらとも言えない」との回答が1名あった。

●　改善の方策

全ての学生が到達目標を達成できるよう、学生ひとりひとりの状況の把握と、それを踏まえた適切な指導計画の策定・実行、学修に対する適切な支援を心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	ピアノ
教員名	小林　律子

職名	02. 教授

履修者数	9
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.84
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	4.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.88	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.63	4.55
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

2021年度、大学では9名の専攻生を担当した。内訳は1年4名、2年2名、3年2名、4年1名である。総じて学習意欲の高い、勤勉な学生たちであった。専攻実技に対するしっかりとした自覚を持ち、音楽への純粋な興味をベースに自発的に取り組む姿勢を見せていた。
もちろん、ほとんどが無遅刻無欠席であり、また予習復習も充分に為されていた。意志のはっきりとした「個」の強い学生が多く、その様な学生と共に音楽を学ぶことは教員にとって大変興味深い時間であった。
アンケートの集計結果であるが、概ね納得のいくものである。学生たちのこの1年に対する達成感が伝わる内容と言える。

●　問題点

問題点は特に認められない。

●　改善の方策

今年度の様な状態を維持できるべく、学生の状況をよく見極め、一人一人に寄り添い「共に学ぶ」意識で臨む所存である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	ピアノ
教員名	中島　裕紀

職名	02. 教授

履修者数	9
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.56	4.84
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.22	4.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.89	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.44	4.55
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.78	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.89	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

大学の専門実技では、集計表には9名の履修となっているが、後期から復学した1名を加え、今年度10名の履修者がおり、新型コロナウイルスの影響で来日できていない留学生１名を除き、ピアノ専攻（留学生を含む）、Konzertfach、教職実践専攻ピアノの9名からの回答を得ることができた。

レッスンには、出席状況もよく、一部学生を除いて、毎回の課題に対して熱心に取り組んでいた。また様々な生活上の相談を受けることも多く、教員とのコミュニケーションは良好に保たれていた。

集計にある１回のレッスンに対する練習時間は、1日の練習時間と勘違いして回答した学生がいた模様で、今後設問の表現に工夫が求められる。

レッスンそのものに対する評価が非常に高いことは、個人レッスンという形態で、教員への敬意を含めた結果と推測される。

●　問題点

学生自身に対する評価にばらつきがあるのは、自身の振り返り・反省がきちんとできている表れと思われる。レッスンそのものに対しては、集計からは、特に大きな問題は見当たらない。

●　改善の方策

今後も学生のモチベーションを高く保ち、各自が音楽の素晴らしさ、自ら演奏することの楽しさを感じながら学修できるように工夫をしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	ピアノ
教員名	太田　幸子

職名	03. 特任教授

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.84
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.80	4.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.80	4.55
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

令和3年は、4年生2名（留学生1名）、3年生1名、2年生1名（留学生）、1年生1名、計5名を担当。
4年生の留学生は往復4時間強かかり、練習時間の確保に苦労した学生でした。他の1名は、結婚し体調等を心配しましたが、無事卒業でき、本当に嬉しく思っております。
又、大学3年生の学生は、試験直前に、右手人差し指を骨折し、試験、学内演奏会等苦しい年でありましたが、努力で乗り越えました。

●　問題点

上級生になると、Ⅰ―cの項目は、本当に大事になります。

●　改善の方策

限られた時間内に、コミュニケーションを持ちながら、研究意欲を喚起させるように、指導していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	ピアノ
教員名	大場　文憲

職名	03. 特任教授

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.84
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.83	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	4.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.83	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.55
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

履修者6名全員から回答があった。内訳は1年生1名、2年生1名、3年生3名、4年生1名であった。3年生には60代の学生が含まれている。6名全員がとても熱心で、毎回十分な練習を積んできていることが、レッスンを通して感じられた。ただそれぞれの理解力も性格も異なるので、進歩の速度はまちまちである。しかし試験や演奏会で力が発揮できるようになり、達成感を持てるようになった。コメントでも「分かりやすく沢山のことを教えて頂いた」「どう曲と向き合えばよいのかきちんと分かるようになってきた」「新しいスキルを身につけることができた」「さまざまなアドバイスを頂き練習にも力を入れることができた」などがあった。

●　問題点

ピアノだけでなく様々なことにチャレンジしているために、練習時間の短い学生がいる。

●　改善の方策

さらに広い目で一人一人を見て、ピアノを通して人間的な成長の手助けができるよう心掛けたい。特に言葉の掛け方には注意したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	ピアノ
教員名	浦川　玲子

職名	06. 専任講師

履修者数	8
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.33	4.84
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.17	4.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.83	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.55
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.67	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

履修者8名の個人レッスン形式で、各学生はそれぞれに真摯に取り組んでいる。出席率は概ね良好であり、個々の練習時間は平均的である。教員の指導に対する評価は概ね高く、良好なコミュニケーションが取れている。目標到達度については、自己評価のやや低い学生もいるが、概ね平均値を示している。

●　問題点

目標を立ててその達成に向けて努力し、自らの力を養っていくことに関して、達成感が十分に味わえていない学生もいる。

●　改善の方策

教員は丁寧に機会を逃すことなく指導を重ね、学生たちをより良い方向へと導いていくように努めていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	ピアノ
教員名	野田　説子

職名	07. 特任講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.84
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	4.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.55
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

　大学は、専門が1年2名
副科は1年11名　２年1名　　3年6名　　4年2名
大学の専門の学生2名は、附属からの学生。二人とも大学の授業についていけるか心配していたが、1名は出席も良好で非常に頑張って取り組んだ。もう1名は後期に体調不良が続き後期試験も受けられるかどうかと危ぶまれた。

●　問題点

出席は概ね良好ではあるが、音楽の基礎力が弱い。

●　改善の方策

　学生とのコミュニケーションを取りながら、何が問題になっているのかを一緒に考え、具体的に示していくことを心がける。
また、自信や意欲が失わないように努める

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	ピアノ
教員名	浅野　和子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.84
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	4.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.55
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

学生は短大の音楽教養→短大ピアノ科→大学編入と７年間レッスンした社会人1名。
集大成として、音楽の作り方、音色の研究、緊張に対する考え方、などを目標にレッスンしました。
遅刻や無断欠席もありません。
譜読みが早く、１度指摘したところはすぐに反応します。
曲に対しても作曲者やアナリーゼをきちんと勉強していました。
とても熱意があり良い学生です。卒業後も研鑽を積まれさらに高みを目指されると思います。

●　問題点

特になし。

●　改善の方策

特になし。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	ピアノ
教員名	泉　玲子

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.84
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.55
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

現状の説明・・・授業形態は個人レッスンである。2021年度の受講者は3名、内訳は２年２名、３年１名で、全員から回答を得た。正直に言って、非常勤講師として26年間務めさせていただいている中で、2021年度のピアノ専門の3人の学生は最高であった。誰一人として後ろ向きな学生も怠惰な学生も無く、全員が非常に熱心で、勤勉に取り組んでいた。アンケートの結果も、今までにはあり得なかった完璧なものであった。

●　問題点

特にズレを感じるところはない。

●　改善の方策

今年度は良い結果ではあったが、それは学生に恵まれたということなので、油断することなく、常に一人ひとりにとって最善のアドヴァイスができるように、引き続き努めたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	ピアノ
教員名	亀山　久美子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.84
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	4.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.55
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本年は大学四年と一年のピアノ専門生２名から回答を得た。
設問Ⅰ、Ⅱ、Ⅲともに５の回答を見る限り、
二名とも１年を通して、非常にピアノへの関心の高さ、意欲的で熱心な取り組みを見せてくれていた。
卒業を控えた四年生は四年間の中で最も積極的な姿勢を見せてくれ、今までは断念することもあった難曲への挑戦と勉強を自主的に行っていた。
前年からのコロナ禍により様々な変更もあったが、レッスンや対話での指導にも大変良く応えてくれていたように思う。
第二高等学校からの持ち上がりで新一年生となった学生は元から学習意欲も意識も高く、なるべくモチベーションを更に高みに上げるべく、難易度を上げた目標やレベルアップへとポイントを絞った指導を心掛けた。
総合的に見て、今回のアンケート数値から学生の求めているレッスンと学びを近い形で実現できたと解釈すれば、今後の指導の方向性を決めやすくなったと言える。

●　問題点

アンケート結果に特に問題はなし。
細かい反省点や改善点はレッスンの都度往々にして有り。

●　改善の方策

学生のアンケート数値に特に問題は無いが、
今回の指導の方向性は尊重しつつ、学生のリアルな反応を併せたポジティブな指導を心掛けたい。
常に学生の気持ちに配慮したコミュニケーションと声かけを続けるとともに、学生の様子を注意深く見守り、積極的な指導と長期的な指導を使い分けていかなければならないと感じている。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科ピアノ
教員名	小林　律子

職名	02. 教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.60
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.61
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.63
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.88
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.00	4.81
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

2021年度、教職実践専攻3年次生1名の副科ピアノを担当した。入学当初より進路に対しての意識が大変高く、夢の実現に向けて着々と駒を進めている印象が強い学生である。
副科ピアノにおいてもピアノ以外のこなすべき多くの課題とのバランスをとりながら、着実に取り組めていた。　幼少期よりヴァイオリンを学習していたこと等、音楽との関わりが長いことからもわかる様に、ソルフェージュの能力や理論の理解にほとんど問題がない。このことも実技の習得が順調に進む要因であると言える。
アンケートの集計結果からも学生の学修における姿勢がよく現れていると思う。年間を通して副科ピアノに対しての達成感、納得感が見受けられる内容である。

●　問題点

特にない。

●　改善の方策

来年度最終学年を迎える学生にとってはかなりハードなスケジュールになることが予想できる。学生の状況をよく理解し細かく配慮できる様心がける所存である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科ピアノ
教員名	中島　裕紀

職名	02. 教授

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.60
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.61
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.25	2.63
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.88
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.81
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

大学副科ピアノでは、5名の履修者の内、後期に長期欠席となった1名を除いた4名から回答を得ることができた。

副科ピアノでは、単にピアノの演奏技術の向上を求めるだけではなく、ピアノという楽器の演奏を通じて、音楽的な要素を総合的・分析的に捉えたり、音楽全体の構造の把握に努めたりすることによって、専門分野を含めた音楽表現に役立てていく目的を持っている。

その点で、比較的易しい曲を音楽的に追究していくレッスンの方式をとったが、集計の上でも、学生たちに趣旨が伝わり、受け入れられていたことが推察される。

自由記述に「一曲を音楽的に仕上げられるようになって良かったです」というコメントがあったことは、喜ばしいと捉えている。

●　問題点

レッスンに対する評価は非常に高く、集計から特に問題点は見られない。また、学生自身の評価もこのレッスンを有効に捉えていることが現れている。

●　改善の方策

今後とも学生のモチベーション向上を目指しながら、学生一人一人が楽しく副科ピアノに取り組めるように工夫をしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科ピアノ
教員名	太田　幸子

職名	03. 特任教授

履修者数	8
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.86	4.60
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.61
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.86	2.63
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.86	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.88
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.71	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.14	4.81
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.57	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.86	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

令和3年、副科履修者8名を担当。
1人はコンクール参加のため欠席。全体に出席も良く、何の問題もありませんでした。
又学生の自由記述、5名程あり、満足してレッスンを受けていることが伺え、嬉しく思います。

●　問題点

Ⅱ―e、この数値が低いのは、回数は十分に守られているが、急に問題が生じた時に職員との打ち合わせにより、時間が守られ無かったことであると思います。
いつもの事ではないため、ある程度は仕方がないと思います。

●　改善の方策

学生達が意欲を持ち、楽しさが感じられるような指導を心掛けたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科ピアノ
教員名	大場　文憲

職名	03. 特任教授

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.83	4.60
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.61
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.17	2.63
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.88
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.83	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.81
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.67	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

履修者6名全員から回答があった。内訳は2年生1名、3年生3名、4年生2名であった。6名はさまざまなレベルだが、それぞれがたいへん熱心に取り組み、1年間でかなりの成長があった。自分の専門に時間を多く取られる中、ピアノの練習時間が5時間以上が1名、4時間以上が2名いたことは嬉しい。副科ピアノを学修することにより、音楽的視野が広がり、それぞれの音楽経験が豊かになれば、学ぶ目的が果たせたと思う。

●　問題点

練習時間が取れない中でスキルを上げる。

●　改善の方策

それぞれのレベル、性格を十分に理解し、無理なく、しかしスキルが上がるような選曲を心掛ける。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科ピアノ
教員名	浦川　玲子

職名	06. 専任講師

履修者数	12
回答者数	12

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.60
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.61
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.25	2.63
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.42	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.88
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.67	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.75	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.67	4.81
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.42	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.58	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

履修者12名の出席率は概ね良好で、一定の意欲を持って授業に臨んでいる。予習練習については個人差が大きい。教員とのコミュニケーションは概ね良好だが、レッスンの内容に対する要望も潜在しており、信頼関係の構築が鍵となる。目標達成度は概ね高く、一定の成果をもたらしている。

●　問題点

教材選択やレッスンの進め方について、学生たちの潜在的な要望をもれなく掬い上げ、より適切なレッスンを展開していく必要がある。

●　改善の方策

各学生とのコミュニケーションを深め、信頼関係を構築していくことが最重要である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科ピアノ
教員名	野田　説子

職名	07. 特任講師

履修者数	20
回答者数	17

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.47	4.60
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.41	4.61
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.35	2.63
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.65	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.94	4.88
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.88	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.94	4.81
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.41	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.71	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

副科は1年11名　２年1名　　3年6名　　4年2名
大概の学生は出席も良好ではあるが、大学の副科の学生達は、演奏会も多く日常的に忙しいようだ。そのため練習がなかなか取れていないない。

●　問題点

音楽の基礎力が弱く、
練習をしてこない学生が多い。

●　改善の方策

学生とのコミュニケーションを取りながら、何が問題になっているのかを一緒に考え、具体的に示していくことを心がける。
また、自信や意欲が失わないように努める

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科ピアノ
教員名	浅野　和子

職名	08. 講師

履修者数	13
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.64	4.60
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.55	4.61
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.73	2.63
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.82	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.82	4.88
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.82	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.91	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.82	4.81
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.18	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.82	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.91	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

受講生の半数が第二高校卒業生であった為、初心者はほぼいませんでした。
全ての学生が遅刻もなく、無断欠席もありません。
レベルは様々ですが、忙しい中で練習もきちんとやって来ました。
初心者の留学生が1名いましたが、とても練習熱心でわからないところはすぐに連絡して来て次のレッスンには解決し、どんどん新たな曲に挑戦しています。
言葉も徐々に伝わるようになりました。今後が楽しみです。

●　問題点

Ⅲ.a「開講時に示された到達目標を充分に達成できた」が「どちらとも言えない」がいた事。

●　改善の方策

1年生の場合、実力があまり分からずに曲や試験曲を与えてしまうことがあるので、今後はきちんと見極めて、途中で試験曲を変更することがないように課題を与えたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科ピアノ
教員名	泉　玲子

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.60
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.61
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.63
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.88
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.33	4.81
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

授業形態は個人レッスンである。副科ピアノに際して、ピアノを弾くということと同じくらいに目標としているのは、ピアノ曲のレパートリーの広さを生かし、なるべく色々な時代の多くの作曲家の作品に触れ、その多彩な様式・楽曲形式を経験して音楽的な教養の助けとすることである。
2021年度は3名の学生の副科ピアノを担当し、全員から回答を得た。内訳は、1年３名である。今年度はレベルには関係なく総じて真面目に取り組んでいたと思う。

●　問題点

Ⅱeのところで、４の回答者が2名あった。本務校の業務等で何度か休講にしたことがある。回数分の補講を行ったが、時間が守られていないということになったのだと思う。
Ⅲaでも、4の回答が2名あった。

●　改善の方策

休講の場合の補講の確認をはっきりさせるようにしたいと思う。到達目標を達成できたという自覚が持てるように、きめ細かい目標の設定を心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科ピアノ
教員名	亀山　久美子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.60
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.61
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	2.63
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.88
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.81
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本年は大学四年（１名）、三年（１名）と一年（２名）の計４名から回答を得た。
設問Ⅰ-a（出席）とⅠ-b（熱意を持って～）に関しては全員が良く出席しており、公欠であっても学生からの振替の依頼は積極的であった。
副科ピアノに対する取り組みも熱心で、各々曲への取り組みや個性の違いを良く把握でき、こちらも興味深く学生個々の情報を知ることが出来た。
設問Ⅰ-c（練習時間）については２、及び３、５の回答で見られる通り、学生によっては練習時間の確保に苦心したことが伺える。
どうしても専門や学業との兼ね合いが難しく、こちらとしても学生の置かれている環境に配慮し特に注意深く慎重に指導と指示をするよう心掛けた。
設問Ⅱ-a、b、c（レッスン内容と教員について）と設問Ⅲ-a、b、c（レッスンに対する評価）については全て５の回答を得た。
今年度のレッスンや指導の方向性や内容を推し量り、今後に繋げられる結果であったように思う。

●　問題点

アンケート結果に特に大きな問題はないが、設問Ⅰ-c（練習時間）に関しては今後も改善点を探りたい。
細かい反省点や改善点はレッスンの都度往々にして有り。

●　改善の方策

学生のアンケート数値に特に大きな問題は無いが、
設問Ⅰ-c（練習時間）に関しては、学生が上手く時間を使えるような練習法や時間配分などの具体的なサポート案を柔軟に提示していきたい。
今回の結果を踏まえ、生かせる指導の方向性は引き続き尊重しつつ、学生のリアルな反応を併せたポジティブな指導を心掛けたい。
専門と同様に常に学生の気持ちに配慮したコミュニケーションと声かけを続けるとともに、学生の様子を注意深く見守り、積極的な指導と長期的な指導を使い分けていかなければならないと感じている。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科ピアノ
教員名	藤原　新治

職名	08. 講師

履修者数	11
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.60
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.61
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.13	2.63
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.88	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.88
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.88	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.88	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.88	4.81
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

レッスンをしていく中で生徒の技術や意欲、やりたい方向性などを熟考し選曲をしている。生徒によってはレベル相応または少し難しい曲に挑戦させるなどして、一年で少しでも上達したと双方が思える年であったと思う。少ない練習時間とレッスン時間ではあるが効率的に指のトレーニングをさせることで指の感覚劣化しないようにしている。

●　問題点

平均練習時間をいかに上げるかが課題である。なるべく好きな曲に挑戦させたり、こちらから沢山提案して目を輝かせた曲を弾かせたりすると練習時間は増す傾向にあるが、生徒によってはやはり20分のレッスンではそこまで重要視されないのが現状であると考える。

●　改善の方策

やはり譜読み能力と左右非対称の動きに慣れていない生徒は練習時間が低い傾向にある。なるべく読みやすい版を使ったり、かなり初歩の教材を使って初見奏をひたすらさせることで譜面を見ながら弾くということに慣れてもらい、ピアノアレルギーを無くすことを徹底する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科ピアノ
教員名	藪田　京子

職名	08. 講師

履修者数	9
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.44	4.60
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.61
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.50	2.63
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.89	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	4.88
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.89	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.81
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.56	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.89	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は９名の学生が当科目を履修し、各自がレッスンで課題の曲に取り組み、試験に向けて練習を重ね、実技試験で評価を受けた。体調不良で欠席数が増えがちな学生が複数いたが、過大な負担となるような課題は避け、無理のない日程で試験まで準備していく事ができたため、十分に学習目標を達成できていた。設問１のｃでの練習時間について、２時間から３時間という回答が多数を占めているが、その成果は演奏に表れていたように思う。設問１のｂは、副科実技に対する自分の取り組みを評価する問いであるため、５点に該当する「強くそう思う」が少ないのは当然と言えよう。全ての学生は20分に集中力を発揮し、数か月に及ぶ練習をコンスタントに続けられていたので、設問３の全ての回答が、到達目標の達成を表している。

●　問題点

設問１の全ての回答で、教員側から見る実態より低い自己評価となっている。出席については事情は了解していたし、練習時間が少ないようで実際は上達できていた、という事は、かなりの熱意を持って学生がレッスンに臨んでいたという事だと考える。

●　改善の方策

例年のように、具体的な目標を見据えた到達目標の設定のために、学生と話し合う事を続け、過不足のない効率的なレッスンを展開していく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	ピアノ
教員名	藤井　一興

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.84
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.55
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

科目名	ピアノ
教員名	中島　剛

職名	06. 専任講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.84
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	4.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.55
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科ピアノ
教員名	中島　剛

職名	06. 専任講師

履修者数	13
回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.23	4.60
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.54	4.61
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.31	2.63
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.88
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.92	4.81
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.69	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.92	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.92	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

声 楽

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	02. 声楽
科目数	11

履修者数	80
回答者数	57

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.68	42	12	3	0	0	57	0
				73.7	21.1	5.3	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.70	44	10	2	1	0	57	0
				77.2	17.5	3.5	1.8	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.82	18	3	5	13	18	57	0
				31.6	5.3	8.8	22.8	31.6		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.88	53	1	3	0	0	57	0
				93.0	1.8	5.3	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.98	56	1	0	0	0	57	0
				98.2	1.8	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.86	52	3	1	1	0	57	0
				91.2	5.3	1.8	1.8	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.89	54	1	1	1	0	57	0
				94.7	1.8	1.8	1.8	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.86	52	3	1	1	0	57	0
				91.2	5.3	1.8	1.8	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.68	42	13	1	1	0	57	0
				73.7	22.8	1.8	1.8	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.95	54	3	0	0	0	57	0
				94.7	5.3	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.95	55	1	1	0	0	57	0
				96.5	1.8	1.8	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	声楽
教員名	佐藤　泰弘

職名	03. 特任教授

履修者数	4
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.81
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.93
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	4.04
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.00	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	3.50	4.81
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	3.50	4.89
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	3.50	4.85
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.63
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

声楽専攻学生にとって、身体そのものが楽器であるため、体調を整えてのレッスンするというアプローチは、学生達には非常に敏感な感覚を持っていた。声楽履修生はみな、しっかりと練習をして真面目に真摯に声楽の勉強に没頭して取り組んでいる

●　問題点

一部学生には、コロナ禍ということもあり、学生が発熱して急遽レッスンが出来なくなることが何度もあり、レッスンの補講を用意したり、不定期なペースになってしまった学生もいた。中国人留学生の1人は、異国の日本で急激な体重の増加により、内臓系の疾患を持つ学生もいた。

●　改善の方策

コロナ禍における今だからこそ、音楽学生が将来に向けて地道に努力していく姿勢が必要であり、また健康管理や声楽家としての体調管理についての教育が必要不可欠な時代である事を認識した。常に良好な健康状態に保つ事も声楽家にとって、実力の内であろう。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	声楽
教員名	山崎　明美

職名	03. 特任教授

履修者数	7
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.81
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.25	4.04
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.81
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.75	4.85
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.63
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

大学において専攻声楽の学生7人を担当している。アンケートは、アンケート実施時期に欠席であったもの3名を除く4名から提出された。声楽実技は個人レッスンの形式で行われ、必要に応じて、伴奏者が同伴されると言う形式で進められる。専攻声楽におけるレッスン目的は、1、声楽技術の習得・呼吸法、レガート唱法の習得、なめらかな声区転換などの技術の追求、読譜能力を高めるなど、2、さらにそれらを向上させること。3、言葉への十分な取り組みを行うこと。語学としての基礎知識を習得する事はもちろん、正確で美しい発音、内容を正しく発音する。想像力を持って表現するなどである。4、曲の背景を理解すること…作曲家について、その時代背景、音楽背景、他の作品との比較、またテキストとなっている詩への深い理解、詩人の事などである。また、オペラ、歌曲、宗教曲等のそれぞれの分野の基礎となるレパートリーの学習を4年間に学んでいくことを柱としている。実技は個人個人の特性があり、その特性をいかに伸ばし充実させていくかが要となる。前期、後期それぞれに実技試験があり、試験はそれぞれ課題が設けられている。レッスン時間は、学生との打ち合わせを年度初めに行い、他の授業に差し障りのない時間を確保する。　1年生1名、2年生3名、3年生2名、4年生1名を担当している。アンケートは本人の受講についての質問3項目、教員の授業の進め方についての質問5項目、達成度等を問う質問3項目よりなる。回答は積極的肯定:5、消極的肯定4、普通3、消極的否定2、積極的否定1で回答されている。アンケート結果は4.75から5であり、他の同一専攻平均点を上回っている。

●　問題点

このレッスンの回数や時間は守られていたと言う質問に対し、ある程度そう思うと言うところが1名出た点であろうか。

●　改善の方策

レッスン回数30回は確保している。むしろ補講を行い30回を超えたレッスンを行っている。学生がそのように認識したと言うことを心に留め、今後も学生の身につくレッスンを続けていきたい。アンケートからは、楽しく学ぶことができた、多くを勉強したなどの記述もあり、授業目的はかなり達成されたかと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	声楽
教員名	伊藤　和広

職名	04. 准教授

履修者数	8
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.88	4.81
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.63	4.04
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.81
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.85
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.63	4.63
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は、1年生2名、2年生2名（2名共留学生）、3年生3名、4年生1名（社会人学生）の計8名を担当しました。今年度の8名は、それぞれが抱えている状況も異なり、個性も豊かでしたが、総じて学習意欲は高く大変熱心に受講していました。これらの現状を踏まえ、集計結果を分析しますと、Ⅰaの4.88の出席についてはかなり高い平均点であると考えます。続いてⅠbの5.00は全員が熱意を持って受講していたということで、私が感じていた通りの結果でした。Ⅰcの設問に対しては少し低めでしたので、練習法を指導する必要があると考えます。Ⅱa～eは全てが5.00と私への評価の高さに大変嬉しく思います。Ⅲaの4.63、Ⅲbとcの5.00についても非常に高い平均点であると考えます。以上、シラバスに提示されている科目の目的に関して概ね達成できたということが今年度の状況です。

●　問題点

教員と学生感に存在する意識のズレは、今回の集計結果からは特に感じません。

●　改善の方策

Ⅰcについて、個人差が大きいようですが、全員に対して練習法を具体的に説明する必要があります。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	声楽
教員名	武藤　直美

職名	04. 准教授

履修者数	4
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.81
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.04
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.81
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.85
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.63
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

2021年度の声楽専攻学生は4名（大学1年生から4年生）であり、全ての受講生に対し、45分の個人レッスンをシラバスに掲示された授業計画に沿って行っていた。
受講生は積極的にレッスンに臨んでおり、声楽に必要な外国言語及び楽曲分析を的確に実施しており、技術の向上がみられた。3年生の学内演奏会や卒業試験への準備もきちんとなされており、
アンケート集計結果からも1回のレッスンのために5時間以上の予習や開講時に示された到達目標を充分に達成できたとの回答を得た。

●　問題点

今回の結果から判断すると、指導方法については特に問題はないと思料する。

●　改善の方策

次年度も授業計画にそったレッスンを基本とし、受講生の更なる技術の向上を目的とし、スムーズな指導が行われるよう、準備にあたる所存である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	声楽
教員名	岩見　真佐子

職名	06. 専任講師

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.81
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.50	4.04
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.81
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.85
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.63
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.75	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本年度の同科目シラバスに基づき、学生自身で当該授業履修の実感を伴った振返り/PDCAが進められるように、対面レッスン及びオンラインレッスン（公欠C/留学生/本人の希望）の形態で、計30回の実技レッスンを開講。受講者の履修状況に応じた開講曜日時間帯の設定、必要に応じてレッスン補講の形で個々の目標を共有。年間を通じ声楽実技としての個人/クラス授業として成果をお互いに共有しながら、各自の発達段階に応じた演奏演習を試み、音楽実践への目標を引き上げるべく基礎力・応用力・表現力の拡充をはかった。
集計結果では各自の取り組む曲については、本人の希望を優先した形で可能な範囲内であったと推察される。負担を強いることなく練習課題での技術的なサポート、問題解決のための自修力の拡充、発展的な視野・声楽的な目標意識、学ぶ愉しみや専門的な興味を感じながらレッスンをすすめられた結果がみられた。
現状として下級学年次においては、専門/実技と他の履修科目における学びを連動させる音楽大学全体での学修視野の広がりには、具体的な連携のためのサポート指導が確実な効果をあげると感じられる。また、演奏演習として求められる多様な資質を有し、音楽の総合的な視野に長けている学生については、声楽歌唱のための身体的な基礎拡充に具体的なアドヴァイスを用意することで、大きな成果がみられた。
本年度の新たな担当現状としては、留学生のオンライン対応の報告が追加された。双方の環境設定をすり合わせながら基礎力拡充を実践。対面には及ばないが、音楽専門大学として本学の教育内容への興味は維持されていることが期待される。
感染症禍学ぶ社会人学生、復学を果たした長期履修学生については、必修授業の枠がない本年度はオペラ研究授業、外部コンクール参加への発展的な取り組みがみられた。生涯学習へ開かれた本学の学びの現状として、レッスンへの取り組みと総合的な意識も拡充されており、更なる成果が今後期待される。

●　問題点

自習力を身につけるための具体的な指導、個々の能力を引き出す発展的な指導、授業到達目標の実感をもった設定、これらレッスンでの取組みが連動して演奏表現力を身につけ成果を上げるためには試験発表にとどまらず、自らの舞台発表や表現演習の場があること、が必須である。感染症禍で新たに得た「オンライン」での振返り共有と「舞台発表会」での表現演習、この双方の形態で当該科目の授業取組みの成果を共有できたことは、学びの大きな収穫であった。

●　改善の方策

個人の能力に応じた歌唱課題の実践は、本人の専門的な知識や経験の裏付けを伴うものであり、双方のバランスを図り成長を促す内容であることが望ましい。本講義では大学2年次を基礎的な土台作りの完成学年と設定しているが、上級学年での発展的な視野と総合表現力には、本人の希望と精神的な対応力の理解も含めて、各学生の学びの拡充に注視してゆく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	声楽
教員名	大島　洋子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.81
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	4.04
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.50	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.75	4.81
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.85
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.63
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

2021年度大学生は4名。
内訳は4年生１名、３年生1名、２年生２名でした。
レッスンは毎週木曜、川越校舎で。

基本のレッスン時間45分に学生個々に毎週10分をプラスして「学生の学修支援の為の『オフィスアワー』設定」としました。
計55分に質問・相談を受けますが、それが無ければ55分のレッスン時間を取りました。

レッスンは最初に発声練習をして声を温め歌える状態に慣らして行き、練習曲でメロディを歌う事で音程とリズムを伴奏に合わせて正確に表現出来る様に取り組みました。
個々の学生の進み具合により2021年度はConcone25番と15番を使いました。

曲目は個々の進み具合と、学年により新年度から取り組まなければならないものを春休みに伝えておき、歌曲とアリアを合わせて数曲の中で本人の希望する曲から始めました。

●　問題点

学生4人は概ね真面目に練習をして来ますが、人により出来上がりには時間が掛かりますし、先週のレッスンが全く振り出しに戻る事も多々あります。学生にはその人の持っている資質に合わせてのレッスンを行いますが、それでも結果として同じ事を毎回言う事になり、言われた側としてはその事が歌を歌うに当たりどれ程重要であるかの認識が薄い様に思われました。

●　改善の方策

〔問題点〕の箇所で
「先週のレッスンが全く降り出しに戻る。」「毎回同じ事を言うが、言われた側はその事がどれ程歌に重要かの認識が薄い」と記述しましたが、2021年度の学生の自由記述に
『難易度は少し高めだけれど、1つ1つの課題の達成感がある』と書かれて有り、目標に向かっては教える側も寄り添いながらも妥協はせず、コツコツと積み重ねて行く稽古に道が付くと。新たな年度にも学生に添わせて行く心で取り組みたいと考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科声楽
教員名	佐藤　泰弘

職名	03. 特任教授

履修者数	13
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.57
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.50
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.50	1.73
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.50	4.90
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.90
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.87
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.73
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.97
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

副科声楽を履修している学生達の殆どが、副科だからと苦痛に感じたりせず、充分に楽しんで歌っている様子が見られる。特に2年目の履修になる学生は、かなりレパートリーが広がっていくことにより、歌唱レヴェルの大きなスキルアップがあった。

●　問題点

他の専攻実技にかなり時間が取られる事、それに加えて一般科目の学習にたくさんの履修を抱えている学生も少なくないという背景があり、その上、それほど譜読みに時間をかけなくても初見でもある程度歌えてしまう能力に恵まれている学生も多いので、昨年度に引き続き予習不足の欠点の解消は出来なかった。もっと予習に時間をかけられれば、レパートリーを拡充する事がもっと出来るのに誠に残念である。

●　改善の方策

与える楽曲に大いに興味を引くようにすること、そして宿題を出す際、楽曲を与えるだけではなく、その楽曲の背景を調べさせたり、またその楽曲の詩の理解を促すような宿題を出す教師の工夫も必要である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科声楽
教員名	伊藤　和広

職名	04. 准教授

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.57
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.50
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.33	1.73
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.90
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.90
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.87
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.73
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.97
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は、3年生2名、4年生2名の計4名が受講し、アンケートには3名が回答しています。今年度の4名は全員が男子学生で、大変熱心な4名でした。歌うことと声楽に興味があり、専門学生に近い熱意を持って受講していたように感じています。現状を踏まえ、集計結果の分析をしますと、Ⅰc以外は全て5.00と大変良好であると考えます。Ⅰcについては2.33と低めですが、それぞれ自身の専門が大変忙しそうでしたので、譜読みに時間のかかるような課題は与えませんでした。以上、シラバスに提示されている科目の目的について概ね達成できたということが、今年度の状況です。

●　問題点

教員と学生間に存在する意識のズレは、今回の集計結果からは特にありません。

●　改善の方策

副科生に対して、少しでも多くの練習時間を確保してもらえるように、具体的な練習法を説明します。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科声楽
教員名	岩見　真佐子

職名	06. 専任講師

履修者数	27
回答者数	24

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.46	4.57
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.46	4.50
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.71	1.73
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.92	4.93
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.92	4.90
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.88	4.90
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.83	4.87
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.73
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.96	4.97
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.96	4.97

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本年度の当該授業シラバスに基づき、副科履修の2年間を通じたレッスン実践を目標に設定した2年目となった。教職課程履修者に向けた内容でシラバスを具体化し各学生と内容を共有し、年間30回の対面レッスンを開講。後期は一部オンライン（復学留学生対応）学生を含めて実施。実際の開講人数は登録数と異なり前期後期の人数変動も見られた。
各自の背景にある専攻実技の尊重と応用、ウィーン研修への声楽からの専門的な理解・学内演奏・アンサンブルなど授業履修に負担にならない範囲で、また受講者の学びの深さ、理解、自修力の差、を考慮。更にレッスン内評価に個人的な格差が生じないよう配慮が必要になっている現状があるため、3クラスでの対面個人レッスンを実施。本年度終了時点では、能力の個人差、修学困難な学生への対応、各自の学びの背景に重なっている複雑で繊細な環境、教職採用試験受験準備に向け声楽での専門的な内容を身につける必要がある学生の要望まで、対応範囲は更に拡大してきている。感染症禍の対応は、単位認定の内容を精査しつつ、実感をともなう授業の実施には今年の実践的なクラスレッスンは有効であった。
開講クラス：履修Ⅱ継続クラス/管弦打副科教職履修クラス/ピアノ・音楽療法・作曲副科教職履修クラス。
開講曜日：月曜午前Ⅱ限クラス/水曜Ⅰクラス/水曜Ⅱ-木曜クラス
個人のレヴェルに応じて「共通課題」に取り組むことで専攻力差にも一定の内容で対応が実現するとともに、自修力の差は顕著に表れており、集計結果には見られない部分で声楽の専門的な学びの視点は拡大されたと推察される。

●　問題点

授業履修の際にはシラバスにて共有されているが、その理解に個人差がみられる。更に、大学での学びの背景の影響も受けやすく年間を通じて学びへの意欲は変動が現れる。安定した実技レッスン受講、学びへの意欲については、深く情報を得ておくことも肝心である。

●　改善の方策

継続履修の先に、大学4年次の教育実習と教職採用試験が設定されている科目であるため、声楽演奏表現のより具体的な理解が求められている。表現力・心と声・心と身体の両立が個々のレヴェルで実感できる共通課題設定が必要である。クラス別に設定する教材は無理のない範囲で実技実践で深めてゆくことができるものを設定する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	声楽
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.81
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.93
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.67	4.04
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.67	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.67	4.81
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.85
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.63
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

科目名	副科声楽
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.57
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.50
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.00	1.73
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.90
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.90
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.87
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.73
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.97
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

管弦打楽器

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	03. 管弦打楽器
科目数	18

履修者数	65
回答者数	61

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.74	49	9	2	1	0	61	0
				80.3	14.8	3.3	1.6	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.84	52	8	1	0	0	61	0
				85.2	13.1	1.6	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.52	24	7	15	7	8	61	0
				39.3	11.5	24.6	11.5	13.1		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.93	57	4	0	0	0	61	0
				93.4	6.6	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.92	57	3	1	0	0	61	0
				93.4	4.9	1.6	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.90	56	4	1	0	0	61	0
				91.8	6.6	1.6	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.93	58	2	1	0	0	61	0
				95.1	3.3	1.6	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.82	55	3	1	2	0	61	0
				90.2	4.9	1.6	3.3	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.48	35	21	4	1	0	61	0
				57.4	34.4	6.6	1.6	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.90	55	6	0	0	0	61	0
				90.2	9.8	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.95	58	3	0	0	0	61	0
				95.1	4.9	0.0	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	管弦打
教員名	宮野　陽子

職名	02. 教授

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.40	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	4.12
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.98
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.95
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.80	4.51
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度もそれぞれ頑張って取り組み、成長が見られた。
弦楽器の場合、レッスン以外にも、オーケストラやアンサンブルで学ぶ機会が多く、そういうものに積極的に参加している人が、ソロの演奏でも大きな成長を遂げていた。
一方、体調不良になることが多く、レッスンを休みがちな人は、思うように曲が仕上がらなく、自分でもジレンマに陥っている様子だった。

●　問題点

体調不良で欠席する場合、補講の時間がとれない。皆、授業が忙しく、私が川越に行く日は全くスケジュールが合わない。
オーケストラの譜読みに追われ、ソロの曲の練習をする時間がない、と言われる。

●　改善の方策

譜読みのコツなども教え、効率よく練習できるスキルを身に付けることも必要。
隙間時間の活用を上手にする。
体調管理も念頭に入れて生活する。
などの指導も積極的に取り入れて行こうと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	管弦打
教員名	益田　善太

職名	06. 専任講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.12
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.98
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.95
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.51
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度の専攻フルートの履修生は2名で、2年次1名、2年次1名であった。各々、1年次から、もしくは入学前から指導している学生で、それ相応の信頼関係が築かれた上でのレッスンとなった。レッスンは週一回約1時間でコンスタントに行えたと思っている。各学生が向上心を持ち、どうしたら上手になれるかと言う問題意識を持ってレッスンに臨んでくれた事もあり、ある程度は良いレッスンが出来たのではないかと思う。アンケートにもそれが表れた様に感じている。時には叱る事もあるけれども、それが学生の上達として次につながるものになってくれたのは、これまでのコミュニケーションの成果と良い学生に恵まれたおかげであると思う。指導が受け入れられ実を結ぶのは、そこに技術的に納得がいく力量と、説明に信頼があって初めて成り立つものであるから、たゆまぬ努力を続けていきたい。

●　問題点

日々のレッスンには問題を感じないが、自ら考え、失敗していく中で、教わるのではなく学ぶ力を各学生が付けていく事が、今後のステップアップには必要不可欠になってくると思われる。

●　改善の方策

自ら考え、失敗しながら学ぶ時間を与える為に、教え急がず見守りながら待ってやる忍耐力が必要になってくると思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	管弦打
教員名	加藤　里志

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.12
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.98
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.95
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.51
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

科目の内容：実技(サクソフォン)
授業形態：個人レッスン
受講者数：2名
開講曜日：木曜日
出席良好で、熱意を持って積極的に取り組んでいた。開校時に示した到達目標には達していたと感じるが、学生自身の意欲と向上心が高く、達成感と次年度への課題が学生から明確に示されていた。次年度の成長も期待しつつ、サポートしていけるよう課題の提示、自主的な学習を導けるよう指導していきたい。

●　問題点

課題克服に要する時間配分、また課題に必要な技術と本人が希望する学習内容へのレベルの差。

●　改善の方策

個人レッスンのみならず、全体のスケジュール(合奏や室内楽、その他授業の課題)と個人の学習にさける時間をより明確にし、学習内容を絞り、本人と一緒に選曲を行う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	管弦打
教員名	須永　真純

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	4.12
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.98
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.95
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.51
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

クラリネット
個人レッスン
4年1名
3年2名
アンケート結果の現状をみると、練習時間と目標達成度合いに対して十分ではないと考える学生がおり、関係もうかがえる。

●　問題点

結果の考察すると、平均練習時間に対し十分ではないという判断の学生が、目標達成度合いにつながっている。もしくは、目的達成度合いが満足いくものではなく、それに対して自己練習時間が足りなかったと感じているのではないかと推察される。
教員側からの普段のレッスン時の状況から考えると、コロナ状況や家庭環境、などにより求めた課題とそれに対する練習時間へのズレがあるといえる。

●　改善の方策

目標設定や、それに対しての練習に取り組む時間などを具体的に提示したりする工夫が必要であると考える。
具体的には、目標が明確になれれば対する練習への工夫が見られるので、レッスン時に見逃さず評価していくことで、達成感を感じながらさらに努力を続けることにつなげたい。さらに、本番に対しての気持ちの入れ方や準備についても、本人に合わせながら、より踏み込んだ言葉がけで意識を上げ、集中力や本番までの努力の量を増やせるよう指導していく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	管弦打
教員名	中村　明子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.67	4.12
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.98
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.95
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.51
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

2021年度は専攻生3名（前期は4名）、副科1名を担当しました。
皆それぞれ、前向きに取り組んでいた様子がグラフから読み取れます。

●　問題点

I-c　レッスンの為の練習時間が平均より低いものの、きちんと結果は出ているので、効率の良い練習ができている為、と判断します。

●　改善の方策

後期から他門下へ移動した学生1人も含めて、学生一人一人が充実した学生生活を送る事が出来る様、そして前に進む力を発揮できる様に、今までと同様に寄り添って共に励みたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	管弦打
教員名	渡辺　由美子

職名	08. 講師

履修者数	8
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.13	4.12
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.98
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.95
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.88	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.88	4.51
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

　レッスンでは「自分を打楽器で表現するアイディアを実現するために必要なものは何か」について考えさせ、音楽を表現し伝える際に必要な実践的なスキルを磨き、イメージを具体化するためにさまざまなテクニックや表現力を修得させる。

　実技試験、レッスン、課題、門下発表会などを通して音楽応用力を拡大することを目的とする。資質能力や学ぶ姿勢の向上を念頭に置き、個々の学生の希望や学修の進度を踏まえつつ可能性を最大限に伸長する教育の実践を心掛けた指導を行う。

　学生は、大学での学びの目的や意義をしっかりと理解し、学校内での勉強会、楽器の技術向上は勿論、外部での演奏会やオーケストラ鑑賞、中高生の楽器指導などにも積極的に取り組んでいた。

●　問題点

　アンケートで改めて振り返るとレッスンに向けて楽器練習だけでは得られない知識を、図書館を利用するなど、広く音楽を学ぶ意識を植え付けたい。

・レッスンシラバスの活用
・レッスン目標に沿って行われていたか。
・予習、復習

●　改善の方策

・第一回目のレッスン時に年間予定を確認。
・個々の問題に対し状況に応じて再構築する。
・予習や復習の内容をレッスン時明確に伝え、より具体化する。
・学生の要望に対しシラバスと乖離した場合調整する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科管弦打
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.67
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.50	2.11
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.83
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.78
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.83
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.50
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.39
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

専攻学生同様、各学生のレベルに合った指導をしている。副科であるため高いレベルの演奏技術を求めるのではなく、楽しくフルートを吹いてもらうレッスンを心掛けている。回答はほぼ4～5に集中しているため、信頼関係も上手く築けている様である。今年度は初心者が多かったが、実際に上手く吹けるようになり、試験の成績が上がり喜んでいる学生もいる。

●　問題点

学生の準備不足もなく今年度は概ね良好であった。
自由記述欄を見ても学生は満足しているようである。

●　改善の方策

レッスン担当教員として、個人のレベルに合わせた、分かりやすいレッスンをさらに心掛けなくてはならないと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科管弦打
教員名	益田　善太

職名	06. 専任講師

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.67
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.11
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.83
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.78
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.83
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.50
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.39
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度の副科フルートの履修生は2名で、4年次1名、3年次1名であった。数年受け持つ学生でありコミュニケーションは取れていたかと思う。レッスンは週一回20分強で行った。レッスン自体は良い状態で行えたと思っているが、副科と言う立場上、学生自身の練習･準備はどうしても後回しになりレッスンの時に一緒に練習すると言う事も多くなる。努力･成果と意欲は双方向的な関係で上手く回れば相乗効果が生まれるが、時に悪循環も生じる。よって、本人の努力がレッスンの良し悪しにも大きく影響する。それはアンケートにも表れている様に思う。先ずはレッスン自体が楽しいものである必要は感じるが、次のステップとして練習してレッスンに臨むという基本の形を副科にも定着させなくてはならない。

●　問題点

練習をしてレッスンに臨むという基本姿勢を身に付けられる様にしなくてはならない。

●　改善の方策

先ずは楽器を続けたいと思う楽しさは必要であると思うが、練習不足を指摘して努力を促すように努めたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科管弦打
教員名	須永　真純

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.67
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.00	2.11
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.83
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.78
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.83
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	2.00	4.50
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.39
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

クラリネット
個人レッスン
2年1名（副科）
アンケート結果の現状をみると、練習時間と目標達成度合いに対して十分ではないと考える学生がおり、関係もうかがえる。
また、レッスン時間が守られていないとの指摘がある。

●　問題点

結果の考察すると、平均練習時間に対し十分ではないという判断の学生が、目標達成度合いにつながっている。もしくは、目的達成度合いが満足いくものではなく、それに対して自己練習時間が足りなかったと感じているのではないかと推察される。
少々曲の難易度が上がったため求めるレベルも上がっていたのではないかと思う。
また、レッスン時間が守られていないとの指摘ではあるが、レッスン近日の時間や日にちの変更が多かったと考えます。

●　改善の方策

目標設定や、それに対しての練習に取り組む時間などを具体的に提示したりする工夫が必要であると考える。
具体的には、目標が明確になれれば対する練習への工夫が見られるので、レッスン時に見逃さず評価していくことで、達成感を感じながらさらに努力を続けることにつなげたい。さらに、本番に対しての気持ちの入れ方や準備についても、本人に合わせながら、より踏み込んだ言葉がけで意識を上げ、集中力や本番までの努力の量を増やせるよう指導していく。
選曲に関しては候補を増やし、あらかじめどのような努力ポイントが必要かを明確に伝える。
また、レッスン時間が守られていないとの指摘については、できる限り学生と連絡をとり、納得できるやり取りを心がける。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	管弦打
教員名	大塚　哲也

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.80	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.20	4.12
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.98
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.80	4.95
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.51
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

科目名	管弦打
教員名	田中　洪至

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.12
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.98
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.95
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.51
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	管弦打
教員名	藤井　完

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	4.12
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.98
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.95
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.51
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

科目名	管弦打
教員名	松尾　賢一郎

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.40	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.40	4.12
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.98
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.95
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.80	4.51
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	管弦打
教員名	村越　麻希子

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.60	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.40	4.12
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.80	4.98
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.98
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.80	4.95
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.80	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.80	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.51
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.40	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

科目名	副科管弦打
教員名	香月　圭佑

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.67
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.50	2.11
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.50	4.83
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.50	4.78
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.50	4.83
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	3.00	4.50
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.39
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科管弦打
教員名	中村　明子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.67
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.00	2.11
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.83
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.78
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.83
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.50
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.39
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

科目名	副科管弦打
教員名	松尾　賢一郎

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.60	4.67
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.40	2.11
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.60	4.83
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.40	4.78
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.60	4.83
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.60	4.50
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.39
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.60	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科管弦打
教員名	村越　麻希子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.25	4.67
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.25	2.11
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.83
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.78
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.83
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.50
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.39
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

音 楽 療 法

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	05. 音楽療法
科目数	2

履修者数	7
回答者数	7

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.71	5	2	0	0	0	7	0
				71.4	28.6	0.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	7	0	0	0	0	7	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.43	5	0	2	0	0	7	0
				71.4	0.0	28.6	0.0	0.0		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.86	6	1	0	0	0	7	0
				85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	7	0	0	0	0	7	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	7	0	0	0	0	7	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	7	0	0	0	0	7	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	7	0	0	0	0	7	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.71	5	2	0	0	0	7	0
				71.4	28.6	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	7	0	0	0	0	7	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	7	0	0	0	0	7	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	音楽療法6b（実習を含む）
教員名	木下　容子

職名	04. 准教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.71
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	4.43
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.75	4.86
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.71
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

＜当科目の目的＞音楽療法の理論・技術を、音楽療法実習にどう生かすかについて学ぶ。また、学内実習発表に向けて、研究活動の意義を知り、データ収集・分析・客観的で説得力のある記述などの手法を身につける。
＜内容＞音楽療法実践での対象者の理解、伴奏の手法、音楽・非音楽的な対象者への即興的対応、対象者との関係性の構築などの実践の基礎技術を、授業と実習の双方から体得する。
また、学内実習発表の研究の指導を受け、研究の基礎技術も身につけていく。
＜授業形態＞実習は、実践・ロールプレイ・ディスカッションで行った。授業は、ロールプレイ・ディスカッション・講義形式で行った。
＜受講者数＞４名。
＜開講曜日・時限＞火曜日２限。

＜アンケート結果より＞
①Ⅰ－ａ、bより、学生が積極的に授業にも実習にも取り組んだことが分かった。Ⅰ－ｃ「１回のレッスンのために、平均どのくらい練習しましたか」についての結果は、平均よりやや低く、「５時間以上」と「３時間」に分かれた形であった。
②Ⅱについては、どの項目も数値が高く、平均と同値程度であった。このことより学生は、概ねこの授業や実習の指導に対して満足しているものと思われる。
③Ⅲについても同様で、どの項目も数値が高く、平均と大きな差はなかった。この結果から学生は、この授業や実習の目標を達成したと感じていて、なおかつ授業や実習から新しい知識や技術を獲得し、有意義に感じていることが明らかになった。

●　問題点

アンケート結果より、教員と学生間に大きな意識のずれは生じなかったように感じている。授業や実習において、学生一人一人に意見や感想、質問等を述べてもらい、学生同士や学生と教員が密にコミュニケーションしたことが影響しているように思う。

●　改善の方策

2021年度の担当学生については、先述したように学生と教員とで密にコミュニケーションし、学生一人一人の状態に合わせて指導したため、学生が意欲的に授業・実習に取り組んだ結果となった。しかし、そのような学生ばかりではないため、次年度以降も受講する学生の興味・関心・意欲等に合わせて授業を展開していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	音楽療法8（実習を含む）
教員名	木下　容子

職名	04. 准教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.33	4.71
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.43
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.86
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.71
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

＜当科目の目的＞卒業論文発表に向けて、論文を執筆する論理的思考力や客観的で説得力のある文章力・文章構成力を身につける。実習では、前年度までに体験して学んだ臨床知識・技術をさらに高める。また、それらを社会生活に活かす展望を得る。
＜内容＞卒業論文の各自の研究テーマを確立し、集団ディスカッションや個別指導を通して卒業論文を執筆する。実習では、対象者の理解、伴奏の手法、音楽・非音楽的な対象者への即興的対応、対象者との関係性の構築などの臨床技術を、実習と授業の双方から体得して高めていく。
＜授業形態＞実習は、実践・ロールプレイ・ディスカッションで行った。授業は、ロールプレイ・ディスカッション・講義形式で行った。
＜受講者数＞３名。
＜開講曜日・時限＞月曜日４限。
＜受講者の状況説明＞
３名とも実習・授業ともに熱心に取り組んでいた。授業では、卒業論文執筆のために自主的に研究を進め、教員の指導でさらに深めていく様子が年間を通して見られた。実習では、事前ミーティング・ロールプレイ・セッション・事後ミーティングの流れを現場ごとに実施し、臨床レポートも時間をかけて作成して提出していた。
＜アンケート結果より＞
①Ⅰ－ａ・ｂの結果より、学生が非常に積極的に授業にも実習にも取り組んだことが分かった。また、Ⅰ－ｃ「１回のレッスンのために、平均どのくらい練習しましたか」についての結果は、全員「５時間以上」と平均より高く、学生が非常に熱心に授業や実習のために練習したり勉強したりしたことが推察された。
②Ⅱ－ａ～ｅの全てにおいての４名の回答から、授業や実習の指導に対して非常に満足していると思われた。
③Ⅲ－ａ～ｃの回答からも、授業や実習を受けて「新しい知識や技術を獲得し視野が広がった」、「意義のあるものであった」と捉えていることが分かった。これは、コロナの影響でほとんどの実習が遠隔（オンライン・オンデマンド）実習が継続しているが、教員と学生がお互いに想像・創造性をもって遠隔実習に一致団結して臨んだこと、そしてそれが実を結んだことが影響していると思われる。

●　問題点

アンケート結果より、教員と学生間に大きな意識のずれは生じなかったように感じている。授業や実習において、学生一人一人に意見や感想、質問等を述べてもらい、学生同士や学生と教員が密にコミュニケーションしたことが影響しているように思われる。

●　改善の方策

2021年度の担当学生については、先述したように学生と教員とで密にコミュニケーションし、学生一人一人の状態に合わせて指導したため、学生が意欲的に授業・実習に取り組んだ結果となった。しかし、そのような学生ばかりではないため、次年度以降も受講する学生の興味・関心・意欲等に合わせて授業を展開していきたい。

音楽専門教育科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	06. 音楽専門教育科目
科目数	106

履修者数	1,295
回答者数	1,023

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%) 5	4	3	2	1	有効回答数	無効回答数
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	286	205	259	97	173	1,020	3
				28.0	20.1	25.4	9.5	17.0		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.58	726	199	69	22	7	1,023	0
				71.0	19.5	6.7	2.2	0.7		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.45	598	294	96	18	5	1,011	12
				59.1	29.1	9.5	1.8	0.5		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.81	78	37	94	213	596	1,018	5
				7.7	3.6	9.2	20.9	58.5		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.07	450	220	323	7	15	1,015	8
				44.3	21.7	31.8	0.7	1.5		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.92	122	216	615	43	23	1,019	4
				12.0	21.2	60.4	4.2	2.3		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.17	499	246	238	22	16	1,021	2
				48.9	24.1	23.3	2.2	1.6		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.38	614	225	145	27	9	1,020	3
				60.2	22.1	14.2	2.6	0.9		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.35	614	188	184	19	12	1,017	6
				60.4	18.5	18.1	1.9	1.2		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.47	667	184	161	7	3	1,022	1
				65.3	18.0	15.8	0.7	0.3		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.58	751	148	96	16	10	1,021	2
				73.6	14.5	9.4	1.6	1.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	740	161	109	7	3	1,020	3
				72.5	15.8	10.7	0.7	0.3		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.28	506	313	185	12	4	1,020	3
				49.6	30.7	18.1	1.2	0.4		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.44	630	240	125	16	9	1,020	3
				61.8	23.5	12.3	1.6	0.9		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	–	759	401	374	203	145	990	33
				76.7	40.5	37.8	20.5	14.6		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.58	598	154	64	14	7	837	186
				71.4	18.4	7.6	1.7	0.8		

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	作曲家の肖像と作品の魅力ⅡB
教員名	中島　裕紀

職名	02. 教授

履修者数	11
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	3.14	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.57	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.29	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.57	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.86	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.29	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.43	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.71	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.29	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
85.71	14.29	42.86	28.57	0.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業には、11名の履修者がいたが、アンケート当日の出席状況により、7名の回答を得た。

個人レッスンとは異なり、クラスでの授業ということで、新型コロナウイルス感染対策に対する個々の捉え方に温度差があった。希望者には、教室からリモートで授業の様子を視聴することができるような配慮はしたが、ハイブリット授業は行わないという大学の方針であったため、苦慮した学生たちもいた。

この授業は、クラシック音楽を専門としない学生に対する、クラシック音楽の教養を高めるもので、前後期含めて100ページに渡る自前のテキストと、自前の鑑賞教材を使った授業を展開したが、附属校で既に音楽を勉強した学生から、全く基礎的知識のない学生まで、クラシック音楽への興味関心のベースが異なっていたため、集計における授業の難易度には、「適切」が最も多かったものの、ばらつきが出たことは、ある程度仕方のないことかもしれない。今年度は、特に音楽に限定しない「知識のベース」の違い（ばらつき）が顕著であった。

成績評価については、第１回目の授業でシラバスの説明とともに、念押しをしながら確実にしているため、「どちらとも言えない」と回答した学生は、第１回目に欠席をしたか、忘れてしまったかのどちらかである。

授業に対する評価は、概ね良好であったが、1名2名のばらつきは、前述のベースと関連していることと分析する。また、出席状況の良い学生と、そうでない学生とでは、捉え方が違うのではないかと推察される。

その中で、履修して自分のためになったことに対して最も多かった回答が、「新しい知識・技能」という点、また、総合的に意義のあるものであったかという設問にほとんどの学生が「強くそう思う」を回答していた点では、この授業の目的が果たせたのではないかと考察している。

●　問題点

授業に対する評価は、８割以上の学生が「強くそう思う」「ある程度そう思う」と回答しており、概ね良好であったと判断できる。しかしながら、年度ごとに異なる、基礎的な知識の幅が大きい中で、標準点を見出すことは、非常に難しいことだと感じている。また、音楽のみではなく、文化を含む世界史などについても、ほとんど知識がない学生がおり、丁寧にわかりやすく解説をしたが、新たな知識の構築ということは、瞬時にできるものではない。毎回の授業で、前回の授業の振り返りの時間を設けて知識の定着を図ったが、かなりの頻度で、１週間前のことをすっかり忘れてしまっているという中での授業は、毎回新鮮な刺激があった。

●　改善の方策

教養を高める授業は、それがいつどのように役立つのか、その時点ではわからないかもしれないが、教養というものは、人生を豊かにする大きな要素であるため、興味と関心を高めるために、毎年度異なるクラスの状況に対応するように、教材のあり方に工夫をしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	室内楽Ⅰ〔異種楽器〕f
教員名	宮野　陽子

職名	02. 教授

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.67	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.67	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.67	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.67	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.67	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.33	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.67	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 33.33
			3: 0.00	2: 0.00
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業は、履修した学生でチームを組み、それぞれが楽曲を決めて練習し、室内楽の授業でレッスンを受けるようになっている。
チーム数が7チームになり、またピアノやクラリネットの学生も履修している関係で、レッスン時間、回数はチームによって異なってしまう。長いときは夜9時頃までレッスンが続くこともあった。
主に弦楽四重奏の編成を基準としている。一人一人の技量、また練習が伴わないと、なかなか曲に成り立たない難しさがある。
一年生は弦楽四重奏はまだ難しすぎたと思われる。
また、履修したメンバーでチームを組むため、必ずしも自分の意に適ったチームとはならないのも、意欲を高められない原因になるようだ。
高学年は、室内楽の心得も出来ており、充実した取り組みが出来ていた。

●　問題点

・チーム数が多く授業時間内に収まらない。
・ヴィオラの学生が一人しかおらず、3つ以上掛け持ちとなった。
・能力の差があり、チームの組み方が難しい。

●　改善の方策

・気の合う人達とチームを組んで履修することが望ましい。そもそも室内楽はコミュニケーションが取れないと演奏に大きな支障が出る。チームを組むためにコミュニケーションが取れない人は、まずそこから改善していくことが必要になる。
また自分達でメンバーを考える場合、技量の違いも念頭において組むであろう。メンバーをチームを組んで履修することを推奨する。
・1チーム30分で隔週でレッスンをするようにしているが、授業時間内には到底収まらない。2クラスに分ける必要があるだろう。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	室内楽Ⅱ〔異種楽器〕f
教員名	宮野　陽子

職名	02. 教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.25	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.75	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
100.00	100.00	50.00	50.00	25.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業は、履修した学生でチームを組み、それぞれが楽曲を決めて練習し、室内楽の授業でレッスンを受けるようになっている。
チーム数が7チームになり、またピアノやクラリネットの学生も履修している関係で、レッスン時間、回数はチームによって異なってしまう。長いときは夜9時頃までレッスンが続くこともあった。
主に弦楽四重奏の編成を基準としている。一人一人の技量、また練習が伴わないと、なかなか曲に成り立たない難しさがある。
一年生は弦楽四重奏はまだ難しすぎたと思われる。
また、履修したメンバーでチームを組むため、必ずしも自分の意に適ったチームとはならないのも、意欲を高められない原因になるようだ。
高学年は、室内楽の心得も出来ており、充実した取り組みが出来ていた。

●　問題点

・チーム数が多く授業時間内に収まらない。
・ヴィオラの学生が一人しかおらず、3つ以上掛け持ちとなった。
・能力の差があり、チームの組み方が難しい。

●　改善の方策

・気の合う人達とチームを組んで履修することが望ましい。そもそも室内楽はコミュニケーションが取れないと演奏に大きな支障が出る。チームを組むためにコミュニケーションが取れない人は、まずそこから改善していくことが必要になる。
また自分達でメンバーを考える場合、技量の違いも念頭において組むであろう。メンバーをチームを組んで履修することを推奨する。
・1チーム30分で隔週でレッスンをするようにしているが、授業時間内には到底収まらない。2クラスに分ける必要があるだろう。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	室内楽Ⅲ〔異種楽器〕f
教員名	宮野　陽子

職名	02. 教授

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 50.00 / 2: 50.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業は、履修した学生でチームを組み、それぞれが楽曲を決めて練習し、室内楽の授業でレッスンを受けるようになっている。
チーム数が7チームになり、またピアノやクラリネットの学生も履修している関係で、レッスン時間、回数はチームによって異なってしまう。長いときは夜9時頃までレッスンが続くこともあった。
主に弦楽四重奏の編成を基準としている。一人一人の技量、また練習が伴わないと、なかなか曲に成り立たない難しさがある。
一年生は弦楽四重奏はまだ難しすぎたと思われる。
また、履修したメンバーでチームを組むため、必ずしも自分の意に適ったチームとはならないのも、意欲を高められない原因になるようだ。
高学年は、室内楽の心得も出来ており、充実した取り組みが出来ていた。

●　問題点

・チーム数が多く授業時間内に収まらない。
・ヴィオラの学生が一人しかおらず、3つ以上掛け持ちとなった。
・能力の差があり、チームの組み方が難しい。

●　改善の方策

・気の合う人達とチームを組んで履修することが望ましい。そもそも室内楽はコミュニケーションが取れないと演奏に大きな支障が出る。チームを組むためにコミュニケーションが取れない人は、まずそこから改善していくことが必要になる。
また自分達でメンバーを考える場合、技量の違いも念頭において組むであろう。メンバーをチームを組んで履修することを推奨する。
・1チーム30分で隔週でレッスンをするようにしているが、授業時間内には到底収まらない。2クラスに分ける必要があるだろう。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	室内楽Ⅳ〔異種楽器〕f
教員名	宮野　陽子

職名	02. 教授

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 33.33
			3: 100.00	2: 66.67
			1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業は、履修した学生でチームを組み、それぞれが楽曲を決めて練習し、室内楽の授業でレッスンを受けるようになっている。
チーム数が7チームになり、またピアノやクラリネットの学生も履修している関係で、レッスン時間、回数はチームによって異なってしまう。長いときは夜9時頃までレッスンが続くこともあった。
主に弦楽四重奏の編成を基準としている。一人一人の技量、また練習が伴わないと、なかなか曲に成り立たない難しさがある。
一年生は弦楽四重奏はまだ難しすぎたと思われる。
また、履修したメンバーでチームを組むため、必ずしも自分の意に適ったチームとはならないのも、意欲を高められない原因になるようだ。
高学年は、室内楽の心得も出来ており、充実した取り組みが出来ていた。

●　問題点

・チーム数が多く授業時間内に収まらない。
・ヴィオラの学生が一人しかおらず、3つ以上掛け持ちとなった。
・能力の差があり、チームの組み方が難しい。

●　改善の方策

・気の合う人達とチームを組んで履修することが望ましい。そもそも室内楽はコミュニケーションが取れないと演奏に大きな支障が出る。チームを組むためにコミュニケーションが取れない人は、まずそこから改善していくことが必要になる。
また自分達でメンバーを考える場合、技量の違いも念頭において組むであろう。メンバーをチームを組んで履修することを推奨する。
・1チーム30分で隔週でレッスンをするようにしているが、授業時間内には到底収まらない。2クラスに分ける必要があるだろう。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	音楽科教育法Bb
教員名	大熊　信彦

職名	03. 特任教授

履修者数	15
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.53	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.93	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.07	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.73	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.73	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.47	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.87	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.87	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.73	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 86.67	4: 60.00
			3: 13.33	2: 33.33
			1: 26.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

当科目の目的は、中学校や高等学校などで、音楽科、芸術科（音楽）の授業を担当する教員に必要な資質・能力を身に付けることです。このため、平成29年告示中学校学習指導要領、及び、平成30年告示高等学校学習指導要領の理解、学習指導案の作成、学校現場での授業展開を見据えた授業づくりなどを内容とし、理論と実践の往還を大切にしながら、講義、グループ・ワーク、模擬授業、協議を組み合わせて実施しました。

水曜日の３時限に教職課程を履修している15人の学生が受講しました。授業に臨む学生の姿勢はおおむね意欲的で、協力し合いながらグループ・ワークを行い、模擬授業に真摯に取り組み、協議にも積極的に参加していました。

授業改善のための学生アンケート集計結果を見ると、ほとんどの学生が、「出席は良好であった」、「教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった」、「教員の熱意や工夫が感じられた」に対して「強くそう思う」と答えました。また、「自分のためになったこと」の問いについて、当科目の回答率を講義・演習系科目全体の回答率と比較すると、「関連分野の学習意欲」以外の４項目（「コミュニケーション能力向上」」「問題発見・解決能力」「新しいものの見方」「新しい知識・技能」）において、当科目の回答率が全体の回答率を上回っていました。

この結果は、当科目の次のような特性が要因と考えます。すなわち、中学校や高等学校などの学校現場で実際に音楽の授業を行うことを想定し、学生同士が協力し合いながら授業の構想を練ったり、教師役と生徒役に分かれて模擬授業などを行ったりする実践的な学修であるということです。このため、多くの学生が、コミュニケーション能力をはじめ、授業づくりを創造的に行う過程で、様々な資質・能力の向上を意識することができたと考えます。

●　問題点

「１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか」の問いに対して、「５時間以上」と答えた学生が２人、「３時間」と答えた学生が２人いる一方、７割を超える学生が「２時間」又は「１時間未満」の回答でした。また、「自分のためになったこと」の問いに対して、「関連分野の学習意欲」については講義・演習系科目全体の回答率を大きく下回っていました。

●　改善の方策

学生が授業に対する予習や復習を積極的に行い、更に学修を深めていくことができるように、今後、課題の設定などを工夫する必要があると考えます。また、科目の学修を通して、学習指導要領の理解や学校現場での授業づくりに関わる実践的な内容に留まらず、学生が「関連分野の学習意欲」を高めることにもつながっていく広がりを見据えて、学修内容の改善を図っていきたいと考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	教育総合科目(教職実践)ＩＢ
教員名	大熊　信彦

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

当科目の目的は、学校の教員として、また、音楽科の教員として求められる資質・能力を総合的に身に付けることです。本科目を履修する学生は、将来、教員を志望する教職実践専攻の学生なので、授業では、教員採用選考試験を受験することも見据えて、「面接の概要、個人・集団面接、集団討論、模擬授業、場面指導」の実際、「音楽の専門実技」、「学習指導案」の作成についての講義、グループ協議、演習、発表などを行いました。

本科目（「教育総合科目（教職実践）ＩＢ」）は、金曜日の１時限に２年次の学生１名が履修しましたが、３年次の学生７名が履修する「教育総合科目（教職実践）ⅡＢ」と同時開講し、計８名の学生が一緒に学ぶ形をとりました。

授業に臨む学生の姿勢は積極的で、目的意識が高く、真摯に取り組みました。

授業改善のための学生アンケート集計結果を見ると、「１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか」の問い以外の全ての問いに対して、「強くそう思う」「適切」等の肯定的な回答でした。

また、「自分のためになったこと」（複数回答を選択する）の問いについては、「新しいものの見方」、「新しい知識・技能」を選択していました。

このような結果の要因として、前述のとおり目的意識の高い学生が受講していること、当科目の内容が、受講する学生にとって必要な学びであることが考えられます。

●　問題点

「１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか」の問いに対しては、「１時間未満」の回答でした。授業中の取組によって、一定の学修成果があがっている一方で、予習、授業、復習の一連の流れを確かなものにすることによって学びを一層深めていけるようにすることが課題と考えます。

●　改善の方策

教職実践専攻生が学ぶ本科目は、次の時代の音楽科教育の担い手を育むことに直接・間接につながっています。そこで、今後は、学生が予習、復習を効果的に行うための授業計画を立案し、内容の内容の改善を図っていきたいと考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	教育総合科目(教職実践)ⅡB
教員名	大熊　信彦

職名	03. 特任教授

履修者数	7
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	3.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.83	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.83	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.83	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 83.33 / 3: 66.67 / 2: 16.67 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

当科目の目的は、学校の教員として、また、音楽科の教員として求められる資質・能力を総合的に身に付けることです。本科目を履修する学生は、教職実践専攻生で、いずれの学生も教員を志望しています。そこで授業では、教員採用選考試験を受験することも見据えて、「面接の概要、個人・集団面接、集団討論、模擬授業、場面指導」の実際、「音楽の専門実技」、「学習指導案」の作成についての講義、グループ協議、演習、発表などを行いました。

金曜日の１時限に７人の学生が履修しました。授業に臨む学生の姿勢は積極的で、目的意識が高く、協力し合いながら真摯に取り組みました。

授業改善のための学生アンケート集計結果を見ると、回答者全員が、「難易度」について「適切」と答え、「教員の熱意や工夫が感じられた」、「内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった」について「強くそう思う」と答えました。

また、「自分のためになったこと」の問いについて、当科目の回答率を講義・演習系科目全体の回答率と比較すると、「関連分野の学習意欲」、「新しいものの見方」、「新しい知識・技能」において、当科目の回答率が全体の回答率を大きく上回っていました。

このような結果の要因として、前述のとおり目的意識の高い学生が受講していること、当科目の内容が、受講する学生にとって必要な学びであることが考えられます。

●　問題点

「１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか」の問いに対して、「４時間」と答えた学生もいましたが、多くの学生が「１時間未満」の回答でした。また、「履修に当たってシラバスを活用した」の問いに対して、「強くそう思う」又は「ある程度そう思う」と答えた学生数と、「どちらとも言えない」と答えた学生数が同数でした。

●　改善の方策

教職実践専攻生が学ぶ本科目は、次の時代の音楽科教育の担い手を育むことに直接・間接につながっています。そこで、今後は、学生が予習、復習を効果的に行うことと、そのためにシラバスを有効活用することを一層促していく必要があります。この視点で、授業計画や内容の改善を図っていきたいと考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	教職特講(教職実践)Ⅱ
教員名	大熊　信彦

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 100.00 / 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

当科目の目的は、今日的な教育課題について幅広く考察し、教員として求められる資質・能力を高めることを目指すことです。あわせて、教員採用選考試験における今日的な教育課題を踏まえた面接や論作文への対応力、及び、専門実技に関する技能等を高めることです。

本科目を履修する学生は教職実践専攻生で、教員を志望しています。そこで授業では、例えば、人権教育、育成を目指す資質・能力、主体的・対話的で深い学び、教員の仕事の多様化、カリキュラム・マネジメント、教育の情報化、社会に開かれた学校づくり、学校における音楽教員の役割などの諸課題について、学生が自ら調べ、対応等についての考えを発表することによって学びを深めました。

また、学生が将来、日本の伝統や文化に関する教育を担う観点から、箏を用いた授業づくりの実践にも取り組みました。

本科目（「教職特講（教職実践）Ⅱ）は、金曜日の６時限に２年次の学生１名が履修しましたが、３年次の学生７名が履修する「教職特講（教職実践）Ⅲ」と同時開講し、計８名の学生が一緒に学ぶ形をとりました。

授業に臨む学生の姿勢は積極的で、目的意識が高く、真摯に取り組みました。

授業改善のための学生アンケート集計結果を見ると、「１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか」の問い以外の全ての問いに対して、「強くそう思う」「適切」等の肯定的な回答でした。

また、「自分のためになったこと」（複数回答を選択する）の問いについては、５つの項目全てを選択していました。

このような結果の要因として、前述のとおり目的意識の高い学生が受講し、かつ、学生の発表や協議を多く取り入れたこと、当科目の内容が、受講する学生にとって必要な学びであったことが考えられます。

●　問題点

「１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか」の問いに対しては、「２時間」と答えていました。２年次の学生は、連日、多数の科目を受講していますので、一つの科目の予習、復習に充てる時間を効率よく確保することで、学修の成果を高めていくことが望まれます。

●　改善の方策

教職実践専攻生が学ぶ本科目は、次の時代の音楽科教育の担い手を育むことに直接・間接につながっています。そこで、教職実践専攻の学生のみが４年間にわたり受講する科目である「教職特講Ⅰ～Ⅳ」の学修内容について、学生にとって一層意義あるものとなるように更なる改善に努めていきたいと考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	教職特講(教職実践)Ⅲ
教員名	大熊　信彦

職名	03. 特任教授

履修者数	7
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.83	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 83.33 / 3: 66.67 / 2: 16.67 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

当科目の目的は、今日的な教育課題について幅広く考察し、教員として求められる資質・能力を高めることを目指すことです。あわせて、教員採用選考試験における今日的な教育課題を踏まえた面接や論作文への対応力、及び、専門実技に関する技能等を高めることです。

本科目を履修する学生は、教職実践専攻生で、いずれの学生も教員を志望しています。そこで授業では、例えば、人権教育、育成を目指す資質・能力、主体的・対話的で深い学び、教員の仕事の多様化、カリキュラム・マネジメント、教育の情報化、社会に開かれた学校づくり、学校における音楽教員の役割などの諸課題について、学生が自ら調べ、対応等についての考えを発表し、それを基に意見交換を行うことで学びを深めました。

また、学生が将来、日本の伝統や文化に関する教育を担う観点から、箏を用いた授業づくりの実践にも取り組みました。

金曜日の６時限に７人の学生が履修しました。授業に臨む学生の姿勢は積極的で、目的意識が高く、協力し合いながら真摯に取り組みました。

授業改善のための学生アンケート集計結果を見ると、回答者全員が、「授業の進め方は丁寧」、「資料は内容を理解するうえで効果的」、「質問や相談の対応は適切」、「授業回数や時間は守られていた」「教員の熱意や工夫が感じられた」について「強くそう思う」と答えました（設問の文言は一部略）。

また、「自分のためになったこと」の問いについて、当科目の回答率を講義・演習系科目全体の回答率と比較すると、「関連分野の学習意欲」、「新しいものの見方」、「新しい知識・技能」において、当科目の回答率が全体の回答率を大きく上回っていました。

このような結果の要因として、前述のとおり目的意識の高い学生が受講し、かつ、学生の発表や協議を多く取り入れたこと、当科目の内容が、受講する学生にとって必要な学びであったことが考えられます。

●　問題点

「１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか」の問いに対して、「３時間」と答えた学生が１人、「２時間」と答えた学生が４人、「１時間未満」と答えた学生１人で、学生によって時間の幅が大きかったこと、また、「履修に当たってシラバスを活用した」の問いに対して「どちらとも言えない」と答えた学生が３人いました。

●　改善の方策

教職実践専攻生が学ぶ本科目は、次の時代の音楽科教育の担い手を育むことに直接・間接につながっています。そこで、今後は、授業の学びを深めたり、学んだことを定着させたりする観点から、学生が予習、復習を十分に行うことを促すとともに、そのためにシラバスを有効活用することを一層促していく必要があります。この視点で、授業計画や内容の改善を図っていきたいと考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ソルフェージュ4c
教員名	大場　文憲

職名	03. 特任教授

履修者数	12
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.89	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.89	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.89	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.89	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.44	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.89	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 77.78	4: 55.56
			3: 22.22	2: 22.22
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

● 現状の説明

履修者12名のうち９名から回答があった。この授業はピアノ専攻の学生の必修の授業で、内容は初見視奏と移調である。これらはピアノを学び職業とする上で、是非身につけて欲しいスキルである。
レベルにより2つのクラスを設定している。上のクラスはかなりレベルが高く、難しいものにどんどんチャレンジした。しかし下のクラスは進み具合が遅く身につかなかったので、途中で一旦難易度の低いところから再度学修し直し、確実に力をつけることができた。

● 問題点

クラス授業の中で学生それぞれを確実にレベルアップする。

● 改善の方策

クラス授業なので難しい面もあるが、一人一人の力を細かく把握し適切な課題を与えるようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ピアノ伴奏法ＩＢ
教員名	大場　文憲

職名	03. 特任教授

履修者数	6
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.60	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.60	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.75	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 60.00 / 4: 80.00 / 3: 80.00 / 2: 60.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

履修者6名のうち5名から回答があった。伴奏はピアノ演奏の中の重要な分野であり、ピアノを学ぶ者が是非身につけたいスキルである。
履修人数は多くなかったが、皆が熱意を持って取り組んだ。伴奏は自分自身の力で譜読みをし、仕上げていくという厳しい面もあり、基礎力が不足している学生にとっては難しかったと思う。しかし「達成感を味わえた」「実践的に学べた」「的確なアドバイスがあった」などのコメントがあり、この授業の目的は果たせたと思う。

●　問題点

レベル差のある学生それぞれに達成感を持たせる。

●　改善の方策

クラス授業なので難しい面もあるが、個人レッスン･公開レッスン･授業を組み合わせたような形で授業を展開し、課題もテキストだけに拘らず幅広く取り入れていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	指揮法b
教員名	粕谷　宏美

職名	03. 特任教授

履修者数	22
回答者数	17

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.35	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.59	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.53	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.06	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.24	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.18	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.82	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.65	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.76	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.82	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.65	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.35	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.47	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 68.75 / 4: 25.00 / 3: 18.75 / 2: 0.00 / 1: 6.25	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.57	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は木曜日の2限に設定され、後期は22名の受講生を対象に授業を行った。科目の目的は、教育現場において作品の特徴を生かした指揮をするため技法を身に付けることである。実践的指揮法の基礎・基本を身に付けるため、「叩き」・「平均運動」・「しゃくい」の3つの技法を中心として指揮法の基礎・基本を修得し、中学校共通教材等を活用して演習を行った。

授業形態は講義と演習をの両面から行い、各技法の修得に向けて、常に模範演習とともに受講生が理解しやすいように解説を加えて行った。また、各技法のまとめとして一人ひとりが全員の前で指揮を行い、緊張感をもって取り組めることを重視した。

指揮法は、最終的には個人的に技法を修得するものであるが、受講生が多いため終盤には短時間ではあるが個人レッスンを行って修得状況を確認した。

また、最終回には発表会形式で全受講生の前で小テストを行うとともに、まとめとして上手だと思った指揮者を５名程度挙げ、その理由を評価レポートに記述して提出した。

●　問題点

指揮法を身に付けるためには、各個人がレッスン形式で取り組むことによって効果が上がるものであるが、現実は集団的レッスン形式が中心である。学生の納得感、満足度を高めるためにも大切なことであるが受講者人数からしてほぼ限界である。今後、受講生が増えた場合には、分割して少人数で授業を実施することも視野に入れたい。

●　改善の方策

アンケートは概ね好評であったが、受講生の満足度をより高めるために、ひとり一人の個性や課題をより的確に見極めていく必要がある。予習についてはテスト前だけでなく、毎回の授業に主体的に参加できるよう課題を明確に指示する。また、個人レッスンを取り入れて一人ひとりの個性を把握し、よさを伸ばしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	P.A.C.S.2
教員名	高橋　幸雄

職名	03. 特任教授

履修者数	6
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.80	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.40	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.80	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.80	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.80	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.20	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.40	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.20	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.40	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.40	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 40.00 / 4: 80.00 / 3: 60.00 / 2: 0.00 / 1: 20.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

エンターテイメントを含む芸術作品が、どの様な歴史や社会を背景として持っているのかを映像作品を通して読み解いて行く授業を展開した。ドイツ、アメリカ、フランス、イギリス、イタリアの文学の紹介と解説を行い、それぞれの特徴を社会的、歴史的背景を踏まえて理解することを主眼にした。

●　問題点

それぞれの国の社会状況や歴史の基本的な知識が共有されていないので、各作品の問題点を正確に理解出来ない。それ故、概論的な説明が必要になり、作品自体の問題性を議論するまでには行きつかなかった。

●　改善の方策

扱う国々の社会的背景や歴史のレジュメを作成し、それを踏まえて作品解釈をプレゼンする事にする。それによって社会的、歴史的視点が深まり作品批評の精度の向上を目指す。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	朗読法B(イタリア語)
教員名	伊藤　和広

職名	04. 准教授

履修者数	18
回答者数	16

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.56	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.63	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.63	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.69	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.19	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.75	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.31	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.69	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.88	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.81	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.31	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.69	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率 5: 80.00, 4: 46.67, 3: 46.67, 2: 26.67, 1: 26.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.90	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は、18名が受講し、アンケートには16名が回答しました。今年度は、例年通りの2年生に、編入と転科の3年生、そして留学生も多く、更にはオンラインで参加の社会人学生と、例年とは全く異なる形でのスタートとなりました。全体として大変意欲的な学生が多く、とても有意義な講義を行うことが出来たと感じております。これらの現状を踏まえ、集計結果の分析を行っていきますと、総じて良好であると考察します。難易度が高かったと感じている学生が少なくない反面、ほぼ全員が総合的に意義のあるものだったと回答しており、声楽科の必修科目であることからも今後も更に継続して学習していってほしいと願います。1点、やはり予習復習については、なかなか時間を確保出来ていないようで、こちらについては毎回課題を与えていましたが、少々残念に感じます。アンケートの集計結果ではありませんが、今年度は自由記述欄への大変嬉しい書き込みが多くあり、今後の大きな励みになります。以上、シラバスに提示されている科目の目的について今年度は概ね達成できたということが今年度の状況です。

●　問題点

予習復習の時間確保に関しては、少々意識のズレを感じました。

●　改善の方策

予習復習の課題を、現在レッスンで取り組んでいる曲と関連付ける方策を新たに考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	室内楽Ⅰ〔異種楽器〕a
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	6
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.20	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.40	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.40	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.20	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.20	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.80	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
60.00	60.00	40.00	40.00	40.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.20	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

木管楽器を専攻する学生を対象とした異種楽器による室内楽授業である。木管五重奏等、学生側でアンサンブルを編成しての履修も認めている。ファゴットとホルンは履修学生がいなかったため研究員と聴講生に依頼した。学生は欠席も少なく、楽しく授業に参加していた。今年度室内楽Ⅰを履修した学生は5名であった。専門性が高くなるので、副科の学生の履修はなかった。
履修学生5名は全てフルート専攻だったので、前半は木管トリオ、後半は木管五重奏で実施した。
期末に他の室内楽クラスと合同の発表会を学内のホールにて開催した。

●　問題点

グラフを見る限り、学年により受け止め方や授業に対する満足度が異なるようであるが、学生の意識、教員との信頼関係は良好と思われる。履修学生の専攻楽器にばらつきがあるので、グループ分けが困難である。
木管楽器は3クラス（サックスの同族楽器アンサンブルを含む）、金管楽器は2クラス及び打楽器アンサンブルと弦楽アンサンブルの6クラスに分かれて授業を行っている関係上、グラフの結果は、本授業（室内楽Ⅰa）だけに対する評価ではないため、アンケート結果の評価判断が難しい。
自由記述欄を見ると、アンサンブルチームが5つであったため、90分で3チームずつ、交代で授業を実施したので、学生にとっては曲数が少なく感じたようだ。受講学生数によっては、15回の授業回数で、もう少し多い曲数を実施するのはいささか厳しい。
アンサンブルチームが多かったため、授業終了が終了時刻ぎりぎりになってしまった。

●　改善の方策

グループ分けに工夫が必要。90分で多くのアンサンブルチームを指導するのは困難。
室内楽授業全体の見直しが必要。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	The Science of Sound(音の科学)B
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	11
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.80	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	3.90	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.70	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.30	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.80	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.60	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.90	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.70	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.90	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.90	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.90	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.60	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.70	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
87.50	62.50	50.00	12.50	25.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.71	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は、原則として前期の「The Science of Sound（音の科学）A」を既に履修してあることを前提とする。人の名前、キャラクターの名称、商品名、歌謡曲などの身近なトピックをその中心的題材とし主に、音声学・音韻論の視点から、言語音の仕組みについての分析をする。それと同時に、様々な言語現象（方言、オノマトペなど）を通して「音」を様々な科学的な視点で観察する。適宜、扱うテーマに即した課題について各自で分析をしたり、分析内容を全体で共有し、意見交換を行う機会もある。同時に、その背後に潜む音声学や音韻論のメカニズムについて教員が解説し、理解を深めることで受講生が抱く「音」の謎を解き明かし、学術的考察へと深めることを目的とする。
開講は、毎週水曜日の1限目であり、パフォーマンス総合芸術文化専攻3年生（アンケート実施の令和3年12月時点）の15名程という受講生は「音楽」に関わる興味・関心が高く、また同時に将来的な展望も持ち合わせている。その中には、作詞作曲活動に携わる者も多く、受講生の「音」に対する意識や関心の高さが印象的であった。特に、我々の身近なトピックを題材としていたことで、物事を科学的に分析していくことのおもしろさを体感してもらえたこと、そしてより深い学びへの意欲をもってもらえたことはなによりであった。
学生アンケートの集計結果をみると、「Ⅰ.b. この授業の出席は良好であった」「Ⅰ.d. 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」の2つの設問において講義・演習系科目全体平均をわずかに下回る結果となった。

●　問題点

学生の授業内での理解度を重視するあまりに、持ち帰り課題を極力なくしたことや、欠席した場合などにもその後の理解度に影響しないよう授業を展開してきた方法にも問題があったと考える。授業は、教員が教壇で進行しながら学生と応答するプレゼンテーション形式で実施しており、次回の授業のための課題がわかりづらかったことも一因である。授業内で集中的に理解することを目標にしていたため、学生による学びが継続しづらかったものと考える。

●　改善の方策

今年度は毎回次週につながる課題を提示することで学生の継続的な学びを促す。これまでの講義形式では、教員主導の受け身のスタイル中心であったと思うが、本科目では様々な身近なトピックに対する学生の自由な発想に基づく主体的な学びを尊重している。よって、本科目を受講することで「考える」ことの面白さを体感してもらえるよう内容も工夫する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	教材伴奏法ⅠBb
教員名	平田　紀子

職名	04. 准教授

履修者数	9
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.75	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.13	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.38	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.38	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.63	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.88	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 25.00 / 3: 50.00 / 2: 12.50 / 1: 12.50	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

受講姿勢は大変良好で、病欠の他ほぼ無欠席、各自の課題に合わせて皆が積極的に歌唱するスタイルが保たれている。またコードネームを見ながら自分で伴奏を付ける授業では、持てる技能を開示し皆から賞賛される、得意分野として新たな自己の気づきができるといった学生もみられた。

アンケートの結果はどの項目も全体平均点を上回っていたことから、取り組みの姿勢が伺える。グラフでは「熱意を持って積極的に授業に取り組んだ」（5.00点）、「授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった」（5.00点）また「履修で自分のためになったこと」では「新しい知識・技能」が100%の回答を得られた。

授業初回に、授業の進め方や試験の方法・対策などを作成しプリントにて配布、毎回各自のレベルに合わせ課題を出し、個別の教材を用いて指導できたためと思われる。「教員の熱意や工夫」は5.00点を得られ、「満足できる内容」「頑張って良かった」など自由記述にあった。

●　問題点

「予習・復習に時間を取ったか」に関しては1.50点ではある。が、例年のように授業時や直前に曲をさらう学生もみられず、各自のペースで準備してきていた。

試験結果も良好で、それ以外の問題点はみられなかった。

●　改善の方策

個々への課題を工夫して明確に提示し、引き続き内容を充実していく。

「コミュニケーション能力向上」の項目が10数%と低めだったので、合唱の他、互いにコメントし合うなどの時間を設けたい。

コードネームの知識を身につけ自分で考えて伴奏する時間は、各自の技術にあわせ次年度も取り組んでいきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	音楽療法的音楽論
教員名	平田　紀子

職名	04. 准教授

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.25	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.75	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 100.00
			3: 100.00	2: 0.00
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

音楽療法専攻の必修科目(他専攻も受講可)だが、今年度は音楽療法専攻生の他は他専攻から一名だけ受講があった。例年より少なく、各専攻の演奏・創作や介護実習に活かせる内容なので、他専攻学生にも履修してもらいたい。
受講者は皆出席で遅刻や居眠りもなく、熱心にメモを取り自己開示のワークにも積極的で、取り組みの姿勢がすばらしかった。授業内容に関しては「授業に対する教員の熱意や工夫」「学習意欲を刺激し興味深い」「総合的に判断して意義のあるもの」などで5,00点を得ることができた。
「自分のためになったこと」については「関連分野の学習意欲」「新しいものの見方」「新しい知識・技能」を得られた、について100％の回答があった。学生の意識の高さを感じることができた。

●　問題点

内容はシラバスに沿っていたが、楽曲の数や長さ、解説により、進捗の前後が多少あった。また予習・復習に関して指示が徹底していなかった。
年度末の試験は大変に優良で、今年度に関して問題点はみられなかった。より多くの学生に受講してほしい。

●　改善の方策

手作りの資料、私物の音源など駆使し、引き続き内容を充実していく。他専攻にも実りのある授業を心がける。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	作曲家の肖像と作品の魅力ＩＢ
教員名	武藤　直美

職名	04. 准教授

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 66.67 / 3: 0.00 / 2: 33.33 / 1: 33.33
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

バロック時代から現代までの作曲家について学習し発表する。また、楽曲、主にオペラや歌曲を視聴することにより、新しい知識をみにつける。
アンケートの集計結果はＩ.ｄ の回答以外、特に問題はなかった。

●　問題点

受講者は毎授業、課題を提出していたが、全員が予習、復習時間が1時間未満という残念な回答であった。

●　改善の方策

課題提出による予習時間に関しての問題はないが、復習に充てる時間を増やすための工夫が必要であると思料する。次年度の授業では前回の振り返りを発表する等の時間を設ける。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	音楽の基礎理論B(基礎和声を含む)
教員名	武藤　直美

職名	04. 准教授

履修者数	9
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.17	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.17	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.83	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.33	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
83.33	16.67	33.33	33.33	0.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.20	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

大学1年生の必修科目であり、コールユーブンゲンや様々なジャンルの楽曲を使用し、歌うことによる基礎理論、和声の学習をする。グループ授業ではあるが個々のレベルに差もあるため、それぞれにあった指導を試みた。今回は6名の受講者がアンケートに回答し、新しい知識及び技能を習得したという回答が80%以上と喜ばしい結果につながった。

●　問題点

授業の難易度に対して適切という回答が3名、易しいという回答が1名、やや難しいという回答が2名と、大変ばらつきが見受けられるため、教材または授業の進め方に工夫が必要であると思料する。

●　改善の方策

個々のレベルにばらつきがあるため、歌唱する以前に必要な基礎理論をみにつけさせるため、予習復習の時間数を増やす。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ソルフェージュ4a
教員名	井上　淳司

職名	05. 特任准教授

履修者数	23
回答者数	22

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.23	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.45	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.55	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.81	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.14	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.19	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.14	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.43	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.43	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.14	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.19	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.10	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.41	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
66.67	19.05	42.86	23.81	9.52

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.40	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

１年次のソルフェージュ2のaクラスから、ピアノ専攻生、音楽療法専攻生を除いた持ち上がりのクラスで履修者は23名である。このクラスサイズでは各学生の能力の差の開きはかなり大きく、シラバスにある聴音、新曲視唱、弾き歌い、リズム打ち等は、能力の下の学生に合わせた課題では上の学生には簡単すぎであり、また逆に上の学生に合わせた課題では下の学生には難しすぎて、下の学生、上の学生、両方のスキルアップを量って徹底するのが困難な現状である。

●　問題点

こちらが学生たちに良かれと思って行っていることが、一部には必ずしもそうは取られていないようだ。音楽を学ぶには音楽以外のことを勉強する必要性があるというこちらの意図が十分伝わらず、機械的技術や功利性の追求に価値判断を置くというこちらの意図とは真逆の思いを持たれ、それを払拭出来なかったことは残念である。

●　改善の方策

学生に迎合するのは返って学生のためにはならないが、多く学生とのコミュニケーションを図りつつ、こちらの意図との学生の意識のズレをなくすように努めたい。またそれを行える環境として、さらに下の学生、上の学生、両方のスキルアップを量って徹底するためには、レベルの同じ学生によるクラス設定が必要である。また、必修授業にもかかわらず学生の側には多少遅刻や欠席しても大丈夫という意識が強く、クラスサイズが小さい方が個々の授業への認識や態度を含めての進度に的確な指導が可能であると確信している。音楽の習得は日々の努力とその積み重ねである。中断してしまうとなかなか身に付きにくい。また時間通りに緩慢に行うことよりも短い時間に集中して行うことも効果的である。シラバスにもその心構えは含んでいるので学生にはそのことを念頭にした心得を徹底したい。今後もシラバスの内容や、授業の進め方、組み立て、教材の見直し等に工夫と改善を努めたい。年々学生の意識が低下していると思われるが今後もいろいろ試しながら効果的な方策を模索したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ソルフェージュ2a
教員名	井上　淳司

職名	05. 特任准教授

履修者数	44
回答者数	40

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.98	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.48	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.30	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.83	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.75	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.23	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.20	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.30	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.38	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.55	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.55	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.05	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.30	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 82.50 / 4: 20.00 / 3: 25.00 / 2: 12.50 / 1: 5.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.64	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

１年生を対象に２クラスに分けた、上のクラスである。履修者は４４名であった。授業時間は月曜日３限,木曜日５限の週２コマ各９０分である。聴音、弾き歌い、リズム打ち（２aのみ）を中心に授業を進めた。試験は授業で扱った上記項目に準拠して行った。課題に取り組む意欲は見られたが、旋律、ハーモニーおよびリズムが音楽の流れの中でどのように結び付けられるかの理解や体感がまだ不十分で、例年aクラスに見られるのだが点数の高さがイコール音楽的であると混同してしまう傾向がある。授業内容について行けず、モチベーションが保てない一部の学生が見られた。

●　問題点

一年次生は新鮮な気持ちも手伝って毎年授業に積極的に取り組む学生が多く、活気に富み、雰囲気も良く授業をやりやすくしているが、それでも４４名というクラスサイズは大き過ぎる。徐々にモチベーションが保てない学生が出る要因はそこにある。このサイズではaクラスであってもクラス内での学生の能力の差があり過ぎて、個々の能力を高めるには不適切である。その差が解消されずに進むのでモチベーションの低下を学生に与えている。アンケートの結果に表れている、シラバスに添うあり方や、難易度、学習意欲に「そう思わない」「全くそう思わない」という評価が出ている一因もそこにあると思われる。また、扱う課題の共通性がなくなってしまい指導目的が一様に等しく遂行出来ない。繰り返しや積み重ねがまだ必要な学生と、鍛えればもっと伸びる学生が混在しており、個々の能力を授業時間内だけで高めることが出来ないのが大きな問題点であった。

●　改善の方策

より良い音楽の習得のためには日々の努力とそれを積み重ねる時間の確保が十分に行われなければならないが、限られた環境と時間の中での上達は双方に困難を伴う。同一クラス内で学生の能力のバラツキが大きいと、同じ課題でも難し過ぎてついて行けない者や簡単すぎて意欲が下がってしまう者と差が出てしまうため、自ずと授業内容はシラバスを正確に反映出来ず、授業の組み立て、教材の見直しが追いつかない。それを解消するのに効果があるのは、同じ能力の者を出来る限りOne to Oneに近いクラスサイズにすることである。人数的な数の問題でサイズを決めるのではない。指導やアドバイスを工夫し、授業がきっかけとなって個々に合った方法を考えることはもちろん、それ以上に授業のあり方や指針を検討する場を設けることが必要である。多くの意見を持ち寄る事により独りよがりにならないより良い授業を展開させることが理念にも叶うことになるためために肝要である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	和声学2a
教員名	井上　淳司

職名	05. 特任准教授

履修者数	39
回答者数	36

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.81	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.58	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.23	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.89	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.69	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.83	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.03	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.11	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.08	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.53	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.61	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.22	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 17.14 / 3: 31.43 / 2: 20.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.63	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

和声法の学習のうち、基礎となる和音の構成および連結の実習を習得する授業で、１年生を対象に和声法の体験の有無により、実習経験のある学生を対象としたクラスである。今年度のaクラスの履修者は39名であった。和声法はやや複雑な規則が基になっており、理論の連続した組み立ての上に実習を重ねて行う演習授業である。復習および実習を怠ることや、内容が連続して関連しているため一回の欠席でも授業について行けなくなることがある。少しでも内容が分からなくなるとやる気が失せたり、最初はやる気があったが途中で意欲を失い、出された宿題をやらなかったりで、何人かはそれが原因で欠席を重ねてしまったりして学習が続かなくなる者がいた。全体的には意欲的であった。回答者数の半数以上が「強くそう思う」「ある程度そう思う」と答えているがアンケートの結果は多くの項目が全体平均点以下である。

●　問題点

和声法の規則は多岐に渡り解答は何通りもあるため、授業では毎回板書（毎授業時間の約1/3は板書に細かい規則を書き、それをノートに写させている）とその解説をした後に実習をさせて、時間が許す限り各個人の解答を見てアドバイスを行っている。丁寧に板書を写している者は多いが、それを見ずに実習してしまう者やただ写しただけで理解しようとしていない者がいる。さらに演奏と密接になっていると実感していない。毎年のことだがやはりクラスサイズが大きすぎて個々への対応が追いつかない。

●　改善の方策

今年度は既習者でありながら、個々の習得する速度は違うため、良く理解して実習も優秀に出来た者がいる反面、やる気を失せてしまう者もいた。和声の授業も出来得る限りのワンツーワンが必要であり、クラスサイズがもっと小さければこちらの手の行き届くことは一段と増えるし、学生の集中度も保てるだろうと思う。だが現状で理念に沿って継続的な実習をするように分かりやすい内容にするための工夫を行い、出来る限り個別の能力や理解力に沿い、実技との必要性の認識を高め、常にやる気が出るような授業の進め方をして行かねばならないのは困難が伴う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	総合作曲演習ⅡB
教員名	井上　淳司

職名	05. 特任准教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.33	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 33.33 / 3: 33.33 / 2: 66.67 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

音楽創造専攻生対象の授業で、今年度は1年次生3名が履修した。それぞれが興味を持って志向していることに関連したものを題材として取り入れながら行った。履修した中国からの留学生の日本語の読み書きの程度が不明で、日本語が理解出来ずに反応しないのか理解しているのか分からない時があり、そのため双方向や学生間の意見交換がうまく行かずに、こちら側からの資料提供やまた見解を述べることが多く一方的になってしまっていたように思う。

●　問題点

学生の予備知識が乏しいため学生の反応が薄くなってしまうことがあり、指導する側の価値観の押し付けにならないように配慮したつもりだが、志向に適しているつもりで用意した題材も、その良さを伝えるための前提段階を理解することで終わってしまい、さらに深く述べるまでは至らなかった。

●　改善の方策

その時の学生の反応を見ながら授業を進めているので、シラバス通りに行かないことの方が多いのであるが、シラバスの作成は出来得る限りの予測を立てることを心がけたい。アンケート結果では授業の難易度は適切であるとなっているが、授業内容が積極的な探究心の湧く基になるように努めたいと思う。しかし、無理に進めると学生が混乱することもあり、その加減をうまく配分出来るように今後に向けての改善を行いたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ピアノ指導者を目指すための音楽教育学入門B
教員名	浦川　玲子

職名	06. 専任講師

履修者数	13
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.83	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.17	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.17	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.40	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
83.33	33.33	100.00	0.00	0.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

履修者は13名、主としてピアノ専攻生であるが、声楽ならびに音楽療法専攻生も含む。さまざまな学年の学生が入り混じるため、講義系でありながら活気ある雰囲気が特徴である。
授業の難易度について回答者の全員が「適切」と答えており、内容や進め方についての評価も良い傾向にある。各学生が一定の達成感を獲得し、関連分野への学習意欲など、それぞれに意義を見い出している。

●　問題点

各学生のモチベーションは高いが、予習や復習には時間を割いていない様子が伺える。

●　改善の方策

履修者には小レポート作成など、定期的に学びを振り返る機会が必要であろう。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	作曲家の肖像と作品の魅力ⅢB
教員名	益田　善太

職名	06. 専任講師

履修者数	7
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
66.67	33.33	100.00	33.33	33.33

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本授業は、音楽作品に対して、その時代背景や作曲傾向など様々な角度からアプローチし、実際に音を聞きながらその作品の魅力にせまるものである。

対象はパフォーマンス総合芸術文化専攻生で、オーケストラを中心とした管弦楽に関わるクラシック音楽の作品について取り上げた。

以前より行われていた同名の授業(声楽・ピアノ)の管弦打楽器編として本年度から行われた。

ⅢAにおいてはバロック時代から現代まで音楽史的変遷を中心に、ⅢBにおいては管弦楽が用いられる様々な形態別(オペラ・ミュージカル・吹奏楽など)に扱った。

クラスは少数で1年次2名 2年次3名 3年次1名で毎週金曜日の3限に行った。

パフォーマンス総合芸術文化専攻生は様々なジャンルの学生で、クラシックやオーケストラと言う分野に明るくない学生も多く新鮮な感覚で望んでいたように思われる。

音楽に対する好奇心の傾向や知識量、技量が全く違う学生のため、内容のバランスには気を使うところである。

アンケートは概ね好意的に受け入れられていると安堵している。

少数の利点を生かし、対話しながら学生の関心に合わせて授業を変化させていけた事が良かったのではと考える。

また、学生の興味外の分野についても興味がもてるように選曲や視点、教材など工夫をする事を続けていく必要もある。

●　問題点

様々な方向性を持つ学生に、必要不可欠な基礎知識とそれぞれの方向性に関連付けた専門性のバランスを取りながら授業を進めることは工夫が必要である。

単なる知識として終わらず、感性を広げたり、それぞれの方向性とリンクさせる所まで昇華させたい。

●　改善の方策

集中して曲を聞く時間の中に、学生の感覚をコミュニケーションする事を上手く設けたい。

得た感性をすぐに表現する事は自己認識を深め、興味を促進させるので、形にとらわせずその時の変化を活かせるように、様々な視点や対応出来る多くの引き出しを準備したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	教材伴奏法ⅠBa
教員名	小野瀬　照夫

職名	08. 講師

履修者数	23
回答者数	18

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.89	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.72	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.78	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.83	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.39	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.44	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.78	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.83	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.94	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.94	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.61	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.94	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率 5: 76.47, 4: 47.06, 3: 52.94, 2: 11.76, 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

この講座では、学生たち全員が学校現場の音楽の授業で、児童･生徒たちに対して「弾き歌い」を聴かせ、適切な伴奏を弾くことで楽しく歌えるように勉強と練習を重ねていけるようにしようとしている。

約20人いた学生たちには、毎時間の授業で3人くらい当番を決め、その学生は中学校の歌唱共通教材7曲から選曲をし、その学生の伴奏で他の学生たちが児童･生徒役となって歌うようにしている。これは、ピアノを弾く学生にとっては「良い伴奏とは？」という視点で取り組み、歌う側の学生たちにとっては「歌いやすい伴奏とは？」という視点から伴奏を客観的に考えることができるようにするためである。

学生たちの中には、ピアノ専攻の学生だけではなく、どちらかというとピアノ演奏に苦手意識を持っている者の方が多いのが現状だった。また、その苦手な内容としては単にピアノを弾くことに対してだけではなく、「弾き歌いができない」と悩んでいる学生も多かった。「弾くだけでも大変な中、同時に歌も歌うとなると何もできない。」というのが本音のようであった。

学生たちには「作曲家が作った伴奏をそのまま弾けるにこしたことはないが、この講座では作曲されたとおりに弾けない場合にどのようにしたら良いか？ということを探る勉強もする」と伝えてあった。

授業では楽譜のアナリーゼとともに、「本来の伴奏の効果を残しつつ、簡略化させる工夫」についてのレクチュアも行い、より弾きやすい伴奏を探った。学生の中には、自分の当番に当たる前に、自分用の楽譜を作り、備えていた者もいた。

また、学校現場では不可欠の授業時における「発声練習」についての勉強・練習の必要性も強く感じたので、後期からは当番の時に楽曲の伴奏のみではなく、発声練習もひとり二つのパターンで行ない、弾く者も歌う者も互いに「良い発声練習」を追求し合う場を作った。このことによる効果も少なからず認められた。

全体としては、学生たちの歌う声が更に大きく出せると、より良い状態になると思われた。特に弾き歌いの場面で感じられた。やはり、弾くことに気を取られていることで自分の声に対する意識が薄れてしまっているように見受けられた。

●　問題点

アンケート回答によると、授業の難易度は「難しい・やや難しい」と「適切」がそれぞれ約半数であった。その理由は大きく二つ考えられる。1つ目はやはり「弾き歌い」の実技に思われる。共通教材といえども伴奏は簡単ではなく、更に歌いながらということに慣れていないようであった。また、発声練習は声楽専攻でないとあまり普段から意識せず、関わることがないため、どのようにしたら良いか見当がつかなかったようであった。

●　改善の方策

伴奏の原曲の効果を残しつつ、弾きやすくするための簡略化のコツを勉強させられるようにしていく。そのためには、楽典・和声・コードネームの学習と合わせて行うことが不可欠であると考える。
また、毎回の授業で様々な発声練習を行ない、歌うことでどのような発声練習が歌う側にとって良いのかを体験することが近道であると思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	教材伴奏法ⅡB
教員名	小野瀬　照夫

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.17	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.67	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.17	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.17	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.83	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.83	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.83	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
100.00	50.00	33.33	0.00	0.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

この講座を受けている学生は7人で、そのうちピアノ科に所属している者は5人、管楽器は1人、弦楽器1人という状態である。この講座では前年度のⅠで中学校歌唱共通教材の伴奏を中心に勉強してきた学生たちに、小学校の歌唱共通教材、中学校用合唱曲、高等学校Ⅰの内容に広げて扱ってきた。中でも、伴奏のピアノ譜が整えられていたⅠとは違って、コードネームのみの教材や、ハバネラやボサノバなどのような特殊なリズム形が求められる楽曲も扱った。難易度に関しての学生たちの回答では、「難しい・やや難しい」と「適切」が約半々になっていたが、専門分野の違いによって差が出たように思われる。一応、選曲は学生本人が行っているが、学生のスキルアップに適した選曲ができるようサポートが必要であると思われる。

また、小学校用の教材では、テキストとして扱っているものにやや難しい伴奏と簡易的な伴奏の両方が掲載されているものなので、それを学生のスキルに合わせて選べるようにしていた。特に、「弾き歌い」ができることを前提としているので、講座の毎時間に当番となった学生による伴奏で他の学生が児童・生徒役となって歌った後、その学生による弾き歌いは必ず行っていた。

後期になると、楽曲の伴奏のみでなく学校現場での授業を想定した「発声練習」の実習も追加して行った。これは、長年高等学校の現場で教育実習生による授業を見ていて、この発声練習の練習の必要性を感じたからである。「伴奏法」の講座で行うことについては、学生たちも納得し、真剣に取り組んでいた。特にこの講座にいた学生たちは、翌年の教育実習を控えているため、それに供えたものとして位置付けられていた。

更に、後期では本来「歌曲の伴奏」というものはどのようなものなのかを広く知り、体験するためにシューベルトやシューマンなどの歌曲の伴奏をひとり1曲ずつ取り組むことにし、個人個人のスキルに合わせて選曲した。この経験によってクラシック音楽の歌曲の伴奏とはどのようなものなのかを勉強できたのではないかと思う。

●　問題点

学生の回答によると、授業の難易度に「難しい･やや難しい」と答えた者が約半数いたので、「適切」と答えられるような選曲･内容にすることが必要かと思われるが、実際学校現場では共通教材などのような必須となる楽曲は避けられない。また、何を以て「難しい」と感じるのかをしっかり分析する必要があるが、学生の様子からすると「弾き歌い」と「コードネームと和声との関連の把握」の二つが難しく感じているように思われる。

●　改善の方策

上記の問題を改善するためには、以下の二つのことが考えられる。
一つ目は、「弾き歌い」の課題である。改善策は多々あるが、まずは伴奏譜の簡略化を自分でできるようにし、視線が鍵盤にかじりつかないようにする練習を積んでいくこと。
二つ目は、「楽典」「和声」「コードネーム」の把握に努め、単なる指のトレーニングに終わらず、理論的な裏付けのもとに伴奏に取り組めるようにすることであると考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	チェンバロ研究ＩＢ
教員名	梶山　希代

職名	08. 講師

履修者数	8
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.67	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 66.67 / 3: 100.00 / 2: 33.33 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

2021年度の受講者数は3名。前期から受講者は減少しているが、学習意欲の高い学生が残った。アンケート結果もほぼ演習系科目全体平均を上回り、授業の方向性に問題はないと思われる。この数年は初回授業でシラバスの読み合わせをしていることもあり、授業の到達目標も正しく理解されている。かつ「到達目標を充分に達成できた」という設問に対する回答が「強くそう思う」と「ある程度そう思う」であったことは、授業の進め方と学生の参加度がバランス良くかみ合った結果と認識している。また「授業を履修して自分のためになったことは何か」の設問の回答として、「関連分野の学習意欲」「新しいものの見方」が他の科目を大きく上回っていることは、多角的な見方・考え方を身につけることも授業の目的としているので、非常に嬉しい結果だった。

●　問題点

大きな問題はない。
自由記述にある「弾く時間がもっとあると嬉しい」という回答は毎年の課題であるのだが、実技面に関しては主にチェンバロ研究Ⅱでの比重が高くなるので、履修を推奨する。意外だったのは調律実習への関心の高さで、今後の時間配分に工夫の余地がある。

●　改善の方策

コロナ禍での対面授業は、学生とのコミュニケーションに非常に神経を使う。次年度もこの状況は継続することが予想されるため、演習時の指導、実習のやり方等、感染予防対策に充分気を配りつつ、より丁寧な指導を心掛けたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	チェンバロ研究ⅡB
教員名	梶山　希代

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 100.00
			3: 100.00	2: 0.00
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

2021年度の受講者は2名。コロナ禍で一年休学後に復帰した2名で、この授業をどうしても受けたかったという意志を持っての履修だった。そのため前期・後期を通して欠席もなく、非常に熱心で意欲的な学習態度であり、充実した授業を展開できたと思っている。自由記述欄の「一番ためになった授業だった」という回答は授業の進め方、理解してほしいと思っていることが正しく伝わった結果であり、教員にとっては何よりも嬉しい言葉だった。

●　問題点

特に問題はない。
強いて挙げるなら、二年目の授業は難易度・到達目標共にかなり高めに設定しているため、学生のレベル如何で、履修者のモチベーションが低下する危険がある。

●　改善の方策

脱落者を出さないために、個別の指導を細やかに行いたい。少人数クラスのため、それが可能と考えている。毎年クラスの雰囲気や学生のレベルも差があるため、シラバスの記載内容に沿いつつも、臨機応変な対応をしていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ソルフェージュ4b
教員名	加茂下　裕

職名	08. 講師

履修者数	18
回答者数	16

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.44	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.38	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.73	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.69	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.81	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.69	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.81	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.69	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.81	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00 / 4: 50.00 / 3: 18.75 / 2: 43.75 / 1: 6.25	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.87	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者の状況：　前年度の和声学2aクラスの受講生に作曲専攻の留学生1名を加えたクラス。小人数でコミュニケーションも取り易く、前年度からの継続であるため、非常に授業が進め易いクラスであった。ほとんどの受講生は付属高校の出身者で、学習意欲があり、学習態度も良く、理解力の高い受講生が多かった。

集計結果の分析：全体的に、ほぼ良好な回答を頂けていると思う。設問Ⅲcに関しては、新しい知識・技能だけでなく、関連分野への学習意欲や問題発見・解決能力を挙げた受講生も多く、「音楽的思考力を高める」科目としての効果を確認できたと思う。また自由記述欄の感想からは、筆者がこの学校の授業で心掛けている「楽しく・分かり易く・役に立つ」という方針が、受講生達に良く伝わっていたことも感じられた。

●　問題点

設問Ⅱbに対して、授業の難易度を難しいと回答した受講生が多かった点。

●　改善の方策

この科目の宿命とも言える問題であるが、難しい内容を「楽しく・分かり易く」伝える工夫を続けて学習意欲を高め、問題発見・解決能力の向上につながる「役立つ」科目となるよう今後も努めていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	和声学4a
教員名	加茂下　裕

職名	08. 講師

履修者数	18
回答者数	17

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.18	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.88	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.82	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.94	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.65	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.71	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.76	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.76	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.82	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.82	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.88	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.59	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.53	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.82	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 82.35 / 4: 35.29 / 3: 47.06 / 2: 41.18 / 1: 11.76	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.93	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者の状況：　前年度の和声学2aクラスの受講生に作曲専攻の留学生1名を加えたクラス。小人数でコミュニケーションも取り易く、前年度からの継続であるため、非常に授業が進め易いクラスであった。ほとんどの受講生は付属高校の出身者で、学習意欲があり、学習態度も良く、理解力の高い受講生が多かった。

集計結果の分析：全体的に、ほぼ良好な回答を頂けていると思う。設問Ⅲcに関しては、新しい知識・技能だけでなく、関連分野への学習意欲や問題発見・解決能力を挙げた受講生も多く、「音楽的思考力を高める」科目としての効果を確認できたと思う。また自由記述欄の感想からは、筆者がこの学校の授業で心掛けている「楽しく・分かり易く・役に立つ」という方針が、受講生達に良く伝わっていたことも感じられた。

●　問題点

設問Ⅱbに対して、授業の難易度を難しいと回答した受講生が多かった点。

●　改善の方策

この科目の宿命とも言える問題であるが、難しい内容を「楽しく・分かり易く」伝える工夫を続けて学習意欲を高め、問題発見・解決能力の向上につながる「役立つ」科目となるよう今後も努めていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ソルフェージュ2b
教員名	加茂下　裕

職名	08. 講師

履修者数	19
回答者数	18

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.78	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	3.94	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.41	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.83	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.78	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.39	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.61	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.44	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.56	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.22	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 77.78 / 4: 11.11 / 3: 16.67 / 2: 11.11 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者の状況：ソルフェージュの初学者を中心としたクラス。全くの初心者でも少しずつ必要な音楽力を身に付けていけるような授業内容・実施方法を基本としつつ、受講生ごとの多少の経験の違いに対応して内容を色々な難易度にフォーカスすることも考えながら授業を進めた。

集計結果の分析：設問Ⅱbへの回答によると、大部分の受講生が授業の難易度を適切と感じていたようであり、また設問Ⅲa・bへの回答によると、やはり大部分の受講生が学習意欲を感じ、到達目標に達したと感じているようであるので、上記のような教員の意向は充分に受講生達に伝わっていたものと思われる。

●　問題点

設問Ⅲcへの回答に関して、関連分野への学習意欲をもっと高めたいと思われる点。

●　改善の方策

ソルフェージュはソルフェージュのためのソルフェージュではないのであり、専門のレッスンや理論科目への広がりが大切な科目であると思われる。ソルフェージュで必要となる音楽力の究極の目標は「耳を開く」ことであり、そのことが音楽全般の学習や各自の音楽表現（創作・演奏）に与える影響は計り知れない。この点について、ある程度は体験してもらえているものと思われるが、体験していることをもっと強く自覚してもらえるような工夫が必要なように思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	音楽の基礎理論Bb
教員名	加茂下　裕

職名	08. 講師

履修者数	61
回答者数	56

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.86	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.66	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.44	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.27	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.89	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.18	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.11	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.48	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.52	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.41	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.61	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.59	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.38	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 76.79 / 4: 21.43 / 3: 37.50 / 2: 8.93 / 1: 1.79	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.63	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者の状況：日本人学生61名の受講生から成るクラス。この規模（多人数）のクラスでの理論科目の講義は初めてであり、授業時間も短く、また新型コロナへの感染対策なども絡んで色々と懸念の多い年度であったが、受講生達の協力もあって、無難に良い雰囲気で授業を進めることができたと思う。

集計結果の分析：授業の内容や実施法に関して大きな問題はなかったように思う。設問Ⅲcに関して、関連分野への学習意欲を高めることが今年度の課題としていたことであり、この点に関してもある程度の成果は上がっていると思う。

●　問題点

設問Ⅲcに挙げられている「新しいものの見方」をもっとしっかり把握させたい。

●　改善の方策

「新しい知識」と「新しいものの見方」を区別させることが必要になってくると思う。「知識さえ得られれば、ものの見方はどうでも良い」という風潮を払拭していくことは並大抵のことではないと思うが、毎回教材として取り上げている音楽作品の分析を通じて、「知識」を応用した「ものの見方」を伝えることはこの授業の根幹とも言えることであり、この点にもっと強く興味を抱かせるような工夫をしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	和声学2b
教員名	加茂下　裕

職名	08. 講師

履修者数	22
回答者数	19

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.11	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.68	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.47	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.53	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.11	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.42	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.37	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.63	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.47	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.32	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.68	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.58	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.37	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.32	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率 5: 89.47, 4: 21.05, 3: 31.58, 2: 10.53, 1: 5.26	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.68	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者の状況：入学前に和声を学んだことのない和声の初学者を集めたクラス。和声への関心と学習意欲を高めることを心掛け、基礎的な内容の解説と基本的な課題の考え方の解説を丁寧に行って授業を進めた。時間が進むに従って受講生の理解力の差が広がっていくのがこの初学者クラスの特性の一つだと思うが、理解の速い受講生には補充の問題を多く行うように鼓舞し、理解の遅い受講生にはドロップアウトしないようにフォローすることを心掛けた。

集計結果の分析：設問Ⅱbへの回答によると、この授業の難易度を難しいと感じた受講生が多いようだが、設問Ⅲaへの回答によると、ほとんどの受講生は到達目標に達したと感じているようであり、和声初学者クラスの大きな課題とも言える「授業内容の理解」に関しては大きな問題はなかったように思う。

●　問題点

設問Ⅰdへの回答に表れている通り、予習・復習に掛ける時間が少ない点。

●　改善の方策

和声初学者の場合、予習によって内容の確認をするのは難しいと思うが、復習、特に問題練習によって内容の理解を深めていくことが大切なことであるので、その点をもっと強調する必要があるものと思われる。来年度から予復習の内容・時間についてシラバスに記すことになったことの効果を期待したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	日本の伝統音楽概説B
教員名	黒川　真理恵

職名	08. 講師

履修者数	12
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.17	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.17	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.83	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.17	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.17	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 83.33 / 4: 33.33 / 3: 50.00 / 2: 16.67 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

● **現状の説明**

この授業の目的は、祭囃子、三味線、箏の基本的な奏法と実践的な指導法を習得し、教職実践の指導に活用することである。授業形態は演習で、受講者数は６名、火曜日１限に開講した。受講者のうち、２名は前期から継続して履修していた。後期から履修の５名のうち、１名は途中から欠席となったため、最終的には６名となった。

第１～３回授業で祭囃子、第４～６回授業で三味線、第７～15回授業で箏の実習を行った。祭囃子は、締太鼓・大太鼓・当り鉦・篠笛のそれぞれの基本的な演奏法を習得し、合奏を行った。篠笛は、感染防止対策に留意し、事前事後の消毒や、換気を行うようにした。箏は、《さくらさくら》や、わらべうたを演奏した。期末試験では《六段の調》初段を課題曲とした。難易度の高い曲であるが、粘り強く習得し、全員弾けるようになった。

● **問題点**

祭囃子や箏は、楽器の数が十分足りていたため、時間をかけて行うことができた。三味線は、教員の私物の三味線２挺を用いて交代で練習したが、待ち時間が長くなってしまった。

● **改善の方策**

三味線については、楽器の数が足りないため、持ち方を体験する程度にとどめることとする。それ以外の楽器の習得に時間をかけることとする。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	日本音楽史概説B
教員名	黒川　真理恵

職名	08. 講師

履修者数	26
回答者数	19

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.42	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.47	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.58	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.11	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.84	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.16	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.16	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.95	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.37	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.79	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.37	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.95	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.74	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 68.75 / 4: 43.75 / 3: 12.50 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

● **現状の説明**

この授業の目的は、日本の伝統音楽の各種目の歴史や音楽的特徴を理解することである。授業形態は講義で、受講者数は19名、火曜日２限に開講した。受講者のうち２名は前期から継続して履修していた。

日本の伝統音楽の種目ごとに、歴史や音楽的特徴を解説した。パワーポイントと同じスライドを印刷して配布した。授業の終わりにコメントシートを提出させ、質問には翌週の授業で回答した。単元ごとにまとめ課題を出し、知識の定着をはかった。

● **問題点**

数名、授業中に私語があることがあった。なるべく注意をするようにしたが、すぐに注意できないときは、周囲の学生に迷惑がかかっていたように思われる。

● **改善の方策**

授業中に私語をしないよう指導を徹底する。授業に集中したい学生がいることを認識させる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	和声学(Konzertfach)2
教員名	白石　茂浩

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
50.00	50.00	50.00	0.00	0.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は１・２年生合同授業の形態をとっており、Konzertfachの学生は同じ内容の授業を二度受講することになっているが、ここには「前期授業終了後にある、一年生にとって初めてのウィーン研修までに、ある程度のところまで授業を進めておかなくてはならない」という事情がある。このような事情からは必然的に授業進度が速くなり、これは進度の速い授業は学習内容全体の流れ・個々の事柄の関連性の理解をたやすく一方、深く学ぶことに関しては弱くなる。これを補うために、本科目については同じ内容の授業を二度受講する措置がとられている。

この科目の目的は「自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになる」というKonzertfach 学生にとっての最終目標に向けて、和声音楽と称される近代西洋音楽の骨子をなす機能的和声法の基礎知識を得ることであり、このため授業は講義形式を主体とし、学んだ知識を確かなものにするために課題自習を伴うものとなっているが、前期に比べ後期の和声学（Konzertfach ）２・４ではこの課題の比率が高くなっている。

和声学１から４まで、それぞれの到達目標は〈和声学１：機能的和声法の概要を知ることができる〉〈和声学２：機能的和声法の概要を知るとともに、学んだ知識の応用について知ることができる〉〈和声学３：機能的和声法への理解をより深めることができる〉〈和声学４：楽曲分析・解釈を行うにあたって必要不可欠な〝自分で考える力〟を身につけることができる〉である。

今年度の受講生は1年生2名（サクソフォーン・ピアノ各一名）、２年生1名（打楽器）の合計3名であった。

今回のアンケートでは、Ⅱb「この授業の難易度はどうでしたか」とⅡd「この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かり易かった」について、学生の回答に見過ごすべかざる差異が認められる。実態としては２名とも、一年生としては同程度に評価できる目標を達成しており、このよ
うなところから、この差異は学生の達成目標に対する認識の違いから生じたものであると考えられる。

●　問題点

学生の間にも達成目標の対する認識の違いが見られるところから、一部の学生と教員の間にも達成目標に関する意識のズレが存在すると考えられる。

●　改善の方策

合同授業であるところから一年生と二年生では到達目標が異なることをガイダンス時に言うにとどまらず、その後の授業中にも折に触れ認識させるようにするとともに、学習内容の重要な点をを簡単にまとめたプリントを配布することで目標達成度を自己チェックできるようにし、この自
己チェックの指導に際しても学年によって異なる達成目標に言及し、これを自覚させるように導く。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	対位法(Konzertfach)B
教員名	白石　茂浩

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 0.00 / 4: 50.00	3: 50.00 / 2: 0.00 / 1: 50.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

３年生で学ぶ対位法の学習目的は、和声学同様、自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようにすることであるが、対位法Bでは、〈対位法Aで学んだ知識を確かなものにする〉とともに、1・２年時に学んだ〈和声学の知識との統合ができる〉をその目的として掲げている。

今年度の受講生はピアノ専攻2名だった。

対位法や和声学の学習に関しては、ピアノを専攻している学生が有利になると一般的に言われているが、今年度の対位法はこのピアノ専攻学生が2名であったところからか、授業も円滑に進められたように感じていたが、アンケートの結果からは学生の方も同様に感じていたことが推察できる。

このようなところから、今年度のアンケートからは取り立てて問題とする点を見出すことはできないが、Ⅲc「この授業を履修して自分のためになったことはなんですか」の項目の『問題発見・解決能力』にチェックが入らなかったことが残念である。

●　問題点

「知識の統合」を目標に掲げているところからはⅢc「この授業を履修して自分のためになったことはなんですか」の『新しい知識・技能』のチェックが入っていないことを問題と捉えないが、『問題発見・解決能力』については一考を要すると考える。

●　改善の方策

『問題発見・解決能力』の成長に資する内容を盛り込んでいくことを今後のテーマとして考えていきたいが、今年度はクラス状況に恵まれていたこともあり、しかも、今年度の授業の難易度についても1名は「やや難しい」と答えているところから、これについては数年間、様子を観る必要
があると考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ピアノ伴奏法ⅡB
教員名	田中　梢

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	5.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	1.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 100.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

1年間を通じて伴奏法の主だったスタイルを学ぶ。前期は合唱の伴奏と指導法・イタリア古典歌曲・カンツォーネ・ドイツ歌曲・フランス歌曲の伴奏を、後期はオーケストラ伴奏の代わりとしてのピアノ伴奏について、オペラ・オペレッタ・ミュージカルの伴奏を学んだ。
受講者が一人であり、しかも意欲的で優秀な学生であったのでシラバスとかけ離れてたくさんの課題をこなす事が出来た。

●　問題点

優秀・勤勉なゆえに難しい課題を出し続けたので、この授業の課題をこなすのは簡単ではなかったと思う。試演会では歌手の方々の守備範囲があるので学習した曲の4分の１も出来なかった。

●　改善の方策

今回は能力以上の課題を出したとは思っていないので、次回から生徒の能力に合わせて課題を出すつもりでいる。試演会で学習したすべての曲を歌手の方に歌っていただきたいがなかなか難しいかもしれない。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ピアノアンサンブルB
教員名	田中　梢

職名	08. 講師

履修者数	13
回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.31	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.92	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.92	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.62	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.69	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.08	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.23	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.77	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.77	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.62	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.85	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.85	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.69	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.92	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 83.33 / 4: 33.33 / 3: 50.00 / 2: 8.33 / 1: 41.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.82	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

２人で1グループとしてレッスンを受ける。
ピアノアンサンブルの導入から初めて、連弾・2台ピアノを一年間で学ぶ。
コロナかという事で連弾も2台のピアノを使って学ぶ。シューベルト・ブラームス・ドヴォルツァーク・フォーレ・ドビュッシー・ラヴェル・サンサーンスなどの必ず触れておきたいアンサンブル曲を中心に自由課題も沢山学んだ。90分の中で8グループは時間が短く
自由課題の時は4グループづつのレッスンとなったが、それでも時間は足りなかった。
今回8手の2台ピアノが出来たのは生徒たちが連携撮れていて意欲的だったからだと思う。

●　問題点

圧倒的に時間が少ない。1グループ最低30分は欲しいが、生徒が多いと無理である。
試演会も沢山の曲をやって欲しかったが1グループ1曲しかできなかった。

●　改善の方策

公開レッスンのような形で1回の授業でレッスンするグループを絞ればよいかもしれないが、毎回必ず弾いてもらいたいと思うと現状のまましか思いつかない。人数が多い時は2コマ枠をもらえるとよりじっくりレッスンが行えると思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	オペラ研究ＩＢ
教員名	十川　稔

職名	08. 講師

履修者数	12
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.45	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.91	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.90	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.91	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.73	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.36	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.36	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.64	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.40	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.73	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.91	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.82	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.55	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.82	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 90.91 / 4: 63.64	3: 54.55 / 2: 27.27 / 1: 18.18
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.90	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

大学3年生声楽専攻の選択科目である。当科目は、演出家、指揮者、声楽教員、ピアノ教員が関わり、4つの教室に分かれそれぞれにアンサンブル指導、演出指導等を行い、学年の最後にはオペラの役柄にふさわしい衣装をつけ、パネルを用い、また小道具なども用意し、演技をしながら歌唱をすると言うオペラの実際を試演会としてグランツザールにて発表する。
受講者数は12人であり当日欠席したものを除き11人からアンケートが提出された。当授業においては、問題発見・解決能力、学習意欲、新しいものの見方、新しい知識・技能いずれにおいても講義・演習系科目全体と比較して高い解答率となった。OK取り寄せる集計結果であるが、3点代が1項目、後は4点代となった。3点台となった項目は1回の授業のためにどのぐらい予習復習をしましたかと言う設問であり、概ね5時間以上となったが3時間または2時間と言う選択もあったため3.91である。予習復習時間としては充分かと考えられる。

●　問題点

4点台の中で1番低くなっているのは開講時に成績評価の基準が明確に示されていたと言うものである。4、36となった。

●　改善の方策

成績評価に関してはシラバスに明記してある。81%の学生が肯定を選択しているが、18%の学生がどちらとも言えないの3点台を選択されたため4.36と言う結果である。シラバス明記だけでなく講義の中でも明確にしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	オペラ研究ⅡB
教員名	十川　稔

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	3.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 50.00 / 2: 50.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

大学4年生声楽専攻の選択科目である。当科目は、演出家、指揮者、声楽教員、ピアノ教員が関わり、4つの教室に分かれそれぞれにアンサンブル指導、演出指導等を行い、学年の最後にはオペラの役柄にふさわしい衣装をつけ、パネルを用い、また小道具なども用意し、演技をしながら歌唱をすると言うオペラの実際を試演会としてグランツザールにて発表する。
受講者数は3人であり当日欠席したものを除き2人からアンケートが提出された。当授業においては、問題発見・解決能力、学習意欲、新しいものの見方、新しい知識・技能いずれにおいても講義・演習系科目全体と比較して高い解答率となった。集計結果であるが、3点代が3項目、後は4点代,5点代となった。3点台となった項目はのうち1回の授業のためにどのぐらい予習復習をしましたかと言う設問では、5時間以上1名となったが2時間1名であり3.5となった。

●　問題点

この授業の難易度はどうでしたかと言う質問に対し、1名は難しいと言う回答となった。もう1名は適切と言う回答であった。

●　改善の方策

アンサンプルにおいては、音楽の基礎力も強く問われる。読譜能力や言葉の表現など声楽専攻として集大成となる場面である。学生たちは難しい課題にも果敢に挑戦し、1年間の指導を受け大きな成長を遂げているが、その道のりで難しいと感じる場面もあったようである。授業においては、丁寧な指導を心がけているが、さらなる分割指導など工夫を考えたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	特別支援を必要とする生徒の理解②
教員名	明官　茂

職名	08. 講師

履修者数	29
回答者数	24

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.63	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.13	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.08	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.54	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.63	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.46	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.79	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.46	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.58	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
62.50	70.83	45.83	29.17	16.67

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.78	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

30名程度の受講者であった、特別支援教育については基礎的な知識はなかったが、これまでの自分達の経験から授業について真剣に考えてくれていた。障害者支援の内容について専門的に説明した部分もあったが、学生は真剣に聞いてくれた。特別支援の知識がそれほどない状態なので、丁寧な説明を心がけたい。

●　問題点

授業に対する予習復習については、あまり負担をかけないように心がけた。アンケートの結果を見て、今後は授業後の課題を与えても良いかと思う。また説明が中心で学生とのコミュニケーションをもう少し工夫すればよかったかもしれない。

●　改善の方策

授業では毎回ショーテストを行っているが、授業によってはレポートを設定して次回に提出するように工夫する。グループごとの話し合いの時間を定期的に設定したい。また資料については読みにくいと言う意見もあったので簡潔な内容に工夫したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	合唱ⅢB（歌唱指導法・日本の伝統的な歌唱を含む）	職名	08. 講師	履修者数	26
教員名	山﨑　正彦			回答者数	26

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.38	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.42	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.42	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.15	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.81	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.77	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.88	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.96	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.23	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.04	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.85	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.69	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 70.83 / 4: 25.00 / 3: 12.50 / 2: 12.50 / 1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.72	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

開講曜日は水曜日、4限、受講者数は26名である。

当初の合唱（合唱指導法）であり、本来の学修内容は合唱指導法であり、個々人が任意の合唱曲を選び、指揮を行いながら模擬指導を実践し、その過程での発問内容、及び、その発話の仕方、実践的な指揮法を修得することであった。しかし、新型コロナ感染症の感染予防のために、シラバスの内容とは全く異なる授業内容となった。期間を通して一切、歌うことのない授業であった。

その歌えないという状況下において苦肉の策として発案した打楽器によるアンサンブルを一度成立させ、そのアンサンブルに対して各自が指揮を行い、合唱指導と同様の発問等の指導上留意すべき点を学修することとした。

授業の内容については概ね充足していると考えるが、やはり自由記述に「暇な時間がつらい」とあるようにグループごとに合奏のため待ち時間が生じてしまうデメリットがあった。

自由記述は他にも「授業の進め方に問題がある」とあり、同様のことを学生は指摘しているものと思われる。

これらは教員にとり衝撃的な指摘の一つである。ただし、この自由記述は１人もしくは多くとも２～３人のものであることは十分に良くわきまえているつもりである。授業内での当方の解説等にうなずきながらメモをとる学生も少なくなく、自らの授業を全否定することも拙速な対応となる。過度に悩み深め自らを見失うことが新年度の学生にとり、かえって不利益になることにつながる。したがって、この評価を事実として受け止め、教員人生のこれからを学生のより良い学びのために改善を怠ることなく、研鑽を積むことに自らを向ける契機とする以外にない。

●　問題点

合唱を合奏に代えての指揮を交えての指導、加えて、改めて合奏に取り組むという学習内容は、いずれも他大学では必修内容として取り入れていないものである。当方の説明が不足していたのか、指導力不足であるのか、〈新しいものの見方〉〈新しい知識・技能〉が他の講義科目に比して低いことが衝撃であり、それは当然、反省点であった。

●　改善の方策

2022年度は感染状況は現在のままに推移した場合、マスクをつけての合唱を予定している。そうなると、少なくとも本科目における「暇な時間がつらい」＝待ち時間が長いという問題は改善の方法に向かうと思われる。加えて、私が担当する他科目同様、ワークシートに本授業の評価という項目を加え、問題を先送りにしないよう配慮する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	合唱ⅣB
教員名	山﨑　正彦

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.75	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.75	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.75	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.25	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.25	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.75	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.75	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.25	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00	4: 75.00
			3: 25.00	2: 25.00
			1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

新型コロナ感染症の蔓延に伴う本学の活動指針に沿い、シラバスの内容とは全く異なる授業内容となった。期間を通して一切、歌うことのない授業であった。本来の学修内容は合唱指導法であり、個々人が任意の合唱曲を選び、指揮を行いながら模擬指導を実践し、その過程での発問内容、及び、その発話の仕方、実践的な指揮法を修得することであった。

その歌えないという状況下において、まさに苦肉の策として発案した打楽器によるアンサンブルを一度成立させ、そのアンサンブルに対して各自が指揮を行い、合唱指導と同様の発問等の指導上留意すべき点を学修することとした。

授業内で実施したアンケートには反省の材料が多いと受け止めている。合唱ができなかった、歌えなかった、本来の学修内容ではなかったことが、この低い数値をもたらしているのか、それとも他の要因、本質的な問題点を学生が感じとっているからなのか、この結果は、どちらからなのか、それとも双方なのか、それが判明すると当方も対応が図りやすいのだが、こちらで推察する以外にない。

●　問題点

〈現状の説明〉を受けて、Ⅱ－ｄｅｆｈ　Ⅲ-ｂｃ　の評価の低さは、本質的な問題としての当方の指導内容、指導方法に課題があることを示していると判断すべきであろう。指揮をしながらの合唱指導には音楽科教師として教壇に立つ際に求められる音楽的な指導力、音楽性、そして分かり易く何かをつたえるコミュニケーション能力、人間力のようなものが求められる。それらを個々人の演習を通して、または、他者の演習を観察することを通して合唱指導に際して〈推奨すべきこと〉〈勧めないこと〉を学修することが本科目のねらいであった。それを歌わずに、打楽器合奏に代えて辛うじて実施したわけであるが、当方も本学で初めて取り入れた内容であり、様々に指導が行き渡らなかったものと反省している。

●　改善の方策

2022年度は、このまま新型コロナ感染症の感染状況が低下傾向に向かうという前提の下、マスクをつけての合唱を行う予定である。それにより改善する点と、先に述べたように本質的に残る問題点とがある。後者に関しては、授業内のワークシートにその都度、授業評価を取り入れ、課題を持ち越さないように工夫をしてゆく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	合奏B(和楽器を含む)
教員名	山﨑　正彦

職名	08. 講師

履修者数	27
回答者数	24

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.92	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.71	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.04	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.63	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.08	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.79	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.08	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.21	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.29	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.46	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.21	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.17	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 68.18 / 4: 36.36	3: 36.36 / 2: 9.09 / 1: 31.82
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.15	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

開講曜日は水曜日、5限である。受講者数は26名。合奏という科目名であるが、実質は学生自らが合奏を行いながら、その指導法について学修する。2021年度は特に、新型コロナ感染症の感染防止の観点から、合唱ⅢⅣB（4限）の授業を次時5限に続く合奏Bとの関連授業として４・５限をセット化し、4限は合奏の編曲と楽譜作成、5限については、本来の学修内容である合奏をグループ活動として実施することとした。ただし、5グループでSAの楽器を共用することにより、どうしても待ち時間が生じてしまったことが大きな問題点である。

それでも、この合奏経験に関する学生の評価は高く、学修内容としての価値を認めている。待ち時間をどのように改善するのか2022年度秋まで研究しておきたい。

●　問題点

〈新しいものの見方〉〈新しい知識・技能〉について講義系の他科目に比して低調である。私はこの2項目での満足度は大学の授業としての核心的部分であると考えている。学生の評価の低さは事実として、当方が全く新しさを提供できなかったのかどうかとなると、その点に関しては伝えるべきことを伝えてきたつもり、という認識であった。ということで、この数値の低さは少なからず衝撃であった。加えて自由記述に「何が目的の授業か分からなかった」とあるが、これについては深刻に受け止めざるをえない。なぜかというと、これについては再三伝えてきたつもりであり、述べたように4・5限を連続としてまで新たに作成した授業内容である。それが分かりづらかったか、当方の伝え方が好ましくなかったのか、まさに、教員と学生の意識のずれを如実に表している。

●　改善の方策

他科目でも述べたように、毎時間のワークシートに本授業の評価欄を設け、自由記述についても必要に応じて学生に記述して頂く方法をとりたい。それにより問題を持ち越すことなく、なおかつ〈何がどのように良くないのか〉を具体的に当方が把握できると考えるからである。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	音楽の基礎理論(Konzertfach)B
教員名	横山　裕美子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00	4: 50.00
			3: 0.00	2: 0.00
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

● 現状の説明

Konzertfachに在籍する一年生の必修授業である。今年は2名である。毎年のことながら優秀で熱心な学生たちである。わからないときは必ず質問をしてくれるので、理解度を見ながら授業を進めていくことができた。ウィーン留学に向けて、イタリア語とドイツ語の音楽用語テストも毎回行っている。2人とも専攻がピアノなので、ピアノ独奏曲やピアノを含めた室内楽について知識を深められるよう配慮した。

● 問題点

特にないと考える。

● 改善の方策

引き続き、授業を工夫していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	和声学4b
教員名	横山　裕美子

職名	08. 講師

履修者数	29
回答者数	19

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.37	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.37	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.32	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.79	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.58	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.79	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.68	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.47	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.47	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.74	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.68	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.63	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
88.89	22.22	27.78	11.11	0.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

2021年度の2年次和声学（必修）bクラスは、2つのクラスの合併クラスである。ひとつは、1年次のシラバスの内容を完了し日本語に支障がない学生たちのクラスであり、もうひとつは、1年次の進度が非常に遅かった留学生クラス（「転回形」以降に進んでいなかった）である。私は2年次の和声学のみの担当なので、1年次の詳しい状況はわからないが、この進度の遅れの一つの原因は日本語習得の遅れにあろうかと思われる。
そもそも和声学という科目は2年間に渡る理論の積み重ねなので、2年次の和声学の勉強は1年次のシラバスの内容を完了していることが大前提であり、そうでなければ、新しくさらに複雑な理論を積み重ねていくことはできない。
このように著しく差のある合併クラスという厳しい状況の中、2年次のシラバス内容を完了するためにはどうしたら良いか熟考した結果、予定していた指導内容を見直し、取捨選択し、授業プリントを1から作り直すことにした。授業1回ごとに内容を分析し、その結果を反映した次回プリントを毎週作成するという作業と、小テスト宿題を頻繁に出し、個別アドバイスを書き込んで返却するという作業を一年間続けた。授業では毎回順番に板書課題を学生に当てて、一人一人アドバイスを直接伝えることをやり続けた。これを”わかるようになるためのチャンス”と前向きに捉えた学生たちはどんどん力を伸ばしていったので、そのことがクラス全体の雰囲気に影響を与え、後期は小テストの提出率・正解率、そして板書課題の正解率も上昇した。
留学生のために1年次の復習の機会を何度か持ったが、前期試験再試の時は1年次の復習課題の提出を必須とした上で、再試を受けさせた。（この提出は不公平にならないよう留学生・日本人共に再試該当者全員に課した。）
どの学生も努力していたことは十分に感じられたし、2年次のシラバス内容を最後まで完了することができた。しかし、この一年は試行錯誤の連続で、今までで一番困難さを感じる年であった。

●　問題点

1年次の進度に著しく差があったクラスによる合併クラスであること。

●　改善の方策

和声学は2年間に渡る理論の積み重ねであるので、このように1年次の進度に著しく差があったクラスによる合併クラスは、無理である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	音楽文化論B
教員名	遠山　菜穂美

職名	02. 教授

履修者数	10
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.29	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.29	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.29	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.29	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.29	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.43	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.29	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.43	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.57	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.71	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.57	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.57	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.86	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
57.14	57.14	28.57	28.57	42.86

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	作品研究〔鍵盤〕B
教員名	遠山　菜穂美

職名	02. 教授

履修者数	18
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.45	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.64	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.82	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.91	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.27	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.82	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.91	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.82	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.82	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.73	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.82	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
81.82	72.73	54.55	18.18	9.09

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	音楽史B
教員名	遠山　菜穂美

職名	02. 教授

履修者数	44
回答者数	23

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.57	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	3.70	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.78	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.26	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.61	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.04	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.57	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.26	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.26	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.57	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.48	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.70	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.17	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 78.26 / 4: 21.74	3: 56.52 / 2: 0.00 / 1: 0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.26	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	P.A.C.S.4
教員名	遠山　菜穂美

職名	02. 教授

履修者数	9
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.86	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	3.71	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.14	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.14	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.43	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.71	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.43	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.43	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.43	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.43	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.71	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.57	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 71.43 / 4: 57.14	3: 71.43 / 2: 28.57 / 1: 14.29
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	ｵｰｹｽﾄﾗ･ｳｲﾝﾄﾞｵｰｹｽﾄﾗのための合奏ﾍﾞｰｼｯｸⅠ	職名	03. 特任教授	履修者数	27
教員名	浅野　高瑛			回答者数	24

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.67	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.63	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.75	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.63	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.04	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.58	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.73	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.46	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.75	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.08	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.92	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.67	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.75	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 72.73 / 4: 36.36	3: 9.09 / 2: 18.18 / 1: 0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.61	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	ｵｰｹｽﾄﾗ･ｳｲﾝﾄﾞｵｰｹｽﾄﾗのための合奏ﾍﾞｰｼｯｸⅡ	職名	03. 特任教授	履修者数	6
教員名	浅野　高瑛			回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.83	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.83	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.17	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 50.00	3: 66.67 / 2: 16.67 / 1: 0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	ｵｰｹｽﾄﾗ･ｳｲﾝﾄﾞｵｰｹｽﾄﾗのための合奏ﾍﾞｰｼｯｸⅢ	職名	03. 特任教授	履修者数	3
教員名	浅野　高瑛			回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.67	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.67	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00, 4: 50.00, 3: 50.00, 2: 0.00, 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	ｵｰｹｽﾄﾗ･ｳｲﾝﾄﾞｵｰｹｽﾄﾗのための合奏ﾍﾞｰｼｯｸⅣ	職名	03. 特任教授	履修者数	1
教員名	浅野　高瑛			回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00, 4: 100.00, 3: 100.00, 2: 100.00, 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	オーケストラＩＢ
教員名	梅田　俊明

職名	03. 特任教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.25	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.75	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.50	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.25	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.75	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.25	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.25	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 25.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	オーケストラⅡＢ
教員名	梅田　俊明

職名	03. 特任教授

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.75	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.25	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.25	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 50.00 / 2: 50.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	オーケストラ
教員名	梅田　俊明

職名	03. 特任教授

履修者数	21
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.20	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.80	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.40	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.60	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.40	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.60	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.20	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.80	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00, 4: 25.00, 3: 0.00, 2: 25.00, 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.67	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	オーケストラⅣB
教員名	梅田　俊明

職名	03. 特任教授

履修者数	8
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.40	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.40	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.20	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.80	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.40	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.40	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.20	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.40	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.40	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00, 4: 80.00, 3: 60.00, 2: 60.00, 1: 60.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.50	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	合唱ＩＢ
教員名	荻久保　和明

職名	03. 特任教授

履修者数	65
回答者数	54

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.79	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.31	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.80	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.89	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.94	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.17	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.15	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.37	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.59	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.31	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.24	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
70.37	29.63	22.22	7.41	9.26

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	合唱ⅡＢ
教員名	荻久保　和明

職名	03. 特任教授

履修者数	48
回答者数	40

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.28	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.78	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.90	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.23	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.05	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.15	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.05	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.10	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.38	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.38	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
64.10	41.03	30.77	23.08	23.08

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.49	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	ﾎﾟﾋﾟｭﾗｰﾐｭｰｼﾞｯｸB〔作曲法・編曲法を含む〕
教員名	荻久保　和明

職名	03. 特任教授

履修者数	17
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.14	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.71	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.86	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.86	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.67	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.29	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.71	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.43	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 28.57 / 3: 28.57 / 2: 28.57 / 1: 14.29	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	室内楽Ⅰ〔異種楽器〕c
教員名	佐々木　雄二

職名	03. 特任教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.50	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.75	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.25	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.75	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.67	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 75.00 / 3: 75.00 / 2: 100.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	室内楽Ⅱ〔異種楽器〕c
教員名	佐々木　雄二

職名	03. 特任教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 50.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	室内楽Ⅲ〔異種楽器〕c
教員名	佐々木　雄二

職名	03. 特任教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 0.00 / 4: 0.00 / 3: 50.00 / 2: 50.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	室内楽Ⅳ〔異種楽器〕c
教員名	佐々木　雄二

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 0.00, 4: 100.00, 3: 0.00, 2: 100.00, 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	－	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	ﾗｲﾌﾞﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ＆ｽﾀｯﾌﾜｰｸB
教員名	城之内　ミサ

職名	03. 特任教授

履修者数	8
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.60	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.40	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.40	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.80	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.80	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.20	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.20	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00, 4: 20.00, 3: 60.00, 2: 60.00, 1: 60.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	THE 業界人～仕事の流儀ⅠB～
教員名	城之内　ミサ

職名	03. 特任教授

履修者数	10
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.40	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.80	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.60	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 40.00 / 3: 60.00 / 2: 20.00 / 1: 60.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	THE 業界人～仕事の流儀ⅡB～
教員名	城之内　ミサ

職名	03. 特任教授

履修者数	10
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.86	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.29	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.14	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.86	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.86	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.14	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.57	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.57	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.57	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.86	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 71.43 / 3: 57.14 / 2: 14.29 / 1: 42.86	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	P.A.C.S.8
教員名	城之内　ミサ

職名	03. 特任教授

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.60	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.33	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.17	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.17	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 40.00 / 4: 40.00 / 3: 20.00 / 2: 20.00 / 1: 60.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	ウインドオーケストラＩＢ
教員名	小林　恵子

職名	05. 特任准教授

履修者数	30
回答者数	28

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.50	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.82	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.61	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.57	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.11	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.86	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.36	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.14	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.39	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.11	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.93	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.61	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.82	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.14	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00 / 4: 42.86 / 3: 21.43 / 2: 17.86 / 1: 14.29	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.58	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	ウインドオーケストラⅡB
教員名	小林　恵子

職名	05. 特任准教授

履修者数	17
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.80	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.71	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.07	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.40	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.07	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.80	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.47	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.14	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.07	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 71.43 / 4: 28.57	3: 28.57 / 2: 28.57 / 1: 0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.30	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	ウインドオーケストラⅢB
教員名	小林　恵子

職名	05. 特任准教授

履修者数	15
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.53	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.87	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.93	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.27	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.73	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.20	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.79	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.20	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.87	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.93	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.80	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 72.73 / 4: 36.36	3: 27.27 / 2: 27.27 / 1: 27.27
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.75	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	ウインドオーケストラⅣB
教員名	小林　恵子

職名	05. 特任准教授

履修者数	18
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.40	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.93	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.54	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.15	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.47	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.53	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.07	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.53	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.20	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.93	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.40	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.20	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 46.67	3: 13.33 / 2: 40.00 / 1: 20.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.27	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	室内楽Ⅰ〔異種楽器〕d
教員名	澤　敦

職名	05. 特任准教授

履修者数	6
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.40	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 60.00	3: 80.00 / 2: 60.00 / 1: 60.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	室内楽Ⅱ〔異種楽器〕d	職名	05. 特任准教授	履修者数	3
教員名	澤　敦			回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 33.33, 4: 33.33, 3: 100.00, 2: 33.33, 1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	室内楽Ⅲ〔異種楽器〕d	職名	05. 特任准教授	履修者数	4
教員名	澤　敦			回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.75	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.25	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00, 4: 50.00, 3: 75.00, 2: 50.00, 1: 75.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	室内楽Ⅳ〔異種楽器〕d
教員名	澤　敦

職名	05. 特任准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00, 4: 0.00, 3: 0.00, 2: 0.00, 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	室内楽Ⅱ〔異種楽器〕b
教員名	松岡　裕雅

職名	05. 特任准教授

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	5.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	1.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00, 4: 100.00, 3: 100.00, 2: 100.00, 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	室内楽Ⅲ〔異種楽器〕b
教員名	松岡　裕雅

職名	05. 特任准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 100.00 / 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	セルフプロデュースパフォーマンスB
教員名	HIRO

職名	08. 講師

履修者数	10
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.63	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.38	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.38	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.88	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.88	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.63	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.71 / 4: 14.29 / 3: 57.14 / 2: 14.29 / 1: 14.29	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	エンタメビジネスB
教員名	miiya

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.75	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.25	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.25	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.25	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.50	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 75.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.50	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	ソルフェージュ2c
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	5.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	1.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 100.00 / 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	対位法B
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	15
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.78	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.89	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.11	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.56	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.44	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.78	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.56	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.44	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 11.11 / 3: 44.44 / 2: 33.33 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	キーボードハーモニーB
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	9
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.60	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 20.00 / 3: 40.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	和声学2c
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 50.00 / 3: 50.00 / 2: 100.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	オンエアプロデュースB
教員名	石井　弘樹

職名	08. 講師

履修者数	10
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.38	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.88	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.13	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.88	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.88	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 42.86 / 3: 57.14 / 2: 28.57 / 1: 42.86	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	作品研究〔歌曲〕B
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	10
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.25	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.38	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.75	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.25	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.38	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.13	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 62.50 / 4: 62.50 / 3: 62.50 / 2: 25.00 / 1: 25.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	作品研究〔オペラ〕B
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	10
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.70	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.30	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.80	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.20	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.70	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.60	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.70	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 70.00 / 4: 50.00 / 3: 40.00 / 2: 10.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	楽式論B〔作曲法・編曲法を含む〕b
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.33	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.67	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
33.33	66.67	0.00	33.33	0.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	P.A.C.S.6
教員名	川羽田　晶

職名	08. 講師

履修者数	10
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.83	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.17	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.83	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.83	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
33.33	50.00	66.67	33.33	16.67

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	キャリア・クリエイティブ・メソッドB	職名	08. 講師	履修者数	7
教員名	黒澤　慶子			回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.67	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.17	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.83	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 66.67 / 3: 33.33 / 2: 50.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	ビジネスチャレンジャーB	職名	08. 講師	履修者数	8
教員名	篠原　竜一			回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.71	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.14	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.57	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.71	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.57	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.43	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.71	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.71 / 4: 100.00 / 3: 28.57 / 2: 42.86 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	民族音楽学B
教員名	鈴木　良枝

職名	08. 講師

履修者数	41
回答者数	30

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.13	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.53	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.07	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.27	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.10	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.07	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.20	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.20	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.20	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.63	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.63	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.90	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.14	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 76.67	4: 36.67
			3: 36.67	2: 0.00
			1: 6.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.61	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	音楽の基礎理論Ba
教員名	田村　治美

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.75	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.75	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 33.33
			3: 66.67	2: 33.33
			1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	楽式論B〔作曲法・編曲法を含む〕a	職名	08. 講師	履修者数	11
教員名	田村　治美			回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.29	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.57	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.29	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.43	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.14	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.29	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.29	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.71	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 83.33 / 4: 66.67	3: 66.67 / 2: 16.67 / 1: 0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	音楽心理学B	職名	08. 講師	履修者数	6
教員名	徳富　政樹			回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	3.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 100.00	3: 0.00 / 2: 100.00 / 1: 0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	ソフトウェア演習ＩＢ
教員名	難波　研

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.33	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.33	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
66.67	33.33	100.00	33.33	0.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	音楽音響メディア論B
教員名	難波　研

職名	08. 講師

履修者数	12
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.60	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.60	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.20	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.20	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.80	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
80.00	100.00	40.00	40.00	40.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	ソフトウェア演習ⅢB
教員名	難波　研

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	5.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 100.00 / 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	－	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	ソフトウェア演習ⅡB
教員名	難波　研

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 50.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	ポップスボーカルアプローチB	職名	08. 講師	履修者数	7
教員名	仁科　薫理			回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.25	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00 / 4: 50.00 / 3: 75.00 / 2: 0.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	演技とパフォーマンス	職名	08. 講師	履修者数	10
教員名	ひかる　一平			回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.43	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.14	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.43	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.86	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.57	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.43	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.57	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.71	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.71	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.86	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 71.43 / 4: 57.14 / 3: 28.57 / 2: 14.29 / 1: 57.14	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

基礎教育科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	07. 基礎教育科目
科目数	49

履修者数	741
回答者数	542

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%) 5	4	3	2	1	有効回答数	無効回答数
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.31	140	128	122	61	90	541	1
				25.9	23.7	22.6	11.3	16.6		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.31	308	136	63	27	7	541	1
				56.9	25.1	11.6	5.0	1.3		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.24	267	168	78	17	9	539	3
				49.5	31.2	14.5	3.2	1.7		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.36	13	5	21	87	414	540	2
				2.4	0.9	3.9	16.1	76.7		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.24	274	133	122	3	6	538	4
				50.9	24.7	22.7	0.6	1.1		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.78	64	124	301	22	27	538	4
				11.9	23.0	55.9	4.1	5.0		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.28	292	127	104	9	7	539	3
				54.2	23.6	19.3	1.7	1.3		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.37	334	111	63	20	10	538	4
				62.1	20.6	11.7	3.7	1.9		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.41	337	116	67	14	7	541	1
				62.3	21.4	12.4	2.6	1.3		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.44	353	96	77	6	8	540	2
				65.4	17.8	14.3	1.1	1.5		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	423	64	45	3	4	539	3
				78.5	11.9	8.3	0.6	0.7		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.62	398	87	49	3	3	540	2
				73.7	16.1	9.1	0.6	0.6		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.22	249	186	87	9	9	540	2
				46.1	34.4	16.1	1.7	1.7		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.30	301	141	69	13	15	539	3
				55.8	26.2	12.8	2.4	2.8		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	–	373	190	156	81	164	518	24
				72.0	36.7	30.1	15.6	31.7		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.42	295	97	40	14	11	457	85
				64.6	21.2	8.8	3.1	2.4		

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ドイツ語2a
教員名	高橋　幸雄

職名	03. 特任教授

履修者数	21
回答者数	14

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.57	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.36	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.36	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.36	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.29	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.43	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.46	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.36	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.57	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
92.86	42.86	28.57	14.29	28.57

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.79	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

ドイツ語の基本的な文法力を身につけることを第一の目標に授業を進めた。またビデオを用いて、ドイツ語の背景にあるドイツ、オーストリア、スイスの文化、歴史、社会を知識として身につけるよう工夫した。授業の後半ではエーリッヒケストナーの映画作品を鑑賞しながら、現在のドイツが抱えている問題を考えた。

●　問題点

シラバスの順序に従って授業を進めたが動詞、冠詞の項目で理解が充分ではなかった。様々なプリントを配布して練習問題を多くこなしたが消化不良ぎみだった。

●　改善の方策

ドイツ語は語形変化の修得が必須条件であるが、確認と定着の為に練習問題を作成し、授業内で問題解決をさせる時間を毎回設けることにする。負担感のない課題も作成し、自己チェックとフィードバックをする。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ドイツ語4
教員名	高橋　幸雄

職名	03. 特任教授

履修者数	15
回答者数	14

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.71	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.21	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.69	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.62	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.57	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.64	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.64	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.29	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.57	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 71.43 / 4: 35.71 / 3: 50.00 / 2: 28.57 / 1: 14.29	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.71	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

一年間で学習した文法項目の復習をプリントを用いて確認し、その後未習の文法項目を習得すべく練習中心に授業を進めた。音楽家や文学者の原文を読み、理解するためのスキルの向上を目指し、学生と一緒に精読を繰り返した。又、ドイツ文化を理解べく映画作品の鑑賞を併用しながら進めた。

●　問題点

難易度が少しずつ高くなって来るので、個々の学生の理解度に合わせるのが難しかった。副教材や個別対応だけでは差を埋めるのが難しく、授業が進むごとに理解の程度に差が出た。

●　改善の方策

復習が短時間でできるドリルを作成し、定期的にフィードバックそしてチェックを行い、個々の学生の問題点を共有し、弱点克服の方法を見出す。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ドイツ語2b
教員名	高橋　幸雄

職名	03. 特任教授

履修者数	20
回答者数	18

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.44	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.61	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.72	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.56	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.61	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.72	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.76	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.44	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.61	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 88.89	4: 16.67
			3: 50.00	2: 16.67
			1: 11.11	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

ドイツ語の基本的な文法力を身につけることを第一の目標に授業を進めた。またビデオを用いて、ドイツ語の背景にあるドイツ、オーストリア、スイスの文化、歴史、社会を知識として身につけるよう工夫した。授業の後半ではエーリッヒケストナーの映画作品を鑑賞しながら、現在のドイツが抱えている問題を

●　問題点

シラバスの順序に従って授業を進めたが動詞、冠詞の項目で理解が充分ではなかった。様々なプリントを配布して練習問題を多くこなしたが消化不良ぎみだった。

●　改善の方策

ドイツ語は語形変化の修得が必須条件であるが、確認と定着の為に練習問題を作成し、授業内で問題解決をさせる時間を毎回設けることにする。負担感のない課題も作成し、自己チェックとフィードバックをする。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	東邦スタンダードⅠBa
教員名	伊藤　和広

職名	04. 准教授

履修者数	61
回答者数	52

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.94	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.13	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.94	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.19	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.27	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.92	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.04	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.35	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.35	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.17	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.65	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.48	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.98	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.92	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 53.85 / 4: 40.38 / 3: 1.92 / 2: 7.69 / 1: 46.15	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.09	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は4年連続となる1年生の担任として61名のクラスを担当しました。アンケートには52名が回答しています。まず、今年度は61名と、前年度までと比べてもかなりの大人数であり、コロナ禍でマスクをしている新一年生の顔と名前を一致させるのに大変苦労しました。場所も前年度までとは異なり、SBで行われた為、例年になく学生との距離を感じ、コミュニケーションを取ることに苦戦しました。今年度の1年生の全体の印象は大変真面目であり、コロナ禍においてもそれぞれが冷静に大学生活のペースを掴んでいっていたように感じます。但し人数が多い分、個人差も大きく、なかなかこの科目の意義が見出だせずにこちらからの個人的指導も多かった学生が数人いました。以上、現状を踏まえ集計結果の分析を行っていきますと、やはり全体的にはあまり高いとは言えない平均点が多く、これは音楽に関する科目でないことからくるモチベーションダウンも影響していると考えます。当科目平均点と講義・演習系科目全体との比較で見比べると分かりやすく、ⅠとⅢの設問に対して全体的に低めであり、これは熱意や自己評価が上がりきっていないことの現れであると考えます。設問Ⅱについては他の科目とあまり変わらず、特にⅡgとhの、授業回数と時間、教員の熱意と工夫の項目においての平均点が1番高かったことが大きな救いとなっております。逆にⅠdの予習復習についての項目では1.19とかなり低く、毎回予習復習の大切と課題についても話してきましたが、効果が得られておらず大変残念に思います。

●　問題点

今回1番大きな意識のズレを感じたのは、予習復習についてです。

●　改善の方策

予習復習について、具体的に何にどのくらいの時間を費やすべきか等、更に詳細に説明します。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーションB
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	6
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	3.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 66.67 / 3: 100.00 / 2: 33.33 / 1: 66.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目の到達目標は下記の通りである。
・コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切なドイツ語表現（文法、語彙、発音など）を運用できる。
・簡単な英語表現で「話す、書く」スキルを向上させ、自身を持つことができる。
開講曜日・時限は、毎週月曜日1時限目であり、受講生はパフォーマンス総合芸術文化専攻の2年生、1年生の合計6名であった。履修者は、全体としてドイツ語への意欲や目標をしっかりと見据え、授業にも意欲的に取り組んでいた。全員がドイツ語初学者であり、各回の小テストや新しい課題にも意欲的に取り組んでおり、科目担当者としてもやりがいを感じさせていただいた。一方で、2021年度もコロナ禍出の対面授業となり、周囲との連携が肝要な語学科目としては、授業運営方法においても慎重さがもとめられる一年であった。生きたドイツ語を学ぶために、本来教員や履修者間での豊かなコミュニケーションがもとめられるなか、それを避けなければならない状況もあり、いかにして実践で役立つドイツ語を授業内で身に着けてもらえるか、指導法にも一層配慮した。
そのような厳しい状況下での対面授業であったが、履修者の意欲も高いことから、ほとんどの項目において満足に終えることができたが、気になった項目を3点ほど上げる。学生アンケートの集計結果をみると、「Ⅰ.b.　この授業の出席は良好であった」「Ⅰ.d.　1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」「Ⅱ.b.　この授業野難易度はどうでしたか。」において講義・演習系科目全体平均をわずかに下回る結果となった。

●　問題点

授業では、初めて学ぶドイツ語を好きになること、ドイツ語に関心を持ってもらうことを意識しながら授業を進めた。その中でどれだけドイツ語運用能力を向上させることができるかについて意識した。そのため、極力持ち帰り課題の負担軽減に努めたことは、学生が授業の難易度を感じている状況下においても、予習・復習にかける時間が少なくなってしまったことの一因と考える。

●　改善の方策

今年度は毎回次週につながる課題を提示することで学生の継続的な学びを促す。また、小テストなどで適宜学生が自身の理解度を確認することができる時間をつくる。それにより、学生教員間で個々人の理解度を適宜確認できるようにする。それにより、必要に応じて、学生に個別の課題を提供することも検討している。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	Basic English 2
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.67	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
100.00	33.33	66.67	33.33	33.33

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目の目的は、「聞く、読む、話す、書く」の各領域を体系的に向上させることである。到達目標は、①ゆっくり話された英語を理解し、簡単な質問をしたり、答えたりすることができるようにすること、②やさしい英文を読んだり、簡単な文を書けるようにすることである。開講曜日・時限は、毎週月曜日の2時限目であり、受講生はパフォーマンス総合芸術文化専攻の1年生全4名（アンケート実施の令和3年12月時点）であった。彼らは、将来の目標として据える仕事とのつながりを意識して授業にも積極的に臨んでいた。履修者は、春学期の授業開講時には習熟度確認テストを実施の上、クラス編成を行って配属された学生である。受講生のなかには、英語に対して、自分の実力以上に苦手意識を持つ学生もいたが、予習や課題への取り組みにおける学習への意欲もたかく、授業の雰囲気も良く、科目担当者としてもやりがいを感じるものであった。

学生たちの英語への興味・関心は、会話重視の「コミュニケーション」に集中している。一方、文法を否定的に捉える傾向があり、本科目受講生も苦手意識を持っていた。しかし、英語で円滑なコミュニケーションを図るために基礎文法への理解は欠かせない。そこで、音楽に関心が高い学生が、楽しく英語学習を進められるよう教材の選定にも努めた。文法への苦手意識を軽減させながら、冒頭で言及した4領域を体系的に向上させるため、教材として成美堂より出版された洋楽ポップスで英語を学べるタイプの教科書を採用した。本書の中で、歌を聞いて歌詞の書き取り、歌詞を日英訳する作業は、シンガーソングライター志望の学生も多い中で大変評判がよかった。英語は自発的な学習が肝要であるため、演習との混合形式で実施し、英語を総合的に運用するための基礎を完成させることを目的とした。

集計結果より、「講義・演習系科目全体平均」をやや下回ったものとして以下に着眼した。設問Ⅰから「b.　この授業の出席は良好であった」「d.　1回の授業のために、平均どのくらい学習、復習をしましたか。」、設問Ⅱから「g.　授業回数や時間は守られていた」、設問Ⅲから「a.　開講時に示された到達目業を十分に達成できた」「b. 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった」である。問題点と改善の方策について以下で考察する。

●　問題点

全体として、学習者の主体性を促すための工夫が必要であった。教科書に基づいて進行するなか、学生の理解度に応じてなるべく丁寧に解説することを心がけてきたが、その一方で解説に注力しすぎることで数分時間が伸びることなども影響していると考える。また、受け身な学生もいるなか、「主体的に学びたくなる」工夫が十分ではなかったと考える。

●　改善の方策

教科書に基づいた授業展開ではあるが、授業をより演習形式にすることで学生の主体性を促せるよう努力する。それにより、予習・復習への意欲や、自分自身で取りくむという主体性も自然と養われるものと考える。全体として、学生からの自発的な反応を促せるよう教員からの呼びかけを増やしていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	Communication Skills ＩB
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	5
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 0.00
			3: 33.33	2: 33.33
			1: 66.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目の目的は、日常における様々な状況を想定し、英語を用いたコミュニケーションに必要な基礎を作ることである。到達目標は、①コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現（文法、語彙、発音など）を運用できること、②簡単な英語表現で「話す、書く」スキルを向上させ、自信をもてるようにすることである。
開講曜日・時限は、毎週火曜日の1時限目であり、受講生はパフォーマンス総合芸術文化専攻の1年生全5名（アンケート実施の令和3年12月時点）であった。彼らは、将来への意欲と目標をしっかりと見据え、仕事と英語とのつながりを意識して授業にも積極的に臨んでいた。当初より、英語に対して、自分の実力以上に苦手意識を感じる学生もいたが、現状を打破したいという学習への意欲も感じると同時に、学生間、並びに学生教員間のコミュニケーションも非常に円滑で、科目担当者としてもやりがいを感じるものであった。当科目が担う「コミュニケーションのための英語」というキーワードを意識し、授業は、講義と演習（ロールプレイやペアワーク活動など）の混合形式で実施し、年間を通して、円滑なコミュニケーションのための学修を行った。
集計結果によると、当科目平均をやや下回るものとして以下2点に着眼した。「Ⅰ.b. 個の授業の出席は良好であった。」「Ⅰd. 1回の授業のために、平均どのくらい学習、復習をしましたか。」問題点と改善の方策について以下で考察する。

●　問題点

設問「Ⅰ.d.」の平均点がやや低めであったのは、次回までにやるべき課題がわかりづらかった点も考えられる。なるべく授業内で解消できるよう工夫をしたが、そうすることで、授業外での継続的な学習に繋がりにくく、ある意味で学生の主体的な学びを促すことができなかったものと反省する。全体に、英語が、試験のための勉強という域を脱しきれなかったことは、授業への出席や、予習・復習にみられる主体性を損なった一因と考える。

●　改善の方策

毎回の単語テストなど、受講生にとって明確な到達目標を掲げる。教科書だけでは容易そうでもあったため、それと並行して単語テストなどを実施することで、学生の主体性を促すことを狙いとする。また、授業内で課題を解くのではなく、自宅での事前学習を前提として授業に参画してもらえる雰囲気を醸成する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	Communication SkillsⅡB
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	10
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.88	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.13	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.63	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.13	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.63	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.63	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.63	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.63	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
87.50	50.00	50.00	12.50	37.50

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目はCommunication SkillsⅠA/Bの発展版であり、その目的は、日常における様々な状況を想定し、英語を用いたコミュニケーションに必要な基礎を作ることである。到達目標は、①コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現（文法、語彙、発音など）を運用できること、②簡単な英語表現で「話す、書く」スキルを向上させ、自信をもてるようにすることである。
開講曜日・時限は、毎週火曜日の2時限目であり、受講生はパフォーマンス総合芸術文化専攻の2年生10名（アンケート実施の令和3年12月時点）であった。彼らは、将来への意欲と目標をしっかりと見据え、仕事と英語とのつながりを意識して授業にも積極的に臨んでいた。意欲も習熟度も様々な中での授業であったが、学生間、並びに学生教員間のコミュニケーションも非常に円滑で、科目担当者としてもやりがいを感じるものであった。当科目が担う「コミュニケーションのための英語」というキーワードを意識し、授業は、講義と演習（ロールプレイやペアワーク活動など）の混合形式で実施し、年間を通して、円滑なコミュニケーションのための学修を行った。
集計結果によると、当科目平均をやや下回るものとして以下2点に着眼した。「Ⅰ.b. 個の授業の出席は良好であった。」「Ⅰd. 1回の授業のために、平均どのくらい学習、復習をしましたか。」問題点と改善の方策について以下で考察する。

●　問題点

設問「Ⅰ.d.」の平均点がやや低めであったのは、次回までにやるべき課題がわかりづらかった点も考えられる。なるべく授業内で解消できるよう工夫をしたが、そうすることで、授業外での継続的な学習に繋がりにくく、ある意味で学生の主体的な学びを促すことができなかったものと反省する。全体に、英語が、試験のための勉強という域を脱しきれなかったことは、授業への出席や、予習・復習にみられる主体性を損なった一因と考える。

●　改善の方策

毎回の単語テストなど、受講生にとって明確な到達目標を掲げる。教科書だけでは容易そうでもあったため、それと並行して単語テストなどを実施することで、学生の主体性を促すことを狙いとする。また、授業内で課題を解くのではなく、自宅での事前学習を前提として授業に参画してもらえる雰囲気を醸成する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	Advanced English 2
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 50.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目の目的は、「聞く、読む、話す、書く」の各領域を体系的に向上させることである。到達目標は、①ゆっくり話された英語を理解し、簡単な質問をしたり、答えたりすることができるようにすること、②やさしい英文を読んだり、簡単な文を書けるようにすることである。開講曜日・時限は、毎週水曜日の2時限目であり、受講生はパフォーマンス総合芸術文化専攻の第1期生である1年生全3名（アンケート実施の令和3年12月時点）であった。履修者は、春学期の授業開講時には習熟度確認テストを実施の上、クラス編成を行い、上級クラスに配属された学生である。彼らは、将来の目標として据える仕事とのつながりを意識して授業にも積極的に臨んでいた。元々基礎学力の高い学生たちであったため、現状を打破したいという学習への意欲も強く感じるとともに、授業の雰囲気も良く、科目担当者としてもやりがいを感じるものであった。

例年、学生たちの英語への興味・関心は、会話重視の「コミュニケーション」に集中している。また、パフォーマンス総合芸術文化専攻の特色柄、音楽への興味・関心から本専攻へと進学してきた学生たちであったため、自身の発音にも非常に高い関心を示していた。そうした背景を持つ学生が、楽しく英語学習を進められるよう教材の選定にも努めた。冒頭で言及した4領域を体系的に向上させるため、教材には成美堂より出版された洋楽ポップスで学べるものを採用した。本書の中で、歌を聞いて歌詞の書き取り、歌詞を日英訳する作業は、シンガーソングライター志望の学生も多い中で大変評判がよかった。特に、ポップスを扱う教材であったため、学生たちにとってもなじみある曲が多く、リスニング課題に取り組みながら口ずさむ学生もいた。英語は自発的な学習が肝要であるため、演習との混合形式で実施し、英語を総合的に運用するための基礎を完成させた。

集計結果より、当科目平均において「講義・演習系科目全体平均」を下回ったものはなかったが、やや低調であった「Ⅰd. 1回の授業のためにどのくらい予習、復習をしましたか。」に着眼する。問題点と改善の方策について以下で考察する。

●　問題点

全体として、授業における教科書の予習・復習は十分に事前に対応してくれている様子であったが、基礎学力の高さに加えて、英語へのモチベーションも非常に高い学生たちであったので、より高い目標へと到達できるよう課題を充実させるべきであった。

●　改善の方策

次年度は毎回の小テスト制を導入する。学習者の継続的な学びとモチベーションを高める狙いである。履修者からの要望でもあり、教科書だけにとらわれずに様々な学習形式を通して英語に親しむこともできると考える。また、主体的な学びのためには、ある程度より徹底した演習形式をとることが肝要である。よって、教科書のテーマに沿いながら、発音や地域研究など学生に関心の高いテーマも挿入しながら授業を展開する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	English PresentationB
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	3
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 100.00 / 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	－	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目の目的は、プレゼンテーションの基本を抑えて、重要な英語表現等を理解し、運用できるようになることである。到達目標は、以下に3点掲げる。

・コミュニケーションツールとしてのプレゼンテーションの基本を正確に理解できる。
・目的に合わせたプレゼンテーションのタイプを的確に理解し、使うことができる。
・原稿作成を通して、ライティングのスキルが向上する。

開講曜日・時限は、毎週水曜日の3限目であり、パフォーマンス総合芸術文化専攻3年生（アンケート実施の令和3年12月時点）の3名であった。履修者は全体として、将来への意欲や目標をしっかりと見据え、授業にも真摯に取り組んでいた。プレゼンテーションは、自分の考えや主張を効率よく正確に相手に伝えるためのコミュニケーションの一環だといわれる。その目的達成のため、発表者とオーディエンスが構造を共有し、限られた時間内での発表でも誤解を生まない工夫が随所に施されている。その工夫は、プレゼンテーションの構造や表現であり、本科目では、課題を通じて成功するプレゼンテーションに関する知識を学び、英語のプレゼンテーションに必要な知識や論理構造を学びながら説得力のあるプレゼンテーションを行えるよう毎回の授業で鍛錬した。2021年度もコロナ禍での対面授業となり、生きた英語を学ぶために本来教員や履修者間での豊かなコミュニケーションが求められるなか、いかにして実践で役立つ英語を授業内で身に着けてもらえるものか、指導法には一層配慮した。特に、様々な習熟度の学生が集まった年度でもあったため、プレゼンテーションの原稿作成から発表に至り、そのやり方は個々人のペースに合わせて進めるよう配慮した。そのうえで、学生アンケートの集計結果をみると、「Ⅰ.d. 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」「Ⅱ.b. この授業野難易度はどうでしたか。」において講義・演習系科目全体平均をわずかに下回る結果となった。

●　問題点

設問「Ⅰ.d.」の平均点がやや低めであったのは、次回までにやるべき課題がわかりづらかった点も考えられる。なるべく授業内で解消できるよう工夫をしたが、そうすることで、授業外での継続的な学習に繋がりにくく、ある意味で学生の主体的な学びを促すことができなかったものと反省する。全体に、英語が、試験のための勉強という域を脱しきれなかったことは、授業への出席や、予習・復習にみられる主体性を損なった一因と考える。

●　改善の方策

毎回のクイズやミニプレゼンテーションなど、受講生にとって明確な到達目標を掲げる。履修者の英語習熟度によっては扱う教科書の難易度が高いと感じた学生もいたようで、英語が苦手な学生にとってもプレゼンテーションという切り口から英語自体も高い関心を持ってもらえるよう工夫をする。それにより学生の主体性を促すことを狙いとする。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	Career English ＩB
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	11
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.10	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	3.90	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.80	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.70	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.70	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.70	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.70	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
90.00	50.00	70.00	30.00	50.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目の目的は、ビジネスコミュニケーションに必要な素養を学び、ビジネス英語特有の表現を活用できる能力の育成を目指すことである。到達目標は、①英語の基礎となる「聞く」「話す」「読む」「書く」の4機能を体系的に磨く、②必要な情報を取捨選択し、相手の意図を正しく汲みとることができること、③ビジネスマナーを踏まえ、英語でのフォーマルなコミュニケーションに対応できることである。
ビジネスの場面で求められる英語は、これまでの英語の雰囲気と異なり、言葉遣い、マナーなど洗練させる必要がある。パフォーマンス総合芸術文化専攻には、既に大学に在籍しながら仕事をしている学生もいることから、より実践ですぐに役立つ内容を検討した。開講曜日・時限は、毎週木曜日の1時限目であり、受講生は上記専攻の2年生11名（アンケート実施の令和3年12月時点）であった。彼らは、第3期生であり、これまで学んできたコミュニケーション英語とビジネス英語との違いをしっかりと見据えながら授業にも積極的に臨む姿勢が印象的であった。本科目は、習熟度によりクラスを設けているわけではないので、履修者の英語に対する意欲も習熟度も様々であった。しかし、学生間、並びに学生と教員間のコミュニケーションも非常に活発で、科目担当者としてもやりがいを感じるものであった。コロナ禍出の授業運営方法には相当配慮したが、当科目が担う「ビジネスのための」というキーワードを意識し、授業はなるべく講義と演習の混合形式で実施し、ビジネスの場面で使えるための学修を行った。
学生アンケートの集計結果によると、講義・演習系科目全体平均をやや下回るものとして以下に着眼した。「Ⅰ.b. この授業の出席は良好であった」「Ⅰ.d. 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」問題点と改善の方策について以下で考察する。

●　問題点

本科目の開講時間が1時限目ということもあり、出席がなかなか継続しない学生、遅れて入室する学生もいた。しかし、学生にとって「面白い」や「やりがいを感じる」とより思うことができれば、この点数ももう少し上げることができたと考える。この点は、学生自身の予習、復習への意欲がなかなか持継続させられなかったものにも通じる。語学習得は、日々の継続が肝要になるのであるが、学生は、授業時間内だけでどれだけ自分の英語運用能力を高められるかということに関心が高い傾向にある。そのため、持ち帰り課題等の負担を軽減するよう努めた点も影響していると考える。

●　改善の方策

語学科目は日々の継続が肝要であるため、全15回の授業で、学生の学びへの意欲を高められるよう内容を検討している。例えば、持ち帰り課題である。これまでも、授業内で課題を解いてもらうと、そこで要する時間に学生間に大差があった。よって、授業時間内において問題を解く時間はなるべく最小限にする代わりに、全員が同じペースで取り組める課題を提示する。教科書の課題等は、宿題として提示し、学生の日常的な英語学習を促す。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	東邦スタンダードⅡBa
教員名	木下　容子

職名	04. 准教授

履修者数	24
回答者数	17

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.12	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.06	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.06	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.59	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.18	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.47	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.47	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.47	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.47	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.88	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.76	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.35	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.18	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 64.71 / 4: 52.94 / 3: 17.65 / 2: 35.29 / 1: 47.06	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.25	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞各自の専門分野のスキルアップや社会の仕組みを学び、将来に向けての具体的なイメージを構築する力を身につける。また、一般教養とコミュニケーションスキルを向上させて、社会性を高める。
＜内容＞８回の外部講師によるキャリアデザインの内容を含めて、多角的な講義やワークを行う。大学の学修を真剣に考え、学生生活の充実や卒業後のことを熟考する。
＜授業形態＞講義形式であったが、講師や仲間の意見を聴いたり、自分の意見を述べたりする場面も適宜設けた。その際、いつもあまり接点のない同学年の仲間とペアになったりするように工夫した。
＜受講者数＞24名。
＜開講曜日、時限＞水曜日、１限。

●　問題点

アンケート結果より、教員と学生間に大きな意識のずれはなかったように感じている。外部講師がセッティングしてくれたグループ討論では、担当教員が分担して各グループに入ったり、留学生のグループにも必ず教員が入ったりして、密にコミュニケーションしたことが影響しているように思う。ただ、「予習復習の時間」の短さが露呈された結果であった。

●　改善の方策

「予習復習の時間」については、さらに具体的にやって欲しい作業等を伝えていくことが必要なのかもしれない。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	東邦スタンダードⅢBb
教員名	平田　紀子

職名	04. 准教授

履修者数	19
回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.15	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.54	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.46	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.08	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.15	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.92	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.54	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.85	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.77	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.46	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.31	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.08	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.31	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.38	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 62.50 / 4: 25.00 / 3: 12.50 / 2: 12.50 / 1: 25.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.33	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

キャリアやインターン、就職や社会に出るための内容が主であり。外部講師の高橋先生も大変役に立つ講義を、熱意を持ってして下さり感謝している。
出席状況への回答は「良好」が4.54点と全体平均と同等であった。「授業に当たってシラバスを活用した」と共に、例年に比べ向上していた。
授業内容について「自分のためになったこと」に関しては「コミュニケーション能力向上」が高い回答率を示した。グループ討議や、授業各回で話し合いやディスカッションの場が持たれたためと思われる。
欠席や遅刻は例年より少なく、レポート試験は大変ていねいに書かれていて、真摯に課題に取り組む姿勢がみられた。

●　問題点

一方、アンケートの自由回答では「朝早くから不快」「就活をしにこの大学に来たわけではない」「〇〇先生の声がうるさい」など無記名ゆえの雑言ともとれる強い記述もみられ暗澹たる思いをした。
しかし「就活についてマナーや試験のことを学べてよかった」との記述もあり、学生によって温度差が大きいとも感じる。
音楽をあきらめるといった誤解釈をされぬよう、同時に「社会人になる準備」について受け入れられるようにすることが課題と考える。

●　改善の方策

この授業の意図するところを、初回にまた毎回、明確にくり返し伝える。多様な進路・可能性・それに向かっていく方法がある、ということを提示する。
また毎回の授業でまとめの記述と次回の授業に繋げるような課題を出すことで、予習・復習ができると思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ひとを読み解く科学B
教員名	三室戸　元光

職名	04. 准教授

履修者数	22
回答者数	12

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.17	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.42	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.82	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.17	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.58	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.92	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
63.64	45.45	27.27	36.36	27.27

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.56	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

ひとの内面を読み解く研究方法を「アセスメント」といい、言葉や文章、数値や量的データを用いる方法と、制作物・作品又は教示物への反応等によって行う方法などが代表的です。
前半では、制作物や作品を通してアセスメントを行う「描画法」をもとに、描画作者（子ども～学生）の心象世界に触れつつ、後半でひとの内面を深く読み解くための分析方法を、個人内、グループ内検討、グループ発表で総合的に身につけます。特に、後半は実際の描画事例をもとに、描画アセスメントによるカウンセリングとその人物への援助の方針の立案を実践的に行います。
心理学という内面を読み解く知識や道具を使って、「ひと」の心理学的な理解を深め、「ひとをサポートできるようになる」のが、この科目の目標です。絵を描いた人の内面の理解を深めることによって、「ひとがどんなパーソナリティなのか」、「どんな心理的課題があるのか」、その人に『どんな援助の方針が考えられるか』について、「制作物・作品によって分析する」ことができるようにしていきます。
授業は、後期前半に描画体験と描画法の解説、後期後半に事例検討と事例についてのグループ演習、を行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝えたり、相手から聴いたりする・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。
受講生数12名（履修者22名）と中規模な人数であり、履修者の中には留学生が複数名含まれる。前期からの受講生がほとんどおらず（名簿上の記載は残るが）、後期から新規に受講してくる学生が多い。留学生が多いため、あえて日本人学生と留学生で評価の基準を２軸取っている。

●　問題点

全体平均点と比較して当該科目に有意な差が認められる項目としては、Ⅱbの授業の難易度が難しい・やや難しいという解答が多く、Ⅲaの授業の「到達目標が達成できた」かについて全くそう思わないという解答が17%弱含まれており、音大生を対象とする場合に描画法によるアセスメント演習が難しいということが伺える。それはⅢcの回答で「関連分野の学習意欲」や「新しい知識・技能」に対する評価得点が全体回答率よりも有意に低いことも指摘されるべきであろう。学生のニーズとしては、PACS専攻生を対象にした「人間関係について」深く理解したり、それを基にしたコミュニケーション演習が効果的であることが、そのアンケート結果から伺われる。

●　改善の方策

現状では当該科目に求められるニーズは、他科目（コミュニケーション論など）で満たされているので、当該科目への何らかの改善方策は見いだせていない。その代わり、前期Ａの授業で音大生にも興味関心が強いパーソナリティの心理学を展開しており、前期授業を受けてさらに心理学を深めてみたいと希望した学生を対象に、後期Ｂの授業を展開することが当面の方策であると思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ひとを読み解く科学B
教員名	三室戸　元光

職名	04. 准教授

履修者数	10
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.86	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.14	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.43	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.14	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.43	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.86	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.86	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.43	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.86	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.71 / 4: 100.00 / 3: 42.86 / 2: 42.86 / 1: 42.86	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

『ひと』とは何か、『ひとの性格（＝キャラクター又はパーソナリティ）』とは何か、を理解することは、人間心理の中核を理解しようとすることであり、「ひとを理解しようとする思いや行動」は、心理学を学ぶ人間にとって非常に身近な行動です。ただ、単なる「占い」とは異なるので、科学的な根拠（＝心理学的な知識や考え方）が必要となります。
この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに「自分自身」を多面的に理解し、「自分自身」や「ひと」を多面的に理解する方法として、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。後期Bの授業は、『人間関係を作る作法を理解し実践すること』を取り上げます。
心理学という内面を読み解くツールや材料を使って、自分自身の内面的な理解を深め、「自分自身を自分でサポートできるようになる」のが、この科目の目標です。そのためには、自分の内面を正面から受け止めて、起きた事実やそれに対する心理的な反応（感情、願望）への理解を深めることによって、『ひとがどんなパーソナリティなのか、どんな心理的な課題があるのか』、それを認識できるようにしていきます。
授業は、全体講義および教員による解説形式、で行います。テーマによっては、実習やグループワークを行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝えり聴いたりする・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。
PACS専攻生のみを対象にした科目であり、受講生数は7名（履修者数10名）と小規模である。月曜日5限という時間帯ではあるが、授業へのコミットメントは良好で、前期から受講している学生がほとんどである。

●　問題点

全体平均点と比較して当該科目に有意な差が認められる項目としては、Ⅰbの「授業の出席」はあまり良くなかった学生がいるということと、Ⅱdの授業の予習が1時間未満だということである。それ以外の各項目の平均値が全体平均よりどれも上回ることを考えれば、授業への満足度は高かったのではないだろうか。どちらかといえば予習をすることよりも授業で学んだことをコミュニケーション演習場面で活かす、日常生活で活かすことに重点を置いているため、想定された結果だとも言える。っその点で言えばⅢCの回答率がいずれも高得点になっており、教員の意図する内容と学生のニーズが合っていると思われる。

●　改善の方策

PACS専攻生を対象にした授業ではあるが、音大生を対象にした授業として効果的に機能している授業と思われる。ただ、PACS対象という科目の特性上、受講人数が限られてしまい、授業の効果を日常の学生生活に活かすことはできても、例えば学生のキャリア支援などに般化しづらいことは想定される。現状ではコミュニケーションワークの中に、キャリア支援の要素を含めた内容にしていること代替することを想定している。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	東邦スタンダードB
教員名	武藤　直美

職名	04. 准教授

履修者数	8
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.80	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.40	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.60	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.40	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.20	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.20	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.40	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.40	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.80	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 60.00 / 4: 80.00 / 3: 20.00 / 2: 40.00 / 1: 80.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.60	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

8名の受講者に対しシラバスに提示されている内容に沿った授業が行われた。少人数制90分の時間内でペアワーク、グループワークが活発に行われ、到達目標を十分に達成できたと思料する。
アンケート集計結果は「コミュニケーション能力の向上」「新しいものの見方」に対する回答率が80%と演習系科目全体回答率をかなり上回っているのに対し、「学習意欲」に対する回答率が40%以下であった。

●　問題点

授業履修にあたり、全くシラバスを活用していない受講者がいた。また、ほとんどの受講者が到達目標を充分に達成できたという回答をしておりながら、「学習意欲」についての回答率が40%という結果であった。授業の難易度も「やや難しい」「適切」「易しい」と回答が分散しており、また、授業の進め方に対しての回答からも個々の能力の差が感じられた。

●　改善の方策

全ての履修者が積極的に興味や関心を持ち、学習意欲が増すよう、創意工夫しながら、新たな発想法を持って取り組む所存である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	東邦スタンダードⅢBa
教員名	井上　淳司

職名	05. 特任准教授

履修者数	20
回答者数	16

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.69	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.31	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.06	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.69	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.94	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.44	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.63	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.38	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.81	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 60.00 / 3: 13.33 / 2: 13.33 / 1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.53	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

３年次生を２クラスに分けたBクラスで２０名が履修した。東邦スタンダードⅠ・Ⅱで学んだ内容を土台にして、毎回のテーマに沿ったさまざまなワークを通じ、東邦音楽大学の学生として、日々の学修と学生生活を充実させ、それを将来社会でどう活かしていくかをより具体的に考え、必要なスキルを学ぶ授業である。７回の外部講師によるキャリアデザインの授業や各種講演会を含み、コミュニケーション能力を高めながら、物事の多角的な見方や考え方を実践し、問題解決能力を養うことを中心にして授業は進められた。学生は現時点での各自の将来像をより具体化・可視化するためにやるべきことは何かを理解しており、滞りなくこなすことが出来た。

●　問題点

この学年はこちらからの呼びかけへの反応が比較的薄く、場がそれ以上盛り上がらないこともしばしばであった。シラバスの活用、授業への積極的な取り組み、開講時の成績評価の基準の明確性、授業内容の学習意欲への刺激および興味、に他の設問より低評価が付けられている。問題点は、どちらかというと学生が受動的になるような項目に学生の消極性が見られる。

●　改善の方策

当科目は必修であるため、シラバスを活用するに当たらないと、目を通さない学生もいたようである。事前にシラバスには目を通すよう、オリエンテーションなど授業開始前の期間に促すことが必要であろう。また、学習意欲を向上させるためには、出来うる限り本人に関連している身近なエピソードを多く提供し、有意義な授業展開を行うために積極的に協力を仰ぐことを喚起し、また要請したいと思う。学生の少数意見の中にもより良い授業展開をするためのヒントが隠れていることもあるので、それらにも真摯に受け止めて丁寧に応えて行くように心がけたい。双方のコミュニケーションを築くことが肝要である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	東邦スタンダードⅠBb
教員名	岩見　真佐子

職名	06. 専任講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.75	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 100.00 / 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本年度の授業シラバスに基づき、履修学生に応じた内容で柔軟に対応。環境設定として本年度は、通訳/TAが配置できない状況での授業開講となった。学年担当副担任クラス担当3名の教員と学生の会話、コミュニケーションは困難な30回の授業であったため、授業目標の共有、授業内容の理解、目標達成に向けた自修に指導が及ばない現状があった。
シラバス実施で最優先したのは、大学1年生の共通問題意識とその学びのための合同授業で、日本語の問題は対応できないために、合同授業後に各振返りの授業を設定（前期4回、後期5回）。そのため留学生の大学生活事情に対応し日本での音楽に結びつく授業は3回になった。年間を通じ大学生としての学びの基本である「授業参加の重要性」を理解できるように配慮した。
各振返り授業については、理解できる平易な表現で、授業のポイントのみを深く伝えること、とした。そのため本来「東邦スタンダード授業の理解に向けたサポートとして準備されている部分」に関しては一括し、各授業実施内容としてはテキストの1/5程度になったが、各テーマについての重要な部分の共有に時間を要した。
コミュニケーション、日本語での記述、発言が困難な学生には、東邦スタンダードが設定しているPDCAの学び、目標設定と振返りの習慣づけ、その反映である日本語でのポートフォリオ作成が、形だけになってしまう現状ではあるが、これは一般クラスの学生であっても学びの習慣づけ、理解とアウトプットの苦手な学生と同じであり、平易な言葉でも自分たちの課題を理解し、自らの視点をもって記述する姿勢は高く評価できる。
本年度の授業評価においてはシラバスに準じ、平常授業に取り組む姿勢も一般大学1年生クラスと同じ基準で、通年個人的なサポートも継続しながら学年担当で共有しながら実施。
なお当授業アンケートの実施に際しては、問われている内容の説明が不可能なため、その理解と自由な記述に向けて、語学力とコミュニケーションに無理がない教務スタッフに通訳を依頼し立ち合いのもとで実施したことを報告いたします。

●　問題点

通訳不在のまま30回のシラバスに沿った授業内容で授業展開を維持することは困難であることが挙げられる。東邦スタンダードの授業設定と目標から鑑みても、通訳（1年目TA、2年目サポート教員の存在）により相互理解されてようやく理解に至る留学生には難しい授業であるといえる。前年の実施内容に新たな対応を反映しているシラバス設定だが、実際にはコミュニケーションの範囲内で指導できる内容に各1/4～1/5に凝縮したことにより、履修学生の授業準備、振返りに影響が及び、客観的には東邦スタンダード全体の評価基準も学生にとって理解に苦しいのではないか、と拝察される。

●　改善の方策

留学生にとっては、授業内容の凝縮、テーマの選定・設定により、多くの効果も期待される授業でもあることから、最低限の内容に絞り込んだシラバス設定で、通訳不在でも理解できるコミュニケーションによる授業実施でという効果が期待される。各学生は日本での音楽を学びの中心においているので、授業内容の共有は本学での国際的な視野での音楽の学びに繋がる表現も彼らを尊重する上で必要と思われる。授業目標を正しく見据えて、人間形成の多様性をもった本授業の存在を理解できるように改善してゆくことが求められる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	東邦スタンダードⅡBb
教員名	浦川　玲子

職名	06. 専任講師

履修者数	25
回答者数	19

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.63	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.47	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.42	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.47	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.17	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.53	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.58	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.68	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.68	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.58	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.74	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.74	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.47	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 55.56 / 4: 55.56 / 3: 27.78 / 2: 27.78 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.41	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

履修者たちの多くは授業に対して熱意を持って取り組んでおり、内容や進め方、教員の対応について満足度は概ね高い。回答者の半数が総合的に意義のある授業だと捉えているが、興味を持てないままに時間をやり過ごしてしまう者もいる。

●　問題点

履修者数25名に対してアンケート回答者数19名とやや少ないことからも見て取れるように、出席率を毎回100%に近づけることが難しい面があり、欠席や遅刻過多の学生への対応を求められている。

●　改善の方策

出席率の高い履修者たちからの反応は非常に良好であるので、まずは授業内容を一つずつ丁寧に進めていくことが大切と考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	ウィーンの社会と文化Ba
教員名	荒木　洋育

職名	08. 講師

履修者数	31
回答者数	20

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.85	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.15	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.35	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.10	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.20	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.60	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.15	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.65	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.35	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.15	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.20	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 61.11 / 4: 33.33 / 3: 33.33 / 2: 5.56 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.80	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は、3年時にウィーン研修を控えた2年生を対象とする必修の科目である。ウィーンおよびオーストリアに関する知識を研修の成果を最大限生かせる程度まで深めることが目標であるので、学生には授業の理解に支障がない程度の予習を求めている。水曜日の授業であり、内容面ではa、bは原則同一のものである。必修科目であるが専門科目ではないという性格上、授業面では受講者側の負担感をできるだけ軽くし、なおかつ内容に対する受講者側の関心と理解を深めることが強く求められるであろう。数年前からプロジェクター（Power Point)を授業に利用し、評価に際しては口頭発表・期末レポートに加えて新たに小レポートを課す形をとっている。

そのうえで昨年度の授業に関し講師側の感想を述べたい。まず、出席状況、授業中の受講者側の態度はおおむね良好であった。口頭発表、学期末レポート、小レポートの内容については、個人差はあるものの学生の様々な工夫、授業内容への理解の深さと知見を示すものが多く、全体として満足のいく結果であったと考えている。

次にアンケートの結果分析を行う。学生側の自己評価に関係するⅠグループではdの数値が特に低いことが目立つ。これは受講者側が授業の予復習の重要性をまだ十分には認識していないことを示すと考えられる。授業の進行に関係するⅡグループに関してはd, e, fの数値が特に低い。このことは講師側の授業の進め方全般に対して学生側の満足度が低いことを示すように思われる。先述のようにa, b両クラスでの教授内容は同一であるが、全体として数値面で比較的良好な結果であったbクラスと比べて最も差がみられたのもこの部分である。またこの評価は授業全般に関する満足度に関係するⅢグループの数値全般の低さにもつながっているように思われる。この点については、（問題点）で指摘する事情で昨年度aクラスにおいて授業進行に問題が生じたことが背景の一つとしてあるように推測される。自由記述欄については、回答のあった学生に関しては好意的な評価、批判的評価双方がみられた。上述アンケート結果の分析に基づいて以下、昨年度の授業に対して講師側が感じた問題点を提示し、その改善の方策に関して考察を行う。

●　問題点

前述のような授業方式をとる目的は、教科内容への学生の関心を高めること、講師と学生との間の距離を縮めること、成績評価をより多角的に行うことにあるが、アンケートの結果をみると当クラスでは成果が十分に出たとは言い難い。原因の一つとして、教室内機器の不具合が授業進行に影響を与えることが多かったことが考えられる。自由記述欄においてもその指摘がみられるが、その点がbクラスと大きな結果の差が出た理由のひとつと考えられる。

●　改善の方策

昨年度の授業に対しては、自由記述欄において、口頭発表に対し講師がコメントを加えていた点を評価するなど好意的な意見もみられた。教科内容への学生の関心を高め、講師と学生との間の距離を縮め、成績評価の基準を明確にすることが重要である。今年度は上記問題点への反省を踏まえて、教室内機器の作動を工夫し、教材内容を充実させ、成績評価を多角的に行い講師・学生間の双方向のやりとりを増やすなどの改善を改めて行いたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ウィーンの社会と文化Bb
教員名	荒木　洋育

職名	08. 講師

履修者数	26
回答者数	19

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.74	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.68	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.89	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.84	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.58	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.84	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.42	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.11	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.42	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.47	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.89	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.42	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.26	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.26	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 16.67	3: 38.89 / 2: 5.56 / 1: 0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.18	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は、3年時にウィーン研修を控えた2年生を対象とする必修の科目である。ウィーンおよびオーストリアに関する知識を研修の成果を最大限生かせる程度まで深めることが目標であるので、学生には授業の理解に支障がない程度の予習を求めている。水曜日の授業であり、内容面ではa、bは原則同一のものである。必修科目であるが専門科目ではないという性格上、授業面では受講者側の負担感をできるだけ軽くし、なおかつ内容に対する受講者側の関心と理解を深めることが強く求められるであろう。数年前から、プロジェクター（Power Point)を授業に利用し、評価に際しては口頭発表・期末レポートに加えて新たに小レポートを課する形をとっている。

そのうえで昨年度の授業に関し講師側の感想を述べたい。まず出席状況、授業中の受講者側の態度はおおむね良好であった。口頭発表、学期末レポート、小レポートの内容については、個人差はあるものの学生の様々な工夫、授業内容への理解の深さと知見を示すものが多く、全体として満足のいく結果であったと考えている。

次にアンケートの結果分析を行う。学生側の自己評価に関係するⅠグループではdの数値が特に低いことが目立つ。これは受講者側が授業の予復習の重要性をまだ十分には認識していないことを示すと考えられる。授業の進行に関係するⅡグループに関しては、各指標の数値が全体として同一内容を教授するaクラスより著しく高かった。その中ではd,の数値が比較的低かったが、それはbの数値と関連し、学生側が授業内容をやや難しいと感じていることを示しているように思われる。授業全般の充実度・評価に関係するⅢグループに関しては、昨年度と比較しても数値全般に顕著な好転がみられ、aクラスと比較してその点は明白であり、昨年度講師が授業面で行った改善の成果が少なくともこのクラスではみられたとみてよいであろう。このアンケート結果の分析に基づいて以下、昨年度の授業に対して講師側が感じた問題点を提示し、その改善の方策に関して考察を行う。

●　問題点

前述のような授業方式をとる目的は、教科内容への学生の関心を高めること、講師と学生との間の距離を縮めること、成績評価をより多角的に行うことにある。アンケートの結果をみると当クラスについてはある程度効果が表れたといえるのではないか。aクラスと比べて良好な結果を得られた理由として、aクラスの項で触れた教室内機器の問題が当クラスではほとんど見られなかったことが挙げられる。残る課題は予復習の重要性の認識の低さであり、それを考慮して以下、改善の方策について述べたい。

●　改善の方策

当クラスに関しては、昨年度の授業に関し、講師側の工夫の成果はある程度表れたといえる。教科内容への学生の関心を高め、講師と学生との間の距離を縮め、成績評価をより多角的に行うことが重要である。今年度は、上記問題点への反省を踏まえて、教材内容を充実させ、成績評価を多角的に行い講師・学生間の双方向のやりとりを増やすなどの改善を改めて行いたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	英語2a
教員名	増渕　千幸

職名	08. 講師

履修者数	24
回答者数	20

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.95	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	3.90	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.26	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.32	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.21	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.84	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.63	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.63	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.58	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.58	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.58	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.53	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.26	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.28	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 88.24 / 4: 17.65 / 3: 11.76 / 2: 5.88 / 1: 17.65	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

講義・演習混合形式の授業で、中高六年間学んできたことをもとに、リスニング・読解・作文を中心に行ってきた。履修人数は24名で丁度良く、学生は非常に真面目で、順調に授業を進められた。学生間の力の差は多少あったものの、理解度が高いクラスであった。1限ではあったが、ほとんどの学生がきちんと遅刻もせずに参加し、とても良く取り組んでくれていた。

アンケート設問Iの自己評価については、各自評価をもっと高めてよいと感じている。Idの予習復習の部分であるが、この授業では予習の必要がないことをここで述べる必要がある。しかし復習もあまりしていないのであれば、定着のためにもきちんとしてほしい。復習の仕方として、例えば少なくとも音読はしてみようなどと、声掛けを増やした方がよいと感じている。授業中も含め、語学をどのように習得してゆくかのプロセスも、今まで以上に説明してゆきたい。

●　問題点

結果からは、学生と私の間の意識のずれはほとんど見えない。ただ、自己評価よりも学生は良く取り組んでいた。

●　改善の方策

毎年同じだが、学生の表情や態度から毎回どうすべきかその場で改善し、変えるべき点を早めに変えてゆくことが大切であろう。文法力の強化の必要性は、年ごとに増しているので工夫してゆきたい。また、音楽に関わる文章を読むなど、学生のモチベーションをさらに上げる工夫が必要かと思う。自分自身の英語も、日々アップデートが必要と痛感している。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	英語2b
教員名	増渕　千幸

職名	08. 講師

履修者数	15
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.80	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.40	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.80	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.90	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.70	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.90	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.90	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.60	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.70	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 87.50 / 4: 12.50 / 3: 37.50 / 2: 12.50 / 1: 62.50	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.63	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

講義・演習混合形式の授業で、中高六年間学んできたことをもとに、リスニング・読解・作文を中心に行って来た。履修人数は15名と少ないが、発音練習など積極的に声を出して行う学生が多く感心した。2年生以上の学生が多かったが、1年生同様モチベーションを保ったまま一生懸命授業に取り組み、それぞれがそれぞれの形で、学んでいた。良く取り組んでくれていたと思う。

アンケート設問Iの自己評価が低いが、謙遜ゆえと感じている。Idの予習復習に関しては、この授業では予習の必要がないことをここで述べなければならない。しかし復習もあまりしていないのであれば、定着のためにきちんとしてほしい。語学専門ではない学生ゆえ、勉強の仕方も今一歩わからない学生もいるため、例えば、復習には少なくとも音読はしてみようなどと、声掛けが必要であると感じている。語学をどのように習得してゆくかのプロセスも、今まで以上に説明してゆきたい。

●　問題点

結果からは、学生と私の間の意識のずれはほとんどない。ただ、自己評価よりも学生は良く取り組んでいた。

●　改善の方策

毎年同じだが、学生の表情や態度から毎回どうすべきかその場で改善し、変えるべき点を早めに変えてゆくことが大切であろう。文法力の強化の必要性は、年ごとに増しているので工夫してゆきたい。また、音楽に関わる文章を読むなど、学生のモチベーションをさらに上げる工夫が必要かと思う。自分自身の英語も、日々アップデートが必要と痛感している。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	英語4
教員名	増渕　千幸

職名	08. 講師

履修者数	20
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.91	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	3.91	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.36	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.55	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.36	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.73	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.55	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.55	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.82	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.82	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.45	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.82	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 90.91	4: 27.27
			3: 36.36	2: 18.18
			1: 27.27	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.90	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

● **現状の説明**

講義・演習混合形式の授業で、中高六年間学んできたこと、英語1・2で学んできたことをもとに、リスニング・読解・作文を中心に行って来た。学生は非常に真面目に取り組んでいた。学生間の力の差は英語1・2の時につかんでいたため、授業で困ることはなかった。2年生以上の学生の授業ゆえ、1限ということもあり、遅刻や欠席が目立つ学生もいた。しかし、それぞれが良く学んでくれていた。

アンケート設問Idの予習復習に関しては、この授業では予習の必要がないことをここで述べなければならない。しかし復習もあまりしていないのであれば、定着のためにもきちんとしてほしい。ほとんどの学生は勉強の仕方もわかっていて、授業を離れても力をつけていってくれると思っている。これからさらに学びを深めるためのプロセスも、今まで以上に説明してゆきたい。

● **問題点**

結果からは、学生と私の間の意識のずれはほとんど見えない。ただ、自己評価よりも学生は良く取り組んでいた。

● **改善の方策**

毎年同じだが、学生の表情や態度から毎回どうすべきかその場で改善し、変えるべき点を早めに変えてゆくことが大切であろう。文法力の強化の必要性は、年ごとに増しているので工夫してゆきたい。また、音楽に関わる文章を読むなど、学生のモチベーションをさらに上げる工夫が必要かと思う。自分自身の英語も、日々アップデートが必要と痛感している。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	コンピューター演習Ba
教員名	湯浅　恭子

職名	08. 講師

履修者数	22
回答者数	18

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.28	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.61	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.28	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.59	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.44	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.83	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.78	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.78	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.44	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.61	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
83.33	38.89	50.00	27.78	16.67

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.73	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞

本科目では、文書作成・表作成などのソフトウエアを用いて、データファイルの取り扱いや情報の整理について学び、ICT機器の基本的な操作方法を習得する。また情報セキュリティや、近年発達している情報技術についての知識を深める。履修者の多くが教職課程履修者であることから、ICT教育に繋がるコンピュータ機器の利用法を概観する。コンピュータを「自分のアイディアや伝えたいことを形にするための道具」として、教育現場や音楽活動において効果的に活用できるよう、スキルアップを図る。

＜内容＞

コンピュータの基本的な構造、ハードウエア・ソフトウエアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現況の概観。Windowsマシンとタブレット端末を使ったコンピュータリテラシーの向上。また、2020年度より小学校から順次必修化となったプログラミング教育について、その意義と教育用プログラミングソフトウエアを概観する。ICT教育に関連しては、教育現場で利用の多いオンライン型の授業支援ツールを用いた。

PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行った。またPowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施。楽譜作成ソフトウエアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。音楽制作ソフトウエアを用いてMIDI入力・音声編集・動画と音楽を同期させる編集などを行う。期末時は、学生各自、より理解を深めたいソフトウエアを選択して学習の目標と計画を立て、演習を行った。

＜状況説明と分析＞

金曜日３時限、履修者数２２名。１～３年生の混合クラスであった。授業形態は演習形式（１人１台のPCを使用）と講義形式で行った。Word・PowerPointなど、文字入力が中心のソフトウェアはスムーズに操作できるようになっているが、Excelの少し複雑な計算式入力では、数学的要素と複数の計算を順番にさせるプログラミング的要素が入り、習得が不十分な学生が出ているように感じる。最終課題は各自理解を深めたいソフトウェアを選択して演習を行ったが、表計算ソフトウェアExcelと楽譜ソフトウェアSibeliusを選択する学生が大半を占めた。

●　問題点

・予習復習の時間

・開講時に示された到達目標を十分に達成できたか：取り扱ったソフトウェアの種類によって、達成できた・達成できなかったと分類されると思われる。また、すべての学生へ「総合的にICT機器全般をどのように自分の活動で有効活用するか、できるか」に結びつけることが難しかった。

●　改善の方策

・予習復習の時間：学生個人のPC環境は年々整ってきているように感じるが、やはり未だ自宅ではPCが家族共有であったり、所持がないというケースも見られる。予習は教科書を使ったものを増やし、またスマートフォン・ネットワーク上のソフトウェアなどを使っての課題作成を、操作方法・環境を整えることも含めてサポートする。

・到達目標：学生が「到達目標を十分に達成できた」と感じられない原因を明確にするために、授業の中での習得状況の確認やヒアリングを行う。またソフトウェアごとに習得度を確認するための確認問題や、チェックリストによる状況把握を行う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	コンピューター演習Bb
教員名	湯浅　恭子

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.25	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 25.00 / 3: 75.00 / 2: 25.00 / 1: 25.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞

本科目では、文書作成・表作成などのソフトウエアを用いて、データファイルの取り扱いや情報の整理について学び、ICT機器の基本的な操作方法を習得する。また情報セキュリティや、近年発達している情報技術についての知識を深める。履修者の多くが教職課程履修者であることから、ICT教育に繋がるコンピュータ機器の利用法を概観する。コンピュータを「自分のアイディアや伝えたいことを形にするための道具」として、教育現場や音楽活動において効果的に活用できるよう、スキルアップを図る。

＜内容＞

コンピュータの基本的な構造、ハードウエア・ソフトウエアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現況の概観。Windowsマシンとタブレット端末を使ったコンピュータリテラシーの向上。また、2020年度より小学校から順次必修化となったプログラミング教育について、その意義と教育用プログラミングソフトウエアを概観する。ICT教育に関連しては、教育現場で利用の多いオンライン型の授業支援ツールを用いた。

PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行った。またPowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施。楽譜作成ソフトウエアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。音楽制作ソフトウエアを用いてMIDI入力・音声編集・動画と音楽を同期させる編集などを行う。期末時は、学生各自、より理解を深めたいソフトウエアを選択して学習の目標と計画を立て、演習を行った。

＜状況説明と分析＞

金曜日４時限、履修者数４名。２～４年生の混合クラスであった。授業形態は演習形式（１人１台のPCを使用）と講義形式で行った。真面目に意欲的に取り組む学生がほとんどであった。どちらかというと音楽系のソフトウェアよりも、WordやExcelなどOffice系のソフトウェアの方への興味関心が高かったように思う。Excelの比較的難しい問題でうまくいかない部分を、何度もやり直しをして計算式を最後まで諦めずに作ったり、最後の選択課題でなかなか思うような結果にならない部分を、時間をかけて考えて完成させるなど、全体的に根気よく演習をすることができた。

●　問題点

・予習復習の時間

・授業の難易度：「難しい25%、適切50%、易しい25%」の回答で、「難しい」「易しい」両極への対応が必要。「難しい」の回答は反復演習の不足、また音楽系のソフトウェアが身近でないことによるもの、「易しい」は普段からPCを使って慣れている学生で、提示した課題と操作範囲に対して、かなりスムーズにこなせていたことからの回答ではないか。

●　改善の方策

・予習復習の時間：学生個人のPC環境は年々整ってきているように感じるが、やはり未だ自宅ではPCが家族共有であったり、所持がないというケースも見られる。予習は教科書を使ったものを増やし、またスマートフォン・ネットワーク上のソフトウェアなどを使っての課題作成を、操作方法・環境を整えることも含めてサポートする。

・授業の難易度：演習は、①基本操作の説明→②基本動作を同時に行う→③演習問題という流れで行っているが、難易度別に演習問題を複数準備し、状況に応じて内容を分ける。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	コンピューター演習Bc
教員名	湯浅　恭子

職名	08. 講師

履修者数	28
回答者数	17

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.12	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.18	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.65	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.12	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.35	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.06	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.35	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.88	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.76	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.94	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.94	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.53	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.88	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 76.47 / 4: 35.29 / 3: 23.53 / 2: 11.76 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.94	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞

本科目では、文書作成・表作成などのソフトウエアを用いて、データファイルの取り扱いや情報の整理について学び、ICT機器の基本的な操作方法を習得する。また情報セキュリティや、近年発達している情報技術についての知識を深める。履修者の多くが教職課程履修者であることから、ICT教育に繋がるコンピュータ機器の利用法を概観する。コンピュータを「自分のアイディアや伝えたいことを形にするための道具」として、教育現場や音楽活動において効果的に活用できるよう、スキルアップを図る。

＜内容＞

コンピュータの基本的な構造、ハードウエア・ソフトウエアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現況の概観。Windowsマシンとタブレット端末を使ったコンピュータリテラシーの向上。また、2020年度より小学校から順次必修化となったプログラミング教育について、その意義と教育用プログラミングソフトウエアを概観する。ICT教育に関連しては、教育現場で利用の多いオンライン型の授業支援ツールを用いた。

PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行った。またPowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施。楽譜作成ソフトウエアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。音楽制作ソフトウエアを用いてMIDI入力・音声編集・動画と音楽を同期させる編集などを行う。期末時は、学生各自、より理解を深めたいソフトウエアを選択して学習の目標と計画を立て、演習を行った。

＜状況説明と分析＞

土曜日１時限、履修者数２４名。１～３年生の混合クラスであった。授業形態は演習形式（１人１台のPCを使用）と講義形式で行った。Office系のソフトウェアの基本的な演習はおおむねスムーズに進行し、習得できたのではないかと思う。音楽系のソフトウェアに対しても反応が良く、楽譜作成もMIDIやAudioデータを用いた音楽データ作成も意欲的に行えていた。最終課題は各自理解を深めたいソフトウェアを選択して演習を行ったが、「社会に出て必要だから」との理由で、表計算ソフトウェアExcelを選択する学生が３分の２ほどを占めた。

●　問題点

・予習復習の時間

●　改善の方策

・予習復習の時間：学生個人のPC環境は年々整ってきているように感じるが、やはり未だ自宅ではPCが家族共有であったり、所持がないというケースも見られる。予習は教科書を使ったものを増やし、またスマートフォン・ネットワーク上のソフトウェアなどを使っての課題作成を、操作方法・環境を整えることも含めてサポートする。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	芸術文化とユネスコB
教員名	城之内　ミサ

職名	03. 特任教授

履修者数	12
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.13	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.25	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.86	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.38	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.38	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.63	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.13	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.38	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 87.50 / 4: 50.00 / 3: 25.00 / 2: 12.50 / 1: 25.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.29	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	グローバルミュージックB
教員名	城之内　ミサ

職名	03. 特任教授

履修者数	16
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.11	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.22	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.11	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.78	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.56	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.56	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.78	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.44	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 75.00 / 3: 37.50 / 2: 12.50 / 1: 12.50	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	ドイツ語(Konzertfach)2
教員名	高橋　幸雄

職名	03. 特任教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション2
教員名	ﾚﾝﾂ　I. K.

職名	04. 准教授

履修者数	29
回答者数	26

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.58	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.31	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.12	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.69	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.62	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.65	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.23	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.65	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.73	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.62	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.92	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.77	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.92	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 76.92 / 4: 11.54 / 3: 23.08 / 2: 15.38 / 1: 26.92	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.85	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション4
教員名	レンツ　I. K.

職名	04. 准教授

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.60	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.80	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.80	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00, 4: 0.00, 3: 25.00, 2: 0.00, 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	ドイツ語(Konzertfach)6
教員名	レンツ　I. K.

職名	04. 准教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 33.33, 4: 0.00, 3: 33.33, 2: 0.00, 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	東邦スタンダードⅣBa
教員名	澤　敦

職名	05. 特任准教授

履修者数	32
回答者数	21

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.38	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.75	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.24	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.48	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.95	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.10	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.86	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.38	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.62	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.86	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.90	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 25.00 / 4: 50.00 / 3: 25.00 / 2: 5.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.75	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	日本国憲法と生活B
教員名	今枝　昌浩

職名	08. 講師

履修者数	16
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.20	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.20	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.30	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.70	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.70	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.10	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.20	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 77.78 / 4: 55.56 / 3: 22.22 / 2: 11.11 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.44	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	国際理解と交流B
教員名	今枝　昌浩

職名	08. 講師

履修者数	23
回答者数	16

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.63	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.88	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.19	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.25	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.31	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.27	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.06	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.38	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.13	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.44	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.81	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 64.29 / 4: 35.71 / 3: 21.43 / 2: 7.14 / 1: 14.29	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.20	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	イタリア語2
教員名	ｳﾞｪﾙｺﾞﾗｰﾆ　ﾐｹｰﾚ

職名	08. 講師

履修者数	21
回答者数	14

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.86	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.43	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.29	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.21	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.71	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.36	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.93	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.21	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.71	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 78.57 / 4: 14.29 / 3: 42.86 / 2: 7.14 / 1: 42.86	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	イタリア語圏異文化コミュニケーション2
教員名	ヴェルゴラーニ　ミケーレ

職名	08. 講師

履修者数	23
回答者数	17

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.12	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.29	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.65	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.12	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.12	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.41	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.65	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.82	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.88	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.59	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.76	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 82.35 / 4: 23.53 / 3: 41.18 / 2: 11.76 / 1: 52.94	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	イタリア語圏異文化コミュニケーション4
教員名	ヴェルゴラーニ　ミケーレ

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 100.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	イタリア語4
教員名	ｳﾞｪﾙｺﾞﾗｰﾆ　ﾐｹｰﾚ

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.80	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.40	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.80	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 60.00 / 3: 60.00 / 2: 20.00 / 1: 80.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	日本国憲法と生活B
教員名	小久保　智淳

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.33	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 33.33 / 4: 66.67 / 3: 66.67 / 2: 66.67 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	社会福祉概論(老人・児童福祉を含む)B
教員名	高畑　敦子

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.67	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.67	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 33.33 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	現代の心理学B(発達心理を含む)
教員名	徳富　政樹

職名	08. 講師

履修者数	14
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.88	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.13	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.63	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.75	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.63	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.88	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.88	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.63	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.88	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 87.50 / 4: 0.00 / 3: 50.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	英語圏異文化コミュニケーション2a
教員名	ﾋｭｰｺﾞ ﾗｳﾞｧﾙ

職名	08. 講師

履修者数	20
回答者数	16

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.94	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.44	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.19	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.13	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.81	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.13	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.31	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.94	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.06	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.13	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.06	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.25	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.88	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.88	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00 / 4: 18.75 / 3: 12.50 / 2: 6.25 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.25	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	英語圏異文化コミュニケーション2b
教員名	ﾋｭｰｺﾞ ﾗｳﾞｧﾙ

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.67	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 50.00 / 3: 100.00 / 2: 0.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	英語圏異文化コミュニケーション4a
教員名	ﾋｭｰｺﾞ ﾗｳﾞｧﾙ

職名	08. 講師

履修者数	8
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.83	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.83	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 83.33 / 4: 0.00 / 3: 33.33 / 2: 0.00 / 1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	スポーツ演習b
教員名	南　明恵美

職名	08. 講師

履修者数	23
回答者数	19

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.32	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.58	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.58	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.37	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.26	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.37	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.32	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.42	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.56	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.74	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.84	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.37	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.53	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 57.89 / 4: 47.37 / 3: 5.26 / 2: 5.26 / 1: 31.58	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.81	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	文化芸術論B
教員名	山下　暁子

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.86	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.43	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.29	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.29	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.14	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.14	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.29	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.43	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.43	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.43	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.43	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.57	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.43	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.71	4: 42.86
			3: 42.86	2: 28.57
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

教職に関する専門科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	08. 教職に関する専門科目
科目数	11

履修者数	270
回答者数	230

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%) 5	4	3	2	1	有効回答数	無効回答数
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.92	38	47	61	23	59	228	2
				16.7	20.6	26.8	10.1	25.9		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.65	171	36	19	2	0	228	2
				75.0	15.8	8.3	0.9	0.0		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.04	89	76	51	5	6	227	3
				39.2	33.5	22.5	2.2	2.6		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.27	3	1	11	25	190	230	0
				1.3	0.4	4.8	10.9	82.6		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.89	86	42	90	5	4	227	3
				37.9	18.5	39.6	2.2	1.8		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.93	27	59	136	3	3	228	2
				11.8	25.9	59.6	1.3	1.3		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.99	95	56	65	10	4	230	0
				41.3	24.3	28.3	4.3	1.7		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.96	104	49	48	19	9	229	1
				45.4	21.4	21.0	8.3	3.9		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.09	116	46	48	13	7	230	0
				50.4	20.0	20.9	5.7	3.0		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.07	113	44	55	13	5	230	0
				49.1	19.1	23.9	5.7	2.2		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60	167	36	25	2	0	230	0
				72.6	15.7	10.9	0.9	0.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.30	128	54	40	6	2	230	0
				55.7	23.5	17.4	2.6	0.9		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.92	74	73	70	10	1	228	2
				32.5	32.0	30.7	4.4	0.4		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.07	95	76	45	5	8	229	1
				41.5	33.2	19.7	2.2	3.5		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	–	145	108	46	57	37	219	11
				66.2	49.3	21.0	26.0	16.9		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.18	102	52	37	1	9	201	29
				50.7	25.9	18.4	0.5	4.5		

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	音楽科教育法Ba
教員名	大熊　信彦

職名	03. 特任教授

履修者数	13
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.10	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.70	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.80	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.90	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.90	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.70	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.30	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
90.00	30.00	10.00	30.00	40.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

当科目の目的は、中学校や高等学校などで、音楽科、芸術科（音楽）の授業を担当する教員に必要な資質・能力を身に付けることです。このため、平成29年告示中学校学習指導要領、及び、平成30年告示高等学校学習指導要領の理解、学習指導案の作成、学校現場での授業展開を見据えた授業づくりなどを内容とし、理論と実践の往還を大切にしながら、講義、グループ・ワーク、模擬授業、協議を組み合わせて実施しました。

水曜日の２時限に教職課程を履修している13人の学生が受講しました。授業に臨む学生の姿勢はおおむね意欲的で、協力し合いながらグループ・ワークを行い、模擬授業に真摯に取り組み、協議にも積極的に参加していました。

授業改善のための学生アンケート集計結果を見ると、回答者全員が、「出席は良好であった」、「授業回数や時間は守られていた」、「教員の熱意や工夫が感じられた」に対して「強くそう思う」と答えました。また、「自分のためになったこと」の問いについて、当科目の回答率を講義・演習系科目全体の回答率と比較すると、「コミュニケーション能力向上」は当科目の回答率が全体の回答率を大きく上回る一方で、「関連分野の学習意欲」は当科目の回答率が全体の回答率を大きく下回っていました。

この結果は、当科目の次のような特性が要因と考えます。すなわち、中学校や高等学校などの学校現場で実際に音楽の授業を行うことを想定し、学生同士が協力し合いながら授業の構想を練ったり、教師役と生徒役に分かれて模擬授業などを行ったりする実践的な学修であるということです。このため、多くの学生が「コミュニケーション能力の向上」を実感できたと考えます。一方、実践的な学修が中心になるため、関連分野の学習意欲につながっていくような知的な広がりという点では十分ではなかったと考えます。

●　問題点

「１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか」の問いに対して、２割の学生が「２時間」、８割の学生が「１時間未満」の回答でした。また、「自分のためになったこと」の問いに対して、前述した「関連分野の学習意欲」とともに、「新しいものの見方」についても講義・演習系科目全体の回答率を下回っていました。

●　改善の方策

学生が授業に対する予習や復習を積極的に行い、学修を更に深めていくことができるように、今後、課題の設定などを一層工夫したいと考えます。また、科目の学修を通して、学習指導要領や学校現場での授業づくりに関わる知識や技能などを獲得することに留まらず、学生が「新しいものの見方」を見いだすことができるような内容となるように改善を図っていきたいと考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	教職実践演習a
教員名	粕谷　宏美

職名	03. 特任教授

履修者数	20
回答者数	20

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.05	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.35	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.70	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.85	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.90	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.05	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.25	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.15	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.70	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.30	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 70.00 / 4: 55.00 / 3: 15.00 / 2: 55.00 / 1: 10.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目の目的は、４年間の教職課程履修科目及び教育実習を終えた４年生の後期に履修する科目である。授業は、主に以下の４点の視点によって、教員に求められる資質能力を身に付けたかどうかを確認するために設定されている。
①教科専門力及び指導力
②教職に対する使命感や情熱及び教育的愛情
③社会性や対人関係能力
④生徒理解や学級経営力
受講者は20名で、授業形態は参加型の演習である。授業は、以下の２つの内容をテーマにして取りくんだ。
１、模擬授業　教育実習を振り返り、実習中に行った授業等を一人１５分程度で模擬授業を行い、終了後には参加者を代表して学生３名程度が意見や感想を述べあった。その後に教員から模擬授業についてコメントを行った。
２、教育課題企画研修
４人が1グループとなり、任意に選択した今日の教育課題を研究し、授業では教育現場での教員研修を想定し、研修会の企画・運営に取り組んだ。学生は教育実習を終えて間もないことから、すべてのグループが適切な教育課題を選び、主体的に授業に参加していた。
上記１については、教育実習を振り返り工夫改善をしながら模擬授業を行うことは、本科目のねらいからしても意義のあるものであった。なお、模擬授業終了後の大熊先生のコメントが適切であるとともに授業の質を高め、学生からも好評であった。

●　問題点

模擬授業後の協議を深めるためにはあと少し時間的余裕が欲しいところである。また、教育課題研究は今日の代表的教育課題を取り上げていたが、今後もテーマが偏らないよう留意し、様々な課題の特徴をふまえて、バランスよく取り上げていくこととする。

●　改善の方策

どの学生からも教育実習を終えて成長した様子がうかがえた。一方、教科専門力などの一人ひとりが抱える課題については、最後まであきらめずに努力し続け、教員としての資質能力を高めていけるよう指導を徹底する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	教育行政b
教員名	石橋　裕

職名	05. 特任准教授

履修者数	12
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.70	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.70	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.70	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.90	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.90	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 20.00 / 3: 0.00 / 2: 20.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.90	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

各授業とも、講義式と協働的な学修を織り交ぜたが、新型コロナウイルス感染防止のため、付箋を用いるなどして話し合い活動を制限した。また、パワーポイント等により視覚的な教材を多く取り入れた。毎時間、シラバスに沿って資料を用意し、学生が予習、復習しやすいよう配慮した。さらに各学生の学習状況を把握するため、「授業振り返りカード」を用意して毎時間、記述式で自己評価や感想を書いてもらい、必ずコメントを添えて返した。授業の合間には、各学習内容と音楽科授業との関連に触れ、具体例を示した。アクティブ・ラーニングでは、思考力や判断力、発表力を高め、知識の概念化が図られてきた。主体的・対話的で深い学びを行う課程で、クリティカル・シンキングにより自分の考えを見直し、メタ認知能力を高めることができた。

授業内容は文部科学省、地方教育行政、学校教育行政、社会教育行政、家庭教育行政、安全教育等と広い分野に及ぶため、教育行政全般の概要を考察し理解することが主眼となる。この分野への興味・関心が薄い学生が多くいることから、教育行政の概要を具体的事例を基に考察し、体系的に理解する意義は大きいと考えている。

留意したことは次の３点である。　①　教育行政と学校運営との関係を具体的な事例に基づいて理解する。②　教育行政の変遷について概要をつかむ。③　現在の教育行政の現状と課題を整理する。この３点は授業全般で意識して取り組んできたところである。教職課程の授業であることから、特に学校教育行政の変遷および新学習指導要領の方向性、家庭、地域との協働について、具体的で踏み込んだ授業展開を試みた。今後の教育行政は産官学民が協働で歩調を合わせて進めていくことが求められている。この点については、特に強調したところである。

●　問題点

Ⅰａ「履修するにあたって、シラバスを活用した。」という項目で「全くそう思わない」に２人が回答している。授業は大方においてシラバスの項目に沿って進めてきたが、シラバスの活用について学生に周知する点において課題を残した。また、Ⅰｄ「１回の授業のために平均どのくらい予習、復習をしましたか。」の項目では、１０人が１．１時間未満と回答しており課題を残した。

●　改善の方策

シラバスについて、第１回目の授業で印刷して配布し、１５回の講義の見通しを持たせたい。さらに、毎時間の配付資料でシラバス内容を提示し、内容との関連を説明する。

また、学生の専攻レッスン、演奏会、各学修の状況から鑑みると、予習・復習時間を確保することは容易ではなく、工夫が必要である。そこで、毎時間、予習、復習のポイントを示すことにより焦点化し、予習、復習しやすい環境を整えていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	教育方法b
教員名	石橋　裕

職名	05. 特任准教授

履修者数	13
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.22	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.67	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.11	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.89	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.56	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.78	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.44	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.11	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.78	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.56	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.78	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.44	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 37.50 / 3: 25.00 / 2: 12.50 / 1: 12.50	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

実際の授業で行われている多様な指導方法や学習形態を体験的にシュミレーションする授業を中心とした。特に協働による学びを重視し、多様な学習方法を体験的に学修した。各授業とも、講義式、アクティブ・ラーニングを織り交ぜ、パワーポイント等により視覚的な教材を多く取り入れた。残念ながらコロナ禍により討論や意見交換、発表等ができず、付箋を活用するなどの工夫をしたが、思いの外、学生には好評であった。また、毎時間、シラバスに沿って資料を用意し、学生が復習しやすいよう配慮した。さらに各学生の学習状況を把握するため、「授業振り返りカード」を用意して毎時間、記述式で自己評価や感想を書いてもらい、必ずコメントを添えて返した。音楽大学という特質から、音楽教育と結びつけて実践的な内容とした上で、主体的・対話的で深い学びを進め、これからの教育に必要とされるイノベーション能力、コラボレーション能力、コミュニケーション能力等のコンピテンシーを含めた資質・能力の育成について体験的に理解していった。３年生という特質から、各種演奏会出演、各種体験活動等から公欠が多く、継続的な学習という点で課題がある。

留意したことは　①　ねらいを明確にして見通しを示し、学習の内容、成果や課題について振り返りのある授業をめざすこと　②　協調学習（ジグソー学習）等主体的・対話的で深い学びの指導方法、学習方法を理解すること　③　資質・能力の3つの柱を理念とした新学習指導要領の趣旨や概要を理解することである。この３点は授業全般で意識し、取り組んできたところである。また、家庭や地域社会との連携、協働、産官学民の協働の現状や求められる取組やＩＣＴ教育の意義と今後の課題についても取り上げた。

【

●　問題点

①　Ⅰａ「この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した」という設問に対して　１　全くそう思わないに４人の学生が回答している。履修するにあたってシラバスを読み込んでいる学生はすくない現状がある。
また、Ⅰｄ「１回の授業のために平均どのくらい予習、復習をしましたか。」の項目では、５人が１．１時間未満と回答しており課題を残した。

●　改善の方策

シラバスについて、第１回目の授業で印刷して配布し、１５回の講義の見通しを持たせたい。さらに、毎時間の配付資料でシラバス内容を提示し、内容との関連を説明する。また、学生の専攻レッスン、演奏会、各学修の状況から鑑みると、予習・復習の時間を確保することは容易ではなく、工夫が必要である。そこで、毎時間、予習、復習のポイントを示すことにより焦点化し、予習、復習しやすい環境を整えていきたい。今後一人一人の学生の学修状況を十分に把握しながら、授業を進めていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	総合的な学習の時間の指導法
教員名	石橋　裕

職名	05. 特任准教授

履修者数	27
回答者数	23

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.74	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.65	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.86	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.17	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.78	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.57	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.04	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.39	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.43	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.43	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.74	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.61	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.04	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.17	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 57.14 / 4: 33.33 / 3: 33.33 / 2: 14.29 / 1: 9.52	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.26	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

総合的な学習の時間は、新学習指導要領では各教科等の軸とされている。各教科学習で得られた知識、技能や思考力や表現力等を横断的に関連させ、知の総合化を図り、児童生徒に資質能力の３つの柱を身に付けさせ、生涯にわたって学び続ける力をつけていくことは、現代教育の命題といってよい。その中心となる学習が総合的な学習の時間であるが、その意義、目的、探究学習の方法、年間指導計画の作成、音楽をはじめとする各教科等との関連、ポートフォリオ評価等の評価方法等について、演習方式で具体的な活動を通して学ぶ。また、学ぶ過程における協働学習やＩＣＴの活用について、疑似体験を通して学んでいく。

探究学習の方法については、課題設定、課題追究（情報の収集、整理）、まとめ発表の各段階の学習方法について擬似体験をしながら考察する。また、年間指導計画の作成について、実際に計画を作成しながら各教科等との関連について留意する。さらに、地域学習をテーマとした場合の総合的な学習に時間について、「川越市」の歴史、観光をはじめとする産業、施設、地域的特色について考察し、ウェビングの手法を用いながら、課題設定の方法を検証する。

総合的な学習の時間と学校行事との関連は、表裏一体をなす。職業体験、宿泊的行事（修学旅行）に焦点をあてて、特別活動と総合的な学習の時間とのねらいを比較しながら、具体的な活動例をもとに特別活動と探究学習としての総合学習の違いについて理解する。

学生は小学校、中学校、高等学校と総合的な学習（探究）の時間を経験している。これらの経験知をいかして、授業を進めるよう心がけている。

●　問題点

学生アンケート結果ではⅠｄ「１回授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」で２１人がⅠ時間未満と回答している。また、Ⅱａ「この授業はシラバスに沿って行われていた。」で「全くそう思わない」と回答した学生が８人いる。この２点から学生の主体的な学修に課題があることがわかる。

●　改善の方策

シラバスに記した「準備学習」について、毎時間最後に確認するようにしたい。特に復習に力を入れ、学修の内容をより深めていくようにする。特に、中学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の内容について、その概要をつかめるようにする。単元計画の作成や探究学習の学習方法は、授業計画通りに進まない場合もあり、３～４時間をまとめてⅠ単元と考えるような発想で、シラバスと授業の実態を整合させていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	生徒指導の方法及び教育課程の意義と編成a
教員名	五十嵐　由和

職名	08. 講師

履修者数	12
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.10	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.40	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.40	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.10	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.40	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 60.00 / 4: 80.00 / 3: 30.00 / 2: 70.00 / 1: 20.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

生徒指導及び教育課程に関する基本的事項・理論の理解を深め、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得を図るとともに、生徒指導及び教育課程の課題と展望を明確にし「実践知教育」を目指し、テーマを設定してきた。アンケートの結果からテーマ・進め方には概ね良好な受け止め方をしている。全体的に、中学校・高校の学校現場の身近な事例の教材・現代的な課題をもとに、文部科学省の基本的な考え方を踏まえた理論研究、事例研究を基本に講義、グループ討議を進めてきたが、概ね良好な受け止め方をしている。シラバスを活用方法について説明したが、シラバスの活用や予習・復習に不十分な点が見られた。また、同一科目でも学生の興味・関心・意欲に差異がみられ、実態を十分に考慮する必要があることともに、実態に応じて、スライド等の資料を精選する必要がある。

●　問題点

シラバスを活用した授業、予習・復習の具体的な内容を示すなど工夫及び実態に応じたスライド教材の工夫。

●　改善の方策

１　シラバスを活用し、授業の充実及び予習・復習を充実するために、毎回の授業でシラバス・学習内容を意識させるとともに予習・復習の課題を具体的に示すなど工夫していく。

２　学習指導要領改訂の趣旨、生徒指導提要を踏まえ、中学校・高校の学校現場に身近な事例・現代的な課題、文部科学省の基本的な考え方を踏まえた理論研究、実践研究、事例研究を基本に、主体的・対話的な学び（アクティブ・ラーニング）になるようにグループ討議など、学生が主体的に学んでいける授業をさらに進めていく。

同一科目でも、学生の興味・関心・意欲などの実態を踏まえ、スライド教材等精選するなど実態に基づいて授業の進め方の改善が必要である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	生徒指導の方法及び教育課程の意義と編成b
教員名	五十嵐　由和

職名	08. 講師

履修者数	16
回答者数	14

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.71	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.93	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.79	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.57	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.86	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.64	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.79	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.79	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.77	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.77	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 71.43 / 4: 64.29 / 3: 35.71 / 2: 78.57 / 1: 28.57	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.69	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

生徒指導及び教育課程に関する基本的事項・理論の理解を深め、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得を図るとともに、生徒指導及び教育課程の課題と展望を明確にし「実践知教育」を目指し、テーマを設定してきた。アンケートの結果からテーマ・進め方には概ね良好な受け止め方をしている。全体的に、中学校・高校の学校現場の身近な事例の教材・現代的な課題をもとに、文部科学省の基本的な考え方を踏まえた理論研究、事例研究を基本に講義、グループ討議を進めてきたが、概ね良好な受け止め方をしている。シラバスを活用方法について説明したが、シラバスの活用や予習・復習に不十分な点が見られた。また、同一科目でも学生の興味・関心・意欲に差異がみられ、実態を十分に考慮する必要がある。

●　問題点

シラバスを活用した授業、予習・復習の具体的な内容を示すなど工夫、実態に応じたスライド教材の精選。

●　改善の方策

１　シラバスを活用し、授業の充実及び予習・復習を充実するために、毎回の授業でシラバス・学習内容を意識させるとともに予習・復習の課題を具体的に示すなど工夫していく。

２　学習指導要領改訂の趣旨、生徒指導提要を踏まえ、中学校・高校の学校現場に身近な事例・現代的な課題、文部科学省の基本的な考え方を踏まえた理論研究、実践研究、事例研究を基本に、主体的・対話的な学び（アクティブ・ラーニング）になるようにグループ討議など、学生が主体的に学んでいける授業をさらに進めていく。

学生の興味・関心・意欲などの実態を踏まえ、実態に基づいたスライド教材の精選も含めた授業の進め方のさらなる改善が必要である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	教育心理学
教員名	宇根　優子

職名	08. 講師

履修者数	50
回答者数	43

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.21	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.64	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.21	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.14	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.45	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.39	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.40	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	2.91	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.09	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.09	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.28	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.58	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.33	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.33	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00	4: 42.50
			3: 12.50	2: 10.00
			1: 10.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.35	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

当該授業の目的は「教育心理学の基礎知識を学び、教育に関する心理学的な視点を習得することを目指す」「受講者自身の人間観・子ども観や、目指す教育者像等についての自己洞察を深める」「生徒の心身の発達、及び学習の過程についての知識を身につける」「各発達段階における心理的特性を踏まえた学習指導の基礎となる考え方を理解する。」であった。授業内容では、記憶、学習の原理、やる気などの教育に有用な人間の認知メカニズム、発達の原理、人格的発達や知能の発達、授業方法としての学習、教育評価、クラス内での集団心理、発達障害等を紹介した。授業方法は講義形式で、スライドを提示し、同様の内容を紙の資料として配布した。また、デモンストレーションとして記憶実験や性格検査を実施した。質問についてはQ-Aサイトを通じてスマートフォン等で匿名で質問を受け付けられるようにした。
アンケートの集計結果では、面白いという意見もあった一方で、授業内容、資料等がわかりにくいとの意見が多かった。内容が多岐にわたるため、煩雑な授業内容になってしまった。また、授業内容から学習意欲につながりにくかったことも問題としてあげられる。

●　問題点

全体的に、内容の多さから一方的な授業になってしまい、配布資料も適度な情報量とは言えなかった（多いという意見、端的だという意見両方見られた）。匿名ではあったものの、質問サイトがあまり活用されず、双方向性が保たれにくかったことも挙げられる。

●　改善の方策

授業最後にまとめとしてキーワードを提示していたが、これを授業開始時に提示して、最初に授業のイメージを作りやすくしたい。また、資料には書き込み可能な空欄を作った方がよいのではないかという意見があったため、その点を留意して作成していきたい。また、可能な部分においてデモンストレーションを増やし、理論内容を実感する機会を作りたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	教育相談・進路指導
教員名	宇根　優子

職名	08. 講師

履修者数	51
回答者数	43

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.52	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.72	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.12	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.62	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.74	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.67	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.56	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.77	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.65	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.37	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.86	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.43	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.51	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 58.54 / 4: 41.46 / 3: 7.32 / 2: 9.76 / 1: 19.51	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.68	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

秋学期の金曜5限教育相談（7回と試験）を担当した。この授業の目的は「児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉えることができる」「生徒を支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける」「青年期を中心とした生涯発達理論、進路指導、及びキャリア教育に関する心理学的理論を学ぶ」であった。教育相談部分では教育相談の種類、児童生徒の一般理解としての発達課題や自分を知るための性格心理学の検査や理解するときに注意するバイアス、発達障害・不登校・いじめについて、また教育相談で使用するカウンセリング理論、保護者対応と校内での教育相談システムを紹介した。講義形式で受講者数は毎回45名程度、スライドを提示し、資料として配布した。また、アクティブリスニングについてのワークを実施し、実際の教育相談場面、発達障害の紹介等を示したビデオを提示した。授業中の質問については、スマートフォン等を通じてQ-Aサイトを通じた匿名での質問を受け付けた。
資料や内容についてわかりづらい、資料が多いなどの集計結果が見られた。また試験や試験対応時に問題が生じてしまった。

●　問題点

多くのことを紹介しようとしたためにかえってわかりづらくなってしまった。このためにスライドや配布資料に内容を詰め込みすぎ、全体的に授業内容の焦点が散漫になってしまったと思われる。また、授業中に質問をリアルタイムで受け付けていたが、良い質問が得られたこともあったものの、双方向性の積極的な活用までには至らなかった。

●　改善の方策

まずは毎回の開始時に概略やキーワードを提示し、学生にとって授業内容の焦点を作りやすくし、ワークなどの体験を増やしていきたい。また、資料が見づらいという声が多かったので、フォントやデザイン等を変更して視認性の高いものにしていきたい。さらに、質問に対するハードルを下げるようにし、リアルタイムでの質問及び要望が出やすくしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	特別支援を必要とする生徒の理解①
教員名	二俣　泉

職名	08. 講師

履修者数	29
回答者数	24

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.46	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.83	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.83	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.21	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.92	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.88	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.79	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.54	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.71	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 86.96 / 4: 82.61	3: 43.48 / 2: 30.43 / 1: 26.09
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.82	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

特別支援教育に関する知識に関する授業である。授業形態は講義である。開講曜日は月曜日の1時限であった。受講者数は29名であった。集計結果は、概ね演習系科目全体の平均と同程度かそれを越える点数であった。

●　問題点

現状の説明でも述べたように、概ね平均を越える点数であったため、講義の形態・内容ともに適切であったと考えられる。

●　改善の方策

内容は概ね適切と考えられる。自由記述でも肯定的な記述がなされていた。毎回の授業の最初に実施する小テストについて、テストの実施時間が短いとの記述もあったが、ほとんどの学生は毎回、８割を越える正答率であったため、問題はあまりないのではないかとも考えられる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	音楽科教材研究B
教員名	山崎　正彦

職名	08. 講師

履修者数	27
回答者数	24

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.92	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.71	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.26	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.70	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.92	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.96	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.13	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.29	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.58	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.29	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.88	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.21	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 81.82 / 4: 54.55 / 3: 31.82 / 2: 18.18 / 1: 18.18	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.26	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者数は全26名、開講曜日は水曜、2次元である。

学生が自ら中学校の音楽科授業を構成し、それを同級生を生徒に見立てて模擬授業として実施するという授業内容である。授業構成は前期（音楽科教材研究A）に終了しており、その実践が音楽科教材研究Bである。個々人を詳細にとりあげれば、その授業の内容及び進め方に差異はあるものの大学生としては概ね、満足のゆく内容であった。

述べたように受講生は概ね、積極的に授業に取り組み、こちらが描く学力を身につけていることも実感として伝わってきた。

集計結果に関しては〈予習・復習〉の不足が顕著であることが分かった。とりわけ、Ⅱ－ｄの数値からは学生にとり不満があることが見て取れる。

反面、当授業の内容から〈新しいものの見方〉を実感していた学生が55パーセントいたこととが当方として、最も安堵した点である。

●　問題点

自由記述における「計画性がない」については、具体的に何を指摘しているのかが判明すれば、当方としては有難い。逆方向の内容の記述もあることから、当方としては、かえって悩む結果となった。

●　改善の方策

私の担当する科目全てに言えることであるが、これまでにワークシートの内容に加えて、その都度、その授業に関する満足度を学生に記していただき、必要に応じて、自由記述も入れる等、「計画性がない」等の問題を年度末に持ち越さないようにしたい。

音楽療法に関する科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	09. 音楽療法に関する科目
科目数	4

履修者数	22
回答者数	21

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	9	7	2	2	1	21	0
				42.9	33.3	9.5	9.5	4.8		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.38	13	4	3	1	0	21	0
				61.9	19.0	14.3	4.8	0.0		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.52	13	6	2	0	0	21	0
				61.9	28.6	9.5	0.0	0.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.14	0	0	0	3	18	21	0
				0.0	0.0	0.0	14.3	85.7		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.76	18	1	2	0	0	21	0
				85.7	4.8	9.5	0.0	0.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.52	0	4	16	1	0	21	0
				0.0	19.0	76.2	4.8	0.0		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	21	0	0	0	0	21	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.95	20	1	0	0	0	21	0
				95.2	4.8	0.0	0.0	0.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.95	20	1	0	0	0	21	0
				95.2	4.8	0.0	0.0	0.0		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	21	0	0	0	0	21	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	21	0	0	0	0	21	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.95	20	1	0	0	0	21	0
				95.2	4.8	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.62	13	8	0	0	0	21	0
				61.9	38.1	0.0	0.0	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.81	18	2	1	0	0	21	0
				85.7	9.5	4.8	0.0	0.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	–	19	9	14	1	0	21	0
				90.5	42.9	66.7	4.8	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	18	0	0	0	0	18	3
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	人間と医療ＩＢ
教員名	木下　容子

職名	04. 准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	2.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	－	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

＜当科目の目的＞音楽療法の対象者の精神疾患、それに伴う症状や精神状態を学習することを通して、音楽療法実践に役立つ精神医学基礎知識を得て、対象者理解を深めることである。
＜内容＞精神疾患の分類の理解、さまざまな精神疾患の症状や特徴の理解、検査や精神療法を理解する力を身につける。また、それら精神疾患のある方々へ自分が音楽療法士として接する時に、自分ならどのように工夫するか、などを言葉にする。
＜授業形態＞　講義形式であったが、上記のように精神疾患の症状や精神疾患のある方々に対して、またその方々への音楽療法実践に対する自分の意見を述べる場面を適宜設けた。
＜受講者数＞　１名。
＜開講曜日・時限＞火曜日３限。

＜アンケート結果より＞
①Ⅰ－ａより、学生がシラバスを全く活用していないと自己評価していることが分かった。また、Ⅰ－ｂ・ｃより、学生があまり積極的にこの授業に取り組んでいなかったと感じていることが明らかになった。今年度の履修学生は１名で、学修全般に対して意欲が低かったことが影響していると思われる。
Ⅰ－ｄからは、「予習復習の時間」が平均値と比べて低い結果であることが分かった。この授業では毎回小テストを実施しているが、＜精神医学＞という難易度の高い内容のため、暗記することは求めずにプリント等すべて持込可とした。そのことが数値に影響を及ぼしていると考えられる。
②担当教員は難しい精神医学の内容をカラー資料や図表で伝える工夫をしたが、Ⅱ－ａ～ｈの結果より、その意図が受講生に伝わったと感じた。具体的には、教科書のみでは理解が難しい脳のしくみなどを、別資料カラーで用意してPPTを活用して説明した。
③Ⅲ－ａ・ｃより、到達目標はある程度達成でき、「新しい知識・技能」を学んだと感じていることが分かった。

●　問題点

シラバスについては、毎回の授業の冒頭で学生と一緒に確認したが、学生は活用したとは捉えていなかった。出席についても2回の欠席だが「良好だとあまり思わない」と捉えていた。概観すると、Ⅰの設問の＜自分に対して＞の評価が低めで、Ⅱの設問＜教員に対して＞の評価が高いことから、学生自身の事実を客観視する弱さや自己肯定感の低さが表れているように感じた。授業内容に関しての意識のズレというよりは、学生自身の心理的な要因がこれらの結果に影響していると思われた。
「予習復習の時間」については、時間の短さが露呈された結果であった。

●　改善の方策

今後はさらに、受講する学生の個人因子に配慮して、興味・関心・意欲等に合わせて授業を展開していきたい。また、「予習復習の時間」を確保する必要性があるため、持込可の小テストの他に、持込不可とする授業内テストも数回実施するなどして、学修時間の確保に努めていきたいと考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	人間と医療ⅡB
教員名	木下　容子

職名	04. 准教授

履修者数	7
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.57	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.86	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.43	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.86	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 42.86 / 3: 85.71 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

＜当科目の目的＞音楽療法実践に役立つ基礎・身体医学（主に神経学）の基礎知識を得て、対象者理解を深めることである。
＜内容＞基礎医学・身体医学の中で、音楽療法の対象者理解に必要な神経学（入門程度）を理解する力を身につける。また、それらの疾患のある方々へ自分が音楽療法士として接する時に、自分ならどのように配慮・工夫するか等を言語化できるようにする。
＜授業形態＞　講義形式であったが、上記のような疾患のある方々に対して、またその方々への音楽療法実践に対する自分の意見を述べる場面を適宜設けた。
＜受講者数＞　７名。
＜曜日・時限＞火曜日５限。

＜アンケート結果より＞
①Ⅰ－aより、この授業でのシラバス活用の自己評価は、平均値よりも顕著に高かった。これについては、毎回授業の冒頭でシラバスを利用して授業内容の確認をし、学修内容を意識付けさせる機会を設けたことが影響していると思われる。
②Ⅰ－ｂ、ｃより、学生が積極的にこの授業に取り組んだことが分かった。ただ、Ⅰ－ｄの結果より、「予習・復習の時間」が平均より少ないことが明らかになった。この授業では毎回小テストを実施しているが、＜医学＞という難易度の高い内容のため、暗記することは求めずにプリント等すべて持込可とした。そのことが数値に影響を及ぼしていると考えられる。
③担当教員は、比較的難易度の高い身体医学の内容を、カラー資料や図表で伝える工夫をしたが、Ⅱ－ａ～ｈの結果より、その意図が受講生に伝わったと感じた。具体的には、脳の器質的疾患や聴覚のしくみなどを、全てカラー資料を用いて説明した。また、図表をPPTでも映し出し、当該部位を指し示しながら説明した。加えて、検査方法などは学生たちに実践してもらったが、受講生は興味をもって取り組んでいるようであった。
④Ⅲ－ａ～ｄより、この授業の到達目標を十分に達成し、興味深く学習したことが分かった。Ⅲ－ｃ〔この授業を履修して自分のためになったこと〕については、「新しい知識・技能」「関連分野の学習意欲」の回答率が顕著に高かった。これに関しては、今まで学習する機会のなかった基礎・身体医学に触れることで、音楽療法実習で出会う対象者の状態を新たな視点から理解・評価できることに繋がっていると感じた。また、自分が得た知識と関連する分野への興味関心も高まったと思われる。

●　問題点

アンケート結果より、2021年度の学生については、教員と学生間に大きな意識のずれはなかったように感じている。前述のような授業の工夫、また授業の途中や終了時に、学生一人一人に講義内容の感想や質問を述べてもらい、密にコミュニケーションしたことが影響しているように思う。ただ、「予習復習の時間」の短さが露呈された結果であった。

●　改善の方策

「予習復習の時間」を確保する必要性があるため、持込可の小テストの他に、持込不可とする授業内テストも数回実施するなどして、学修時間の確保に努めていきたいと考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	臨床心理学ＩＢ
教員名	岩澤　直子

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	3.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.17	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.17	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.83	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
66.67	33.33	66.67	0.00	0.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は、心理学的アセスメントの諸技法についての演習を通して、それぞれの有効性や課題について理解することを目的としている。授業の形式としては、心理検査の実施と所見作成に関して演習をまじえながら行い、それらに関する議論や補足的講義も行う。履修の際の留意点として、演習や課題をこなすだけではなく、主体的に考え、それを言語化し、積極的に議論することが求められる科目である。授業は基本的にはシラバスに沿って実施されるが、演習の進度や受講生の反応によって適宜変更する可能性がある。

アンケートの集計結果を見てみると、「開講時に成績評価の基準が明確に示されていた」、「授業内外における質問や相談の対応は適切であった」、「授業回数や時間は守られていた」において全ての受講生が5点を回答した。また、「授業の進め方が丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった」、「教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった」、「この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた」においても5点と4点の回答であった。これらの結果から、受講生においては満足できる授業内容が展開されたと考えられる。また、受講生自身が「自分のためになったこと」として、「関連分野の学習意欲」と「新しい知識・技能」へ回答していることからも、受講生が授業内容に満足感を得ていることが推察される。

本科目は音楽療法専攻のみの履修であり、必修科目とされている。授業の内容や進め方は受講生の音楽療法の知識や技術獲得、意欲にも貢献できていると考えられる。

●　問題点

集計結果全体を見てみると、設問Ⅱと設問Ⅲにおいて、概ね4点から5点の回答が得られており、教員と受講生間に大きな意識のズレはないと考えられる。その中で1点だけ挙げるとすると、予習復習についてである。本科目は専門的な内容が含まれるため、予習と復習は欠かせないと考えられるが、アンケート回答を見てみると、多くの受講生が「1時間未満」と回答している。

●　改善の方策

先に述べたように、授業の予習復習において、教員と受講生の間に齟齬が見られる。この結果を踏まえて、次年度では、授業ごとに予習と復習の内容を明示し、レポート等の課題とすることで受講生に促していきたいと考えている。予習復習を通して、授業の内容の理解を深めることができるため、受講生の学習意欲につながるのではないかと考えられる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	障害学B
教員名	高畑　敦子

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.14	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.86	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.86	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.29	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.57	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.71	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.57	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 57.14
			3: 57.14	2: 14.29
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

文化教養科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	10. 文化教養科目
科目数	1

履修者数	3
回答者数	1

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%) 5	4	3	2	1	有効回答数	無効回答数
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00	0	0	0	1	0	1	0
				0.0	0.0	0.0	100.0	0.0		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	0	0	0	0	1	1	0
				0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	0	1	0	0	0	1	0
				0.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	0	0	1	0	0	1	0
				0.0	0.0	100.0	0.0	0.0		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	–	1	1	1	0	0	1	0
				100.0	100.0	100.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	コンピュータミュージック演習ＩＢ
教員名	湯浅　恭子

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞

ICT機器を「自分のアイディアや伝えたいことを形にするための道具」として活用できる能力を高める。本科目は音楽創造専攻以外の専攻生を対象とし、コンピュータを利用して音楽制作をする。演奏する立場ではなく、音楽を創る立場になることで音楽に対する視点を増やし、自己表現の拡張に繋げる。また近年、教育現場においても情報機器の活用は必須となっており、こうしたICT機器・ソフトウエア・ネットワークを用いた教育活動につなげることができるよう理解を深める。

＜内容＞

① Macintoshコンピュータの基本操作の習得。OSやアプリケーションソフトウエアなど、コンピュータの基本的な構造についての知識の習得。

② 主として音楽制作ソフトウェアDigital Performer、楽譜作成ソフトウェアSibeliusを使用。音楽制作ソフトウェアでは、MIDIデータ・Audioデータといった音のディジタルデータについての理解、楽譜ソフトウェアでは基本操作を習得し、単に「見やすい楽譜」を作るのではなく「楽譜を読む人に作り手の意図が伝わりやすい楽譜」が作れることを意識した楽譜作成を行う。

③ 作成した楽曲については「ソフトウェアの操作に関する習熟度」「自分のアイディアを思うようにアウトプットできたか」「今後の課題」などの振り返りを行う。

＜状況説明と分析＞

金曜日１時限、履修者数３名。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータ演習室にてMac PCを使用。履修生は全員３年生。全員、Windowsの使用経験はあるもののMac PCは使用したことがない、とのことであったが、PCの操作には比較的早い段階で慣れることができた。音楽制作ソフトウェアでは鍵盤を用いたMIDI入力はスムーズに行うことができ、Audioデータを用いた編集作業の方が難易度が高かったように思われる。楽譜作成ソフトウェアにおいても基本操作の習得はスムーズで、学生によっては自宅のPCに同類のソフトウェアをインストールして、自宅でも作成できる環境を作れた。期末課題制作は「作曲」「編曲」どちらかを選び、使用するソフトウェアも選択制で行った。ソフトウェアは全員楽譜ソフトウェアを用い、自分で曲を作成した学生が２名、編曲を行った学生が１名となった。

●　問題点

・予習復習の時間

・シラバスに沿って行われていたか：タブレット端末を用いた学習を行う予定であったが、アプリケーションソフトウェアの不具合、代替えのソフトウェアの準備ができなかったために、シラバスに沿って行えなかったものが出てしまった。

●　改善の方策

・予習復習の時間については、具体的な課題のある時や期末課題制作の時期には取れていると思うが、コンスタントに毎回時間を取れてはいないように思う。具体的な課題提示、また行った予習復習を毎回確認することで、習慣化できるようにしたい。

・シラバスに沿った授業進行については、新しいソフトウェアの導入に際して不具合に対応できるよう、タブレット端末・PCどちらも複数の代替を準備する。

外国人留学生に関する科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	11. 外国人留学生に関する科目
科目数	9

履修者数	55
回答者数	33

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.73	29	1	2	0	1	33	0
				87.9	3.0	6.1	0.0	3.0		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.48	23	6	2	1	1	33	0
				69.7	18.2	6.1	3.0	3.0		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.85	30	1	2	0	0	33	0
				90.9	3.0	6.1	0.0	0.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.48	5	3	8	4	13	33	0
				15.2	9.1	24.2	12.1	39.4		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.82	30	0	3	0	0	33	0
				90.9	0.0	9.1	0.0	0.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.55	6	7	15	5	0	33	0
				18.2	21.2	45.5	15.2	0.0		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	26	3	4	0	0	33	0
				78.8	9.1	12.1	0.0	0.0		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.82	28	4	1	0	0	33	0
				84.8	12.1	3.0	0.0	0.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	25	6	1	1	0	33	0
				75.8	18.2	3.0	3.0	0.0		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.85	30	2	0	1	0	33	0
				90.9	6.1	0.0	3.0	0.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.94	31	2	0	0	0	33	0
				93.9	6.1	0.0	0.0	0.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.91	31	1	1	0	0	33	0
				93.9	3.0	3.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.85	30	1	2	0	0	33	0
				90.9	3.0	6.1	0.0	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.76	27	4	2	0	0	33	0
				81.8	12.1	6.1	0.0	0.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	–	24	10	8	8	16	32	1
				75.0	31.3	25.0	25.0	50.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.64	20	3	1	0	1	25	8
				80.0	12.0	4.0	0.0	4.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	日本語6
教員名	一林　久美子

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.83	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.83	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.83	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 33.33 / 3: 16.67 / 2: 0.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞
留学生として授業に参加できるように、日本語を理解し使用できることが全ての日本語の科目の目的となる。論理的に書かれた評論や科学の解説文などを理解の対象とする。又、日本社会で暮らして行くのであるから実社会で使われている日本の語彙や表現を充分に理解し使えることも必要となる。したがって、背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解できるようにしていく。
＜科目の内容＞
ある程度のまとまった物語、評論、生活文などが掲載されている教科書を中心に、語彙や文法を学習していく。文法の練習を通して定着を目指し、学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え話す。
＜授業形態＞
外国語の授業には予習が必須であるので、全員が予習をしてきていることを前提として授業を進めていく。教師の学習項目の説明を受けてから、正しい使い方を練習する。文章全体の意味や作者の意図を理解し、教科書の読解の問題を考える。語彙については、教科書だけでは足りないので、前の週に配布した語彙プリントの問題を自分で調べ答えを書いておくようにしている。授業では、答え合わせをし疑問点を解説する。学生に間違えたところを学習するよう促す。定着を図るために時々小テストをしている。
＜状況説明と集計結果の分析＞
この火曜日３限の授業では、日本語初級の文法を終え、中級に入った学生を対象に授業を行っている。日本語能力のレベルに差があり、易しすぎると感じる学生もいたと思われるが、そのような学生には問題を100%できるように奨励した。日本語５の学生は、２人とも欠席が多いこと、予習、復習の時間が少ないことが挙げられる。日本語６で、授業がやや難しいと答えた学生は、履修の段階でこの下のレベルのクラスを勧めたが、他の授業との関係でこのクラスに参加となった。又、欠席も多く、自習していると認められない。

●　問題点

日本語５の学生は、２人とも在日歴は長く日本語の使用も不便はないと思われるが、地道に学習する姿勢が窺われない。大学生としては、論理的な文章を読む、話を正確に聞くなどの能力が必要とされるので自覚が必要だと思われる。日本語６で、授業がやや難しいと答えた学生は、何よりもレベルにあった学習が必要だと思われる。

●　改善の方策

次年度は、今期のほとんどの学生は次のステップとして中級に進むのであるが、内容が難しくなるので、予習・復習の時間を多く取って欲しい。中級の授業が難しいと思われる学生は、同じレベルの授業を再度受講し、自習を更に多くすることを勧める。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	日本語5
教員名	一林　久美子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	2.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 50.00 / 3: 50.00 / 2: 50.00 / 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞
留学生として授業に参加できるように、日本語を理解し使用できることが全ての日本語の科目の目的となる。論理的に書かれた評論や科学の解説文などを理解の対象とする。又、日本社会で暮らして行くのであるから実社会で使われている日本の語彙や表現を充分に理解し使えることも必要となる。したがって、背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解できるようにしていく。
＜科目の内容＞
ある程度のまとまった物語、評論、生活文などが掲載されている教科書を中心に、語彙や文法を学習していく。文法の練習を通して定着を目指し、学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え話す。
＜授業形態＞
外国語の授業には予習が必須であるので、全員が予習をしてきていることを前提として授業を進めていく。教師の学習項目の説明を受けてから、正しい使い方を練習する。文章全体の意味や作者の意図を理解し、教科書の読解の問題を考える。語彙については、教科書だけでは足りないので、前の週に配布した語彙プリントの問題を自分で調べ答えを書いておくようにしている。授業では、答え合わせをし疑問点を解説する。学生に間違えたところを学習するよう促す。定着を図るために時々小テストをしている。
＜状況説明と集計結果の分析＞
この火曜日３限の授業では、日本語初級の文法を終え、中級に入った学生を対象に授業を行っている。日本語能力のレベルに差があり、易しすぎると感じる学生もいたと思われるが、そのような学生には問題を100%できるように奨励した。日本語５の学生は、２人とも欠席が多いこと、予習、復習の時間が少ないことが挙げられる。日本語６で、授業がやや難しいと答えた学生は、履修の段階でこの下のレベルのクラスを勧めたが、他の授業との関係でこのクラスに参加となった。又、欠席も多く、自習していると認められない。

●　問題点

日本語５の学生は、２人とも在日歴は長く日本語の使用も不便はないと思われるが、地道に学習する姿勢が窺われない。大学生としては、論理的な文章を読む、話を正確に聞くなどの能力が必要とされるので自覚が必要だと思われる。日本語６で、授業がやや難しいと答えた学生は、何よりもレベルにあった学習が必要だと思われる。

●　改善の方策

次年度は、今期のほとんどの学生は次のステップとして中級に進むのであるが、内容が難しくなるので、予習・復習の時間を多く取って欲しい。中級の授業が難しいと思われる学生は、同じレベルの授業を再度受講し、自習を更に多くすることを勧める。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	日本語3
教員名	一林　久美子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00	4: 0.00
			3: 0.00	2: 50.00
			1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞
留学生として授業に参加できるように、日本語を理解し使用できることが全ての日本語の科目の目的となる。論理的に書かれた評論や科学の解説文などを理解の対象とする。又、日本社会で暮らして行くのであるから実社会で使われている日本の語彙や表現を充分に理解し使えることも必要となる。したがって、背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解できるようにしていく。
＜科目の内容＞
ある程度のまとまった物語、評論、生活文などが掲載されている教科書を中心に、語彙や文法を学習していく。文法の練習を通して定着を目指し、学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え話す。
＜授業形態＞
外国語の授業には予習が必須であるので、全員が予習をしてきていることを前提として授業を進めていく。教師の学習項目の説明を受けてから、正しい使い方を練習する。文章全体の意味や作者の意図を理解し、教科書の読解の問題を考える。語彙については、教科書だけでは足りないので、前の週に配布した語彙プリントの問題を自分で調べ答えを書いておくようにしている。授業では、答え合わせをし疑問点を解説する。学生に間違えたところを学習するよう促す。定着を図るために時々小テストをしている。
＜状況説明と集計結果の分析＞
この金曜日３限の授業では、日本語上級に入った学生を対象に授業を行っている。日本語能力のレベルに差があり、アンケートでは授業がやや易しいと答えた学生から難しいと答えた学生まで幅がある。日本語３の学生２人は、難しい、やや難しいと答えているが、学習時間は３時間と１時間未満と少ないように感じられる。日本語４の学生は、学習時間が４時間、３時間、２時間、１時間未満とばらつきがある。

●　問題点

次のステップに進む上で、日本語能力にやや差が見られるため、クラスを分けたほうがいいのではないかと思われる。又、後期の金曜日の授業は、学内演奏会に授業時間が取られる学生が多かった。公欠となっても実際の日本語の授業を受講していないため、学習効果は充分に上がらない。学内演奏会と重複する授業にならないように構成を組めないだろうか。

●　改善の方策

一部の学生は、火曜日４限のクラスの学生と合同で次のステップの授業を行う。そのクラスの授業内容や教科書については検討している。語学学習は、授業の２～３倍、それ以上の予習の時間が必要だと思われる。今は、インターネットなどでも文法の解説は得ることができる。翻訳を見てわかった気にならずに地道な学習を学生に要求する。
学内演奏会との授業の重複については、大学側で検討し善処していただきたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	日本語4
教員名	一林　久美子

職名	08. 講師

履修者数	10
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00	4: 25.00
			3: 25.00	2: 25.00
			1: 25.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞
留学生として授業に参加できるように、日本語を理解し使用できることが全ての日本語の科目の目的となる。論理的に書かれた評論や科学の解説文などを理解の対象とする。又、日本社会で暮らして行くのであるから実社会で使われている日本の語彙や表現を充分に理解し使えることも必要となる。したがって、背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解できるようにしていく。
＜科目の内容＞
ある程度のまとまった物語、評論、生活文などが掲載されている教科書を中心に、語彙や文法を学習していく。文法の練習を通して定着を目指し、学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え話す。
＜授業形態＞
外国語の授業には予習が必須であるので、全員が予習をしてきていることを前提として授業を進めていく。教師の学習項目の説明を受けてから、正しい使い方を練習する。文章全体の意味や作者の意図を理解し、教科書の読解の問題を考える。語彙については、教科書だけでは足りないので、前の週に配布した語彙プリントの問題を自分で調べ答えを書いておくようにしている。授業では、答え合わせをし疑問点を解説する。学生に間違えたところを学習するよう促す。定着を図るために時々小テストをしている。
＜状況説明と集計結果の分析＞
この金曜日３限の授業では、日本語上級に入った学生を対象に授業を行っている。日本語能力のレベルに差があり、アンケートでは授業がやや易しいと答えた学生から難しいと答えた学生まで幅がある。日本語３の学生２人は、難しい、やや難しいと答えているが、学習時間は３時間と１時間未満と少ないように感じられる。日本語４の学生は、学習時間が４時間、３時間、２時間、１時間未満とばらつきがある。

●　問題点

次のステップに進む上で、日本語能力にやや差が見られるため、クラスを分けたほうがいいのではないかと思われる。又、後期の金曜日の授業は、学内演奏会に授業時間が取られる学生が多かった。公欠となっても実際の日本語の授業を受講していないため、学習効果は充分に上がらない。学内演奏会と重複する授業にならないように構成を組めないだろうか。

●　改善の方策

一部の学生は、火曜日４限のクラスの学生と合同で次のステップの授業を行う。そのクラスの授業内容や教科書については検討している。語学学習は、授業の２～３倍、それ以上の予習の時間が必要だと思われる。今は、インターネットなどでも文法の解説は得ることができる。翻訳を見てわかった気にならずに地道な学習を学生に要求する。
学内演奏会との授業の重複については、大学側で検討し善処していただきたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	日本語2
教員名	一林　久美子

職名	08. 講師

履修者数	11
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.33	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	1.67	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 66.67 / 3: 66.67 / 2: 66.67 / 1: 66.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞
留学生として授業に参加できるように、日本語を理解し使用できることが全ての日本語の科目の目的となる。論理的に書かれた評論や科学の解説文などを理解の対象とする。又、日本社会で暮らして行くのであるから実社会で使われている日本の語彙や表現を充分に理解し使えることも必要となる。したがって、背景知識として日本の文化や慣習なども学び、必要な語彙や表現を理解できるようにしていく。
＜科目の内容＞
このクラスでは、ある程度のまとまった物語、生活文などが掲載されている教科書を中心に、語彙や文法を学習していく。文法の練習を通して定着を目指し、学習した日本語が実際の生活で使えるように、日本語で考え、話す。
＜授業形態＞
外国語の授業には予習が必須であるので、全員が予習をしてきていることを前提として授業を進めていく。教師の学習項目の説明を受けてから、正しい使い方を練習する。文章全体の意味や作者の意図を理解し、教科書の読解の問題を考える。語彙については、教科書だけでは足りないので、前の週に配布した語彙・文法プリントの問題を自分で調べ、答えを書いておくようにしている。授業では、答え合わせをし疑問点を解説する。学生に間違えたところを学習するよう促す。定着を図るために時々小テストをしている。
＜状況説明と集計結果の分析＞
この金曜日４限の授業では、日本語初級の学生を対象に授業を行っている。大学に入る留学生としては、留学試験合格、又は日本語能力試験で初級文法(N3)を終えた学生に入学して欲しい。初級文法も分からなくては、大学の授業にはついていけない。同国人から情報を取り入れ、週１回の日本語の授業では、０レベルの能力はコンマ以下の上達も望めず、留学した意味がない。アンケートでは、授業が難しいと答えた学生が多く自習時間も多いようで学習効果も上がっているようではあるが、授業の時間がもっと必要だと思われる。

●　問題点

次のステップに進む上で、日本語の語彙や文法の力が少ないことが懸念される。又、長い休みの間、日本語に触れずに過ごして能力が落ちてしまうことも考えられる。日本語学校や大学の予備科などであれば、長い休みはなく一日５～７時間の授業と自習で５時間くらいは日本語に接している。週一回の授業でこの差を埋めていくのは不可能だと思われる。

●　改善の方策

上級の学生は、各々興味の対象を見つけ語彙を増やしていくが、初級の学生にはサポートが必要である。この休みに、初級の学生にはネットを通じて週１回課題を出している。それでも、まだ初級文法は修了しない。他の大学では、上級程度で入学し、週２～３回の授業があるが、レポートや論文の作成には苦労している。留学しても成果も挙げられずに帰国するといった最悪の事態は、大学の評判を落としかねない。入学時の日本語能力を、初級修了程度(N3)とするよう、大学側に検討していただきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	日本事情ⅢB
教員名	高岸　美代子

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	3.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67, 4: 0.00, 3: 0.00, 2: 0.00, 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	日本事情ⅠB
教員名	高岸　美代子

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.75	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00, 4: 25.00, 3: 50.00, 2: 50.00, 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	日本事情ⅡB
教員名	高岸　美代子

職名	08. 講師

履修者数	9
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.67	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00, 4: 50.00, 3: 50.00, 2: 50.00, 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.33	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	日本事情ⅣB
教員名	高岸　美代子

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.83	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.67	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.83	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.83	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 83.33, 4: 33.33, 3: 0.00, 2: 0.00, 1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

東 邦 音 楽 短 期 大 学

ピ ア ノ

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	01. ピアノ
科目数	8

履修者数	14
回答者数	14

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	9	3	2	0	0	14	0
				64.3	21.4	14.3	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	7	7	0	0	0	14	0
				50.0	50.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	4	0	3	6	1	14	0
				28.6	0.0	21.4	42.9	7.1		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.79	11	3	0	0	0	14	0
				78.6	21.4	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.79	11	3	0	0	0	14	0
				78.6	21.4	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.93	13	1	0	0	0	14	0
				92.9	7.1	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.93	13	1	0	0	0	14	0
				92.9	7.1	0.0	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	14	0	0	0	0	14	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.07	4	7	3	0	0	14	0
				28.6	50.0	21.4	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.64	9	5	0	0	0	14	0
				64.3	35.7	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.93	13	1	0	0	0	14	0
				92.9	7.1	0.0	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	國谷　尊之

職名	02. 教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.75
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.50
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.25
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.75
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

2021年度の器楽専攻ピアノコースは1年次生１名を担当した。
附属高校から短大に進学した学生で、大学３年次編入も視野に入れてのレッスンであった。実技試験曲に加えて、バッハの作品を課題曲とするコンクールにも参加し本選に進出する等、意欲的な取組みを見せてくれた。楽曲に対する探究心が深まってきたのは嬉しいことであった。

●　問題点

履修者１名のためデータとしての意味はあまりなく、個人的な評価となる。ほとんどの項目で問題はなさそうであるが、さらに学修成果を積み上げていけるよう状況の把握と学修計画の立案を行っていく。

●　改善の方策

引き続き良い学修を継続できるよう、学修の計画と実行に努め、大学3年次編入にスムーズにつなぎたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	中島　裕紀

職名	02. 教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.75
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.50
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	4.25
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.75
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

● **現状の説明**

今年度1名の履修があり、その1名から回答を得た。
1名ということで、個人の特定がされない範囲のあくまで集計上の考察をしていく。
レッスンそのものに対する評価は非常に高く、また自由記述に「相談にも乗っていただいて・・」と書かれているように、学生とのコミュニケーションも良好であった。
１回のレッスンに対する練習時間は、1日あたりと勘違いしたようである。

● **問題点**

集計を見る限り、特に問題点は見当たらない。

● **改善の方策**

今後とも、ピアノのレッスンを通じて、学生が演奏する喜び、音楽の素晴らしさを感じられるように、そしてモチベーションを高く保てるように工夫をしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	大場　文惠

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.75
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.50
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.25
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.75
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

1年生1名より回答があった。この学生は高校在学中に体調を崩し、中退を余儀なくされた。その後、本学に入学した。その間、ピアノから離れた時期もあったらしく前期はなかなか取り戻せないでいたが、後期からは次第に音楽表現も柔軟性を増し、本人の持ち味が発揮されるようになった。しかしまだ内向的になることもあるので注意したい。

●　問題点

レッスンで学んだことが完全に身につかないことがある。

●　改善の方策

レッスン内で身につくよう時間をかけ、、本人が納得し達成できるまで繰り返し粘り強く指導する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科ピアノ
教員名	太田　幸子

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.27
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.45
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.36
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.00	4.73
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.73
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.91
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.91
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	3.91
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.55
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

学生は通学時間を要し、又身体も決して丈夫とは言えませんでした。
与えられた課題は、ゆっくりですが真面目に取り組んでおりました。

●　問題点

特に無し

●　改善の方策

意欲が持てるような選曲を心掛け、コミュニケーションを持ち、楽しいレッスンになるように指導したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科ピアノ
教員名	大場　文惠

職名	03. 特任教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.27
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.45
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	2.36
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.50	4.73
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.73
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.50	4.91
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.50	4.91
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	3.91
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.55
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

履修者2名より回答があった。2名とも２年生で声楽専攻である。それぞれが地道に努力を重ねてきたが、僅かながら温度差があり、それが「ある程度そう思う」という回答になった。しかしアンケートのコメントに「先生のおかげでピアノの実力が上がった」「丁寧に教えてくださった」とあり、このレッスンが成長の手助けになったと確信している。

●　問題点

ピアノに対して少し消極的な学生にどう向き合うか。

●　改善の方策

それぞれの学生のレベルや理解力、性格などを把握し、ピンポイントで具体的な指導を心がけるとともに、より興味が持てるよう広い角度から示唆する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科ピアノ
教員名	野田　説子

職名	07. 特任講師

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.20	4.27
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.45
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.20	2.36
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.73
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.73
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.91
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.91
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.60	3.91
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.40	4.55
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

● 現状の説明

短大が 副科１年3名、2年2名
出席は概ね良好で真面目に取り組んでいるが、課外での活動などで欠席の多い学生もいる。

● 問題点

時間を守れない学生に対して

● 改善の方策

学生とのコミュニケーションを取りながら、何が問題になっているのかを一緒に考えていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	中島　剛

職名	06. 専任講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.75
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.50
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.25
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.75
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

科目名	副科ピアノ
教員名	中島　剛

職名	06. 専任講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.27
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.45
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.50	2.36
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.50	4.73
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.73
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.91
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.91
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	3.91
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.55
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

声 楽

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	02. 声楽
科目数	5

履修者数	10
回答者数	9

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.67	7	1	1	0	0	9	0
				77.8	11.1	11.1	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.44	4	5	0	0	0	9	0
				44.4	55.6	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.33	0	0	5	2	2	9	0
				0.0	0.0	55.6	22.2	22.2		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	9	0	0	0	0	9	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	9	0	0	0	0	9	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	9	0	0	0	0	9	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.89	8	1	0	0	0	9	0
				88.9	11.1	0.0	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.89	8	1	0	0	0	9	0
				88.9	11.1	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.22	4	3	2	0	0	9	0
				44.4	33.3	22.2	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.67	6	3	0	0	0	9	0
				66.7	33.3	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	9	0	0	0	0	9	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	声楽
教員名	山崎　明美

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	3.00	4.57
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.43
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	2.43
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.86
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.86
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.00
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.57
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

短期大学において専攻声楽の学生1名を担当している。アンケートは、その1名から提出された。声楽実技は個人レッスンの形式で行われ、必要に応じて、伴奏者が同伴されると言う形式で進められる。専攻声楽におけるレッスン目的は、1、声楽技術の習得・呼吸法、レガート唱法の習得、なめらかな声区転換などの技術の追求、読譜能力を高めるなど、2、さらにそれらを向上させること。3、言葉への十分な取り組みを行うこと。語学としての基礎知識を習得する事はもちろん、正確で美しい発音、内容を正しく発音する。想像力を持って表現するなどである。また、基礎となるレパートリーの学習を2年間に学んでいくことを柱としている。実技は個人個人の特性があり、その特性をいかに伸ばし充実させていくかが要となる。前期、後期それぞれに実技試験があり、試験はそれぞれ課題が設けられている。レッスン時間は、学生との打ち合わせを年度初めに行い、他の授業に差し障りのない時間を確保する。　担当学生は2年生1名である。アンケートは本人の受講についての質問3項目、教員の授業の進め方についての質問5項目、達成度等を問う質問3項目よりなる。回答は積極的肯定:5、消極的肯定4、普通3、消極的否定2、積極的否定1で回答されている。アンケート結果はさんが3項目、4が1項目、残りは5点であった。該当学生は、すでにミュージカル等の活動を行っており、レッスンが欠けることもあった。できるだけ他に時間を取るようにしたが、欠席が多かった事は否めない。本人は非常に向上心があるので、到達目標を十分に達成できたとは考えていないことがうかがえる。

●　問題点

「このレッスンの出席は良好であった」がどちらとも言えない、「1回のレッスンのために練習時間が3時間(3に該当)「開講時に示された到達目標を十分に達成できた」がどちらとも言えないとなっている。

●　改善の方策

上記にも記述した通り、レッスンにおいて不真面目だった事はなく、常に積極的な取り組みを見せていた。学生とコミュニケーションをとりながら、レッスンを進めたことにより、そのような中にあっても、この学生は多くの知識を獲得し音楽的視野を広げ、意義のあるレッスンと感じていたようである。今後も真摯に取り組んでいきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	声楽
教員名	武藤　直美

職名	04. 准教授

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.57
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.43
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.43
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.86
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.86
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.00
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.75	4.57
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

声楽主専攻5名の受講者に対し、シラバスに掲示された授業計画にそってレッスンが行われていた。
45分の個人レッスンでは呼吸法、発声法、外国言語の発音等を細かく指導し歌唱させた。
当初は身体の使い方が十分理解できない受講生も
いたが、呼吸法や発声法を学ぶにつれ、身体の使い方が少しづつわかってきたようで、質問も積極的になり、曲の意味を音楽として表現しようとする意欲が出てきたと思料する。

●　問題点

今回の結果から判断すると、実技の指導方法については問題がないように思えるが、受講者全員が一回のレッスンに対し、平均3時間以下の練習しか行なっていなかったこと、また、開講時に示された到達目標を達成できたのかという設問に対し、どちらとも言えないという回答があったことについては次年度に向け改善が必要であると思料する。

●　改善の方策

次年度も授業計画に沿ったレッスンを基本とするが、学生のレベルに合わせた指導を心がける所存である。
アンケート集計結果「1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか」「開講時に示された到達目標を充分に達成できた」とい2つの設問に対する回答に対しての改善策であるが、外国言語に関するテキストの理解及び楽曲分析等の課題を与え、また、目標到達に向けた進捗状況の把握につとめる所存である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科声楽
教員名	外山　愛

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.50
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.00
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	5.00
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

副科声楽　（短2 ）2名　１回20分程度のレッスンを年間30回程度実施

・発声の他、主にミュージカル曲を中心にレッスンした。欠席は胃腸系が悪い時があり1、2回程度だったが　大変真面目で熱心な生徒であった。レッスン方向についても専門に役立つスキルを望んでいた為充分に話し合い選曲を行ったため大変有意義な1年となった。

・発声の他、イタリア歌曲、日本歌曲、ミュージカル、オペラをレッスンした。
高校時代はブラスをやっており、呼吸や発声の理解がありしっかり学んでいた。
レッスンは休むことなく、真面目に取り組んでいたので成果は大いにあった。

●　問題点

集計結果を見て意識のズレに関しては今年度は特に感じられなかった。
副科レッスンということもあり、レッスンに対してやや練習量については足りないような状況もあった。

●　改善の方策

生徒はレッスン中は大変真面目に取り組んでいたが、練習する時間がなかった場合は初見という生徒もいた。楽譜は読めるので支障はさほどなかったが、もう少し私自身も副科に対しても意識をさらに高めて指導する必要性はあるかと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	声楽
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.57
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.43
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	2.43
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.86
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.86
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.00
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.57
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

科目名	声楽
教員名	大島　洋子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.57
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.43
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	2.43
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.00	4.86
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.00	4.86
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.00
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.57
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

管弦打楽器

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	03. 管弦打楽器
科目数	6

履修者数	7
回答者数	7

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.43	4	2	1	0	0	7	0
				57.1	28.6	14.3	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	4	3	0	0	0	7	0
				57.1	42.9	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.43	1	0	1	4	1	7	0
				14.3	0.0	14.3	57.1	14.3		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.86	6	1	0	0	0	7	0
				85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	6	1	0	0	0	7	0
				85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.86	6	1	0	0	0	7	0
				85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.57	5	1	1	0	0	7	0
				71.4	14.3	14.3	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.86	6	1	0	0	0	7	0
				85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.86	1	4	2	0	0	7	0
				14.3	57.1	28.6	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.86	6	1	0	0	0	7	0
				85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	7	0	0	0	0	7	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	器楽専攻管弦打コース
教員名	中村　明子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.50
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.00
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

2021年度は専攻生1名を担当。
予想よりずっと上達が早く、充実したレッスンが出来ました。

●　問題点

レッスンの度に前回の問題点をキチンとクリアして来るので、少しずつレベルを上げて行ったが、Ⅲ-aが少し低い所から、少し要求が高いのかなと判明。

●　改善の方策

過剰にレベルを上げると達成感が得られず、やる気が下がってしまうので、そこは気を付けて観察して、タイムリーな指導を目指したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科管弦打
教員名	小原　裕樹

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.40
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.40
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	1.80
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.80
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.80
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.80
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.00	4.40
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.80
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	3.60
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.80
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業の目的は基礎奏法、応用技術の習得を中心にレッスン行い、幅広い音楽表現を出来るように導くことである。授業形態は個人レッスンで1年次1名で、レッスン時間は20分、開講曜日は毎週金曜日である。集計結果を見るとIcが極端に低い結果で、他は特筆すべき事項は見当たらない

●　問題点

この集計結果からは教員と学生間の意識のズレはあまり感じられないが、実際にレッスンの成果が出ているかは常に注意深く見ていかなければならないであろう。Icは平均練習時間の問いだが、副科で2時間というのは十分すぎる時間であり、設問の設定上低い結果だが、これは全く問題ないどころか、むしろ非常に良く練習していたという結果である。

●　改善の方策

この学生は私のレッスンに大変興味を示し副科であるにもかかわらず多くの練習をしてレッスンに臨み、それに見合った成果をあげていた。今後も一人一人が興味を持ち個人に見合ったきめ細かい指導をして行く。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	器楽専攻管弦打コース
教員名	松尾　賢一郎

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.50
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	4.00
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

科目名	副科管弦打
教員名	田中　洪至

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	3.00	4.40
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.40
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	1.80
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.80
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.80
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.80
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.40
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.80
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	3.60
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.80
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科管弦打
教員名	松尾　賢一郎

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.40
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.40
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	1.80
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.00	4.80
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.80
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.00	4.80
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	3.00	4.40
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.00	4.80
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	3.60
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.80
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

科目名	副科管弦打
教員名	村越　麻希子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.40
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.40
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.50	1.80
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.80
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.80
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.80
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.40
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.80
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	3.60
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.80
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

電子オルガン

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	05. 電子ｵﾙｶﾞﾝ
科目数	1

履修者数	2
回答者数	2

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	1	1	0	0	0	2	0
				50.0	50.0	0.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	0	1	1	0	0	2	0
				0.0	50.0	50.0	0.0	0.0		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.50	1	1	0	0	0	2	0
				50.0	50.0	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	0	2	0	0	0	2	0
				0.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	電子オルガン
教員名	長野　洋二

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.50
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	3.50
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.50	4.50
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.00
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

ピアノ指導者

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	06. ﾋﾟｱﾉ指導者
科目数	4

履修者数	4
回答者数	4

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	3	0	1	0	0	4	0
				75.0	0.0	25.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	2	2	0	0	0	4	0
				50.0	50.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.75	2	1	0	0	1	4	0
				50.0	25.0	0.0	0.0	25.0		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4	0	0	0	0	4	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4	0	0	0	0	4	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4	0	0	0	0	4	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4	0	0	0	0	4	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4	0	0	0	0	4	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	1	2	1	0	0	4	0
				25.0	50.0	25.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.75	3	1	0	0	0	4	0
				75.0	25.0	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4	0	0	0	0	4	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース
教員名	國谷　尊之

職名	02. 教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.67
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.33
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

2021年度の器楽専攻ピアノ指導者コースは、1年次生1名のピアノ実技レッスンを担当した。ピアノ講師の指導実績のある社会人学生であり、非常に熱心に知識と技能の向上に取り組んでいる。ピアノ演奏技術の向上とその研究を、さらにピアノ指導に生かしていくことも念頭に置き、練習方法、メソードなどについて会話の時間を多くとって進めてきた。

●　問題点

履修者数が1名のみのため、個人的な評価となる。大きな問題は見られないが、引き続きニーズを良く把握するために会話をしていく必要がある。

●　改善の方策

引き続き、社会人学生としてのニーズの把握に努め、成果を積み上げて行けるよう学修計画を実行していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース
教員名	大場　文憲

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	4.67
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.33
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

1年生1名より回答があった。この学生は30代で2人の小学生を持つ母親である。たいへん強い意志と集中力を持ってピアノに取り組み、その吸収力は驚くほどである。前期はまだ手探りのような印象があったが、後期からはペースを掴み、試験に向けてレベルアップしていった。成績優秀者としてソロの定期演奏会の出演者に選ばれたことが、さらに励みとなっている。「さまざまな角度からご指導頂けてよかった」とのコメントがあった。

●　問題点

できるだけ効率よく多くの時間をかけなくても学べるような工夫が必要

●　改善の方策

ピンポイントで具体的な指導を心掛けるとともに、テクニックについても基本のエクササイズを行う。またさらに興味が持てるよう、広い角度から示唆していく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	副科ピアノ
教員名	中島　裕紀

職名	02. 教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	3.00	4.27
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.45
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.00	2.36
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.73
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.73
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.91
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.91
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	3.91
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.55
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

短期大学の副科ピアノは、1名の履修で、1名からの回答を得た。

副科ピアノでは、単にピアノの演奏技術の向上を求めるだけではなく、ピアノという楽器の演奏を通じて、音楽的な要素を総合的・分析的に捉えたり、音楽全体の構造の把握に努めたりすることによって、専門分野を含めた音楽表現に役立てていく目的を持っている。

とても意欲的な学生だったため、様々な音楽様式の作品に触れさせながら、表現方法を研究させて行ったが、そのモチベーションを最後まで保つことができ、成果があった。そのことを示すものとして、「このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか」という設問に、「強くそう思う」という自己評価をしているところに表れている。

●　問題点

レッスンに対する評価は非常に高く、集計から特に問題点は見当たらない。

１回のレッスンに対する練習時間は、1日あたりと勘違いしていたようである。

自己評価で、出席状況が低めの評価をしているが、数回の欠席は公欠扱いのもので、問題はない。

●　改善の方策

今後とも、副科ピアノに対して学生が楽しく学修をしながら、その中で音楽の大切な表現を身につけ、広く役立てられるように工夫をしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース
教員名	中島　剛

職名	06. 専任講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.67
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.33
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

音楽教養実技

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	07. 音楽教養実技
科目数	3

履修者数	3
回答者数	3

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	3	0	0	0	0	3	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	3	0	0	0	0	3	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.67	1	1	0	1	0	3	0
				33.3	33.3	0.0	33.3	0.0		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	3	0	0	0	0	3	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	3	0	0	0	0	3	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	3	0	0	0	0	3	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	3	0	0	0	0	3	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	3	0	0	0	0	3	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	2	0	1	0	0	3	0
				66.7	0.0	33.3	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	3	0	0	0	0	3	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	3	0	0	0	0	3	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	音楽教養
教員名	佐藤　泰弘

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.67
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.33
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

元々音楽教養は、プロの演奏家を目指す専門性を目指すためというより、趣味の楽しみとして教え導くレッスンが多い。しかしながら、今年度は学生本人が自発的にコンクールに挑むこととなったため、昨年度よりもかなり真剣な勉強をする様子が見受けられた。また昨年度よりも学生が予習にかなり時間をかけて準備すらようになってきた。それゆえ教える側としても、一段ハードルを高くして、ドラマトゥルギーにまで踏み込んだ音楽表現を追求していく教育を展開していった。

●　問題点

昨年度より学生が予習にかなり時間をかけてくれて、真剣な勉強の姿勢を見せてもらっても、クラシック音楽の作品において、その様式感に軽音楽的な音楽表現が混入して歌唱スタイルが時々崩れてしまう欠点は依然として解決出来なかった。

●　改善の方策

この歌唱スタイルの様式感の崩れは、学生1人では解決できない、所謂、長年染み付いてしまった癖である。この癖を改善するため、教師の側から積極的な修正を施し、基礎的なレガート唱法やフレージングの改善に立ち返ることが、今後のレッスンで必要不可欠となる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	音楽教養
教員名	山崎　明美

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	3.67
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.33
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

短期大学において音楽教養1年の学生1名を担当している。アンケートは、その1名から提出された。音楽教養においては、声楽の基本的な技術習得及び専門へとつながる教養を身に付ける事を旨としている。個人レッスンの形式で行われ、必要に応じて、伴奏者が同伴されると言う形式で進められる。レッスン目的は、1、声楽技術の習得・呼吸法、レガート唱法の習得、なめらかな声区転換などの技術の追求、読譜能力を高めるなど、2、さらにそれらを向上させること。3、言葉への十分な取り組みを行うこと。語学としての基礎知識を習得する事はもちろん、正確で美しい発音、内容を正しく発音する。実技は個人個人の特性があり、その特性をいかに伸ばし充実させていくかが要となる。後期に実技試験(授業の評価を下とする)がある。レッスン時間は、学生との打ち合わせを年度初めに行い、他の授業に差し障りのない時間を確保する。 アンケートは本人の受講についての質問3項目、教員の授業の進め方についての質問5項目、達成度等を問う質問3項目よりなる。回答は積極的肯定:5、消極的肯定4、普通3、消極的否定2、積極的否定1で回答されている。アンケート結果は4が1項目、3が1項目、残りは5であった。

●　問題点

4となった1項目は「1回のレッスンのために平均どのぐらい練習をしましたか」と言う問いに対するものである。練習時間4時間(4)とあり、練習時間としては充分と考える。3となった項目は「開講時に示された到達目標を十分に達成できた。」であるがどちらとも言えないと言う回答である。この点が問題点であると抽出できる。

●　改善の方策

大東学生であるが、社会人として入学し、仕事の傍ら勉学を始めている。十分な実力を持ち、音楽大学で勉強する志を高く持っている。仕事の都合で思うように練習をできないこともあり、到達目標が十分に達成されたとは考えられなかったのであろう。この学生とは十分にコミニケーションをとり、その後声楽専攻に転専攻をした。今後もしっかりサポートしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

科目名	音楽教養
教員名	岩見　真佐子

職名	06. 専任講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	3.67
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.33
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

本年度の授業シラバスに基づき、対面レッスンの形態で年間30回の個人レッスンで授業を実施開講。本年度は留学生の社会人音楽教養声楽専攻のため、まずコミュニケーション、会話による共有に制限が多く、例年の1/4程度の授業実施、授業目的達成内容と思われる。単位の認定に際しては、レッスン内評価であることを最大限生かした形で、本人の精神的な負担にならないよう配慮したものになった。自習力と学びの連動力を伴う専攻実技であることを鑑みて、他の授業での学びの拡充も期待されるが、次年度対面での専攻内審査までの履修内容に興味を失わずにレッスン継続することができるか、授業レッスンの内容と成果の実感、にも理解力を求めてゆくこととなる。
実際には、自習が困難な学生でもありアンケートにはその結果が顕著に表れている。

●　問題点

声楽のレッスンとしては声楽の発声呼吸を土台にした基礎指導、ソルフェージュ内容の拡充が中心であり、曲を歌うという声楽ならではの専攻レッスンまでどのようなステップで実践できるか見極めは困難な状況。卒業に向けた1年ではあるが、学ぶ意味、声楽を通じた音楽の知識を深められる環境を準備し、目には見えない部分で精神的な成長、学びと音楽的な理解力の成長を促すことが重要と思われる。

●　改善の方策

レッスン課題の設定：コンコーネ50番の継続（母音唱、階名唱、拍リズムの理解ほか）
イタリア古典歌曲集：Nina、Nel cor non mi sento、Caro mio ben　からの選曲
指導スケジュール：発声確認・拡充　4月選曲・譜読み、7月イタリア原語朗読、9月発声基礎、10月原語歌唱、12月伴奏つき暗譜練習、1月暗譜確認・試験審査

音楽専門教育科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	08. 音楽専門教育科目
科目数	24

履修者数	166
回答者数	107

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%) 5	4	3	2	1	有効回答数	無効回答数
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.57	21	44	24	6	10	105	2
				20.0	41.9	22.9	5.7	9.5		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.58	71	27	7	1	0	106	1
				67.0	25.5	6.6	0.9	0.0		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.48	61	38	6	2	0	107	0
				57.0	35.5	5.6	1.9	0.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.55	5	1	9	17	74	106	1
				4.7	0.9	8.5	16.0	69.8		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	53	28	22	1	1	105	2
				50.5	26.7	21.0	1.0	1.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.08	9	23	70	0	4	106	1
				8.5	21.7	66.0	0.0	3.8		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.28	58	26	17	4	1	106	1
				54.7	24.5	16.0	3.8	0.9		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.47	68	23	12	3	0	106	1
				64.2	21.7	11.3	2.8	0.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.32	58	29	15	3	1	106	1
				54.7	27.4	14.2	2.8	0.9		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.55	75	16	13	2	0	106	1
				70.8	15.1	12.3	1.9	0.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.56	77	12	15	0	1	105	2
				73.3	11.4	14.3	0.0	1.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.61	79	14	12	1	0	106	1
				74.5	13.2	11.3	0.9	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.23	40	52	10	3	0	105	2
				38.1	49.5	9.5	2.9	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.52	68	28	6	2	1	105	2
				64.8	26.7	5.7	1.9	1.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	–	88	47	30	18	11	106	1
				83.0	44.3	28.3	17.0	10.4		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.73	63	10	4	1	0	78	29
				80.8	12.8	5.1	1.3	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ピアノ指導法2
教員名	國谷　尊之

職名	02. 教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.67	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 66.67 / 2: 33.33 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

この科目はピアノ指導者コース必修科目であり、かつピアノ指導者コースのみ履修可能な科目である。2021年度の履修者は3名であった。うち、社会人学生が2名、うち1名は現役の音楽指導者である。全く背景の異なる3名が同じ講義を受講し、しかもアクティブラーニングの要素が多い科目であるので、果たしてうまく進行するか心配もしたが、それは全く杞憂であった。3名がお互いの個性を尊重し合いながら、授業内容を十分に理解した上でそれぞれの成長に繋げてくれた。このことは、学年末レポートの質の高さからもはっきりと確認することができた。アンケートの結果からは、この授業を学生たちが肯定的にとらえていると考えてよいと思う。

●　問題点

この授業の難易度を3名とも難しいと感じていることがアンケートから明らかになった。しかし、前述のように各学生が授業内容を十分に理解し成果を得たとは思う。時間をかけて予習・復習をすることが特に重要な科目であるので、それを学生それぞれが有効に行えるよう、さらに内容、分量を吟味していく必要があると考えられる。

●　改善の方策

事前学習および復習の具体的な課題について、その量も含めて検討し、必要に応じて補助資料を用意する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	アンサンブル(ピアノ)ＩＢ
教員名	小林　律子

職名	02. 教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 33.33 / 3: 33.33 / 2: 0.00 / 1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

2021年度、アンサンブルＩBは3名の学生が受講した。内訳はピアノコース、ピアノ指導者コース、エレクトーン専攻各1名ずつである。3名とも前期から引き続きの受講でありチームワークも良く大変良い雰囲気の中、授業を進めることができた。3名のクラスはもちろん少数ではあるが、その分一人一人に充分な時間をかけることが可能となり、内容の濃い授業を展開することができたと思う。受講生たちも皆意欲的な姿勢を見せ、予習復習共に毎回きちんとこなしていた。その為大変スムーズな授業進行が可能となった。
授業では前期と同様4手連弾の作品を学修した。多数に及ぶ名曲から数曲を選択し、作曲家について学び、作品について考え、演奏に必要な技術を習得し練習を重ね、授業最終日に50周年記念館ホールにて録音を行い、後期の課程を修了した。まとめである録音まで学生それぞれに経緯があり、録音当日の緊張感も含め、皆充実した達成感が得られたのではないかと強く感じる。

●　問題点

アンケート集計結果を見るところ、大きな問題点は感じられない。大方納得できる結果である。

●　改善の方策

特にない。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	楽器の特性と機能B
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	7
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.25	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.25	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.25	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
100.00	50.00	50.00	0.00	0.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業は鍵盤楽器を含む、全ての楽器について学習する授業である。この授業の特色は担当教員が一人で全ての楽器について解説するのではなく、毎週、各楽器の講師を招いて演奏を交えながら講義を行う。学生は毎週教員が代わるので飽きる事なく授業に参加している。

●　問題点

アンケート結果を見る限り学生の評価は良いものと考えられる。授業の進め方、成績の出し方等にも問題はないと思われる。今期は11名程の教員が関わっているため、アンケート結果は授業全体の評価となる。
設問Ⅱ－aに関しては、シラバスにも明記してあるが、シラバス作成時点で各教員のスケジュール調整が出来ないため、必ずしもシラバスに掲載した楽器順には授業が進められない。
今年度休講はなかったが、設問Ⅲ－h、補講に関して、授業の特性上、実施するのが困難であるため、担当教員が学校業務で授業が出来ない場合は、担当講師に授業を任せる事がある。
担当教員が授業毎に代わるため試験を実施出来ないので、評価はレポート100%となる。全ての楽器についてレポートを提出させるためレポートの分量が多く、毎年、提出期限に間に合わない学生や、提出出来ない学生も出てしまう。今年度は月が終わる毎にレポートの整理をするよう指導を徹底した。各教員のスケジュール調整が困難である。非常勤教員に授業を依頼しているため、オーケストラ等のスケジュールによっては解説出来ない楽器が出てしまう。演奏研究員使用の許可を取り、担当講師が授業を出来ない場合は、担当講師に指導を受けた演奏研究員に授業を担当させた。

●　改善の方策

レポートをしっかり提出させるよう指導を徹底したい。
各教員のスケジュール調整はなるべく早い時期に行うよう努力する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ソルフェージュ2a
教員名	横山　裕美子

職名	08. 講師

履修者数	9
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.83	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.83	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.17	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 83.33 / 4: 33.33 / 3: 0.00 / 2: 33.33 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

● 現状の説明

1年次の必修授業の上のクラスである。聴音・新曲視唱・新曲リズム・青本の暗譜唱をバランスよく勉強している。上のクラスであっても、その中では実力の差があるため、予習・復習の大切さを強調し続けたところ、指示通り予習・復習を行った結果、授業のたびに驚くほど力を伸ばした学生も現れ、前向きな雰囲気の中で授業を進めることができた。

● 問題点

特にないと考える。

● 改善の方策

引き続き、授業を工夫していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	合唱ＩＢ
教員名	荻久保　和明

職名	03. 特任教授

履修者数	12
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.78	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.44	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.56	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.11	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.13	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.89	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.11	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.11	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.44	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.78	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.56	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 44.44 / 4: 55.56 / 3: 22.22 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	合唱ⅡＢ
教員名	荻久保　和明

職名	03. 特任教授

履修者数	8
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.25	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.20	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.25	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.25	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 25.00 / 2: 25.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	和声学2
教員名	荻久保　和明

職名	03. 特任教授

履修者数	13
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.60	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.90	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.30	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.70	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.20	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.40	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.70	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.10	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 90.00 / 4: 30.00 / 3: 20.00 / 2: 20.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	サウンドクリエーションB
教員名	城之内　ミサ

職名	03. 特任教授

履修者数	12
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.14	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.57	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.57	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.43	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.57	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.14	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.57	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.43	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.57	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.14	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.43	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.29	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.57	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.71 / 4: 71.43 / 3: 71.43 / 2: 28.57 / 1: 14.29	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	ウインドオーケストラＩＢ
教員名	小林　恵子

職名	05. 特任准教授

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 50.00 / 3: 50.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	アンサンブル(管弦打)ＩＢ
教員名	澤　敦

職名	05. 特任准教授

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.25	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.75	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 75.00 / 3: 25.00 / 2: 25.00 / 1: 75.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	アンサンブル(管弦打)ⅡB
教員名	澤　敦

職名	05. 特任准教授

履修者数	6
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.75	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00, 4: 0.00, 3: 0.00, 2: 0.00, 1: 25.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	レッスンマネージメントB
教員名	鴨田　友梨香

職名	07. 特任講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00, 4: 75.00, 3: 0.00, 2: 25.00, 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	音楽の基礎理論B
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	15
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.57	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.71	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.29	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.43	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.14	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.14	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.57	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.71	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.29	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.29	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.29	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00, 4: 14.29, 3: 0.00, 2: 14.29, 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	音楽教養基礎講座〔楽典〕ＩＢ
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	3.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00, 4: 0.00, 3: 100.00, 2: 0.00, 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	－	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	和声学4
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	9
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.50	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.50	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.75	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.75	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.25	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.25	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.25	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.25	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00, 4: 25.00, 3: 0.00, 2: 25.00, 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.33	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	音楽教養基礎講座〔ソルフェージュ〕ＩＢ
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00, 4: 0.00, 3: 50.00, 2: 0.00, 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	－	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	音楽教養基礎講座〔ソルフェージュ〕ⅡB
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	2.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.50	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00, 4: 50.00, 3: 0.00, 2: 0.00, 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	音楽教養基礎講座〔楽典〕ⅡB
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.50	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	2.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.50	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00, 4: 0.00, 3: 50.00, 2: 0.00, 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	電子オルガン即興演奏ＩＢ
教員名	長野　洋二

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.50	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 50.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	電子オルガン即興演奏ⅡＢ
教員名	長野　洋二

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 0.00 / 2: 50.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	シンギングポップスB
教員名	仁科　薫理

職名	08. 講師

履修者数	16
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.88	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.13	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.75	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.38	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.38	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.63	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.13	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 62.50 / 4: 75.00 / 3: 37.50 / 2: 12.50 / 1: 12.50	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	リトミックＩＢ
教員名	藤原　優里

職名	08. 講師

履修者数	9
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.75	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 50.00 / 3: 25.00 / 2: 0.00 / 1: 25.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	リトミックⅡB
教員名	藤原　優里

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 66.67 / 2: 100.00 / 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	音楽史B
教員名	山下　暁子

職名	08. 講師

履修者数	15
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.89	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.89	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.11	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.11	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.89	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.89	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.56	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.78	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.89	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.78	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.44	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 33.33 / 3: 22.22 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

基礎教育科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	09. 基礎教育科目
科目数	10

履修者数	89
回答者数	50

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%) 5	4	3	2	1	有効回答数	無効回答数
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.49	8	20	14	2	5	49	1
				16.3	40.8	28.6	4.1	10.2		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.40	25	20	5	0	0	50	0
				50.0	40.0	10.0	0.0	0.0		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.12	17	24	6	1	1	49	1
				34.7	49.0	12.2	2.0	2.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	0	0	1	8	41	50	0
				0.0	0.0	2.0	16.0	82.0		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.44	28	16	6	0	0	50	0
				56.0	32.0	12.0	0.0	0.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.16	5	6	36	1	2	50	0
				10.0	12.0	72.0	2.0	4.0		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.06	16	24	8	1	1	50	0
				32.0	48.0	16.0	2.0	2.0		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.46	30	13	7	0	0	50	0
				60.0	26.0	14.0	0.0	0.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.38	25	19	6	0	0	50	0
				50.0	38.0	12.0	0.0	0.0		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.30	25	15	10	0	0	50	0
				50.0	30.0	20.0	0.0	0.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.64	37	8	5	0	0	50	0
				74.0	16.0	10.0	0.0	0.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.46	27	19	4	0	0	50	0
				54.0	38.0	8.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.16	14	30	6	0	0	50	0
				28.0	60.0	12.0	0.0	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.08	16	25	7	1	1	50	0
				32.0	50.0	14.0	2.0	2.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	–	30	19	16	7	16	50	0
				60.0	38.0	32.0	14.0	32.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.39	22	18	3	1	0	44	6
				50.0	40.9	6.8	2.3	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション2
教員名	高橋　幸雄

職名	03. 特任教授

履修者数	8
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.40	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.40	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.20	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.80	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 40.00 / 3: 60.00 / 2: 20.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

ドイツ語圏の多様性に触れる為に、ビデオ映像を用いて最新のドイツ、オーストリア、スイスの文化、歴史、社会を紹介した。特に日本の中のドイツ、ドイツの中の日本と言うコンセプトでドイツ語への導入を行った。文法項目を一つ一つ習得しながら、話すことを重点に練習を重ねた。日常生活の話題を取り上げ、習得した文法を用いて簡単な文を作る練習を通して表現力の向上を目指した。

●　問題点

多様なドイツ語圏の現状を理解してもらう為、毎回様々な素材を用意したが、説明が多くなり学生のアクティブな参加が阻害されたきらいがある。素材の厳選と各回の学習項目の明確化が必要である。

●　改善の方策

毎回の学習の要点と情報を分け、理解の平易化を図る。その為、各回別々のレジュメを作成することにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	ひとを読み解く科学B
教員名	三室戸　元光

職名	04. 准教授

履修者数	8
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.17	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.83	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 50.00 / 3: 50.00 / 2: 16.67 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

『ひと』とは何か、『ひとの性格（＝キャラクター又はパーソナリティ）』とは何か、を理解することは、人間心理の中核を理解しようとすることであり、「ひとを理解しようとする思いや行動」は、心理学を学ぶ人間にとって非常に身近な行動です。ただ、単なる「占い」とは異なるので、科学的な根拠（＝心理学的な知識や考え方）が必要となります。
この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに「自分自身」を多面的に理解し、「自分自身」や「ひと」を多面的に理解する方法として、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。
心理学というひとの内面を読み解く知識や道具を使って、自分自身の心理学的な理解を深め、「自分自身の内面に関わる問題を、自分でサポートできるようになる」ことが、この科目の目標です。自分の内面（＝キャラクターやパーソナリティ）に対して、自身に起きた事実やそれに対する心理的な反応（感情、願望を含むあらゆる行動）への理解を深めることによって、『ひとがどんなパーソナリティをもち、どんな心理的な課題をどのように解消していくか』を自分で考察できるようにしていきます。
授業は、教員による解説形式で行います。テーマによっては、行動実習やグループワークを行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝えたり聴いたりする・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。
受講者は8名（回答6名）と小規模で、社会人学生と現役学生の混在である。ターゲットの年齢差やニーズの違いが大きく、どうしても現役学生をターゲットにせざるをえない。もともと前期から受講している学生がほとんどで、他の全科目平均と比較して、当該科目の平均値が高い。

●　問題点

全体平均点と比較して当該科目に有意な差が認められる項目としては、Ⅰdの予習復習時間の少なさ（1時間未満）とⅡcの成績評価の基準がやや不明確だということが挙げられる。受講生が少ないということはコミュニケーションワークが展開しづらく、できたとしてもメンバーがいつも同じで般化できないということが問題点となる。

●　改善の方策

授業の難易度や授業の進め方などは適切と感じている学生がほとんどなので、Ⅲcの「新しい知識・技能」を求める方向に転じることができるかどうかが課題であると思われる。学生のニーズとしてはコミュニケーションワークへの志向性が高いなかで、どの程度まで知識・技能を高めることができるかを課題としておきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	東邦スタンダードⅡB
教員名	益田　善太

職名	06. 専任講師

履修者数	16
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.78	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	3.89	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.89	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.56	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.89	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.89	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.22	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.11	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.22	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 11.11	4: 55.56
			3: 22.22	2: 22.22
			1: 66.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.56	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

社会で働くことの意味、社会に中で各自が果たしうる役割、コミュニケーション力など社会人に必要な基礎力(社会人基礎力)を身につける事を目的に、音楽を通して得た得たスキルをどのように活かしていくかを考える授業である。短大2年次は社会に出る事が目前にせまっている為、社会の仕組みや労働、リテラシーなど多岐にわたって見地を広めていく事が目的である。

短大の2年間という短い期間の中で、短大に慣れたばかりの2年目。また「社会人とは？」というまだピンと来ない事について考えていく事と、専門的に学びたい音楽とは関係性が見えにくい内容に戸惑うことも多いように感じられる。

社会に出てしまっている私達にとっては大切に感じる事も、やりたい事と格闘している真っ只中の学生にとっては積極的に取り組みたい授業であるかと言うと必ずしもそうとは言い難いのかもしれない。

ただ、インターンシップなどを経験し社会との接点が増えつつある学生にとっては、少しずつ関心が増していくように感じる。

アンケート結果にもそれが現れていて、学生個々の置かれた環境によって捉え方が様々に感じる。

成人年齢が18歳になり、社会のあり方を理解する必要が増していく中で、この授業の重要性を含めて学生に認識させる努力を続けなくてはならない。

●　問題点

専門外の事に興味が沸かない学生も一定数存在する。そういった学生の興味や意欲をどのように引き出すか、授業内容や各自の生活への関連付けなどを考え続ける必要を感じる。

●　改善の方策

短大の1年次は良いと思うが、2年次は大学のように専門講師を配置する事も含めて、授業内容をより深めていく事を考慮する事も必要かと思われる。私自身も広い視野と見地を得ていく努力を続けていかなくてはならない。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	東邦スタンダードＩＢ
教員名	野田　説子

職名	07. 特任講師

履修者数	11
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.75	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.75	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.75	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.25	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
75.00	25.00	0.00	25.00	75.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

● 現状の説明

7名の学生のうち、1名は病気で退学。もう1名は他大学進学の為退学。
他の5名は概ね出席は良好で真面目である。

● 問題点

朝1限の授業開始までに席につけない学生への対応

● 改善の方策

時間の大切さの伝え方

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	健康と音楽B
教員名	佐々木　和佳

職名	08. 講師

履修者数	11
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.86	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.29	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.14	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.29	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.57	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.71	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.29	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.86	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.43	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.14	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.29	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 57.14 / 4: 71.43 / 3: 42.86 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.43	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

様々な障害・疾患の方への音楽療法や音楽で関わる際の目的・音楽の使い方について深く理解することを目的とし、音楽療法の歴史、各領域（高齢者、ホスピス・緩和ケア、精神科、障害児・者）における音楽療法について紹介。授業は講義形式で行い、より理解を深めるためにDVD等の視聴覚教材を使用。受講者数11名。開講は水曜日の2時限目。受講者は現役生と社会人入学生と年齢の幅が広い。

Ⅰ-a“この授業を履修するにあたってシラバスを活用したか”について、「強くそう思う」14.3%、「ある程度そう思う」57.1%、「どちらとも言えない」28.6%だった。Ⅰ-d“1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしたか”について、「3時間」14.3%、「1時間未満」85.7%だった。Ⅱ-c“開講時に成績評価の基準が明確に示されていたか”について「強くそう思う」42.9%、「ある程度そう思う」42.9%、「どちらとも言えない」14.3%だった。Ⅱ-f“授業内外における質問や相談の対応は適切だったか”について「強くそう思う」57.1%、「ある程度そう思う」28.6%、「どちらとも言えない」14.3%だった。Ⅲ-c“この授業を履修して自分のためになったこと”では、「新しい知識・技能」57.1%、「新しいものの見方」71.4%、「関連分野の学習意欲」42.9%だった。

●　問題点

毎回の授業内で予習・復習を行うにあたりシラバスを活用するよう促してきたが、全員には周知されていなかったことがわかった。成績評価の基準について初回の講義時や普段の授業内等で告知してきたが、明確に示されていたと言い切れない学生がいたことがわかった。

●　改善の方策

シラバスの活用について、予習・復習等で活用しやすいように作成する。また、授業内でのシラバスを用いての解説は今後も継続する。

成績評価の基準については、明確な基準をシラバスに記載するとともに、授業内でも告知し不明な点の質問を受ける等を行っていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	社会福祉概論(老人・児童福祉を含む)B
教員名	佐々木　和佳

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.67	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.67	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
33.33	33.33	33.33	0.00	0.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

社会福祉に関する基本的な知識を身につけるとともに、我が国や諸外国の福祉の現状を通して、身近な出来事として考えることを目的とし、様々な施策や社会福祉に携わる人たちの仕事内容等を紹介。授業は講義形式で行い、より理解を深めるためにDVD等の視聴覚教材を使用。履修者数6名だったが常に出席をしていたのは3名。開講は水曜日の3時限目。受講者は現役生と社会人入学生と年齢の幅が広い。

Ⅰ-a“この授業を履修するにあたって、シラバスを活用したか”について「ある程度そう思う」66.7%、「どちらとも言えない」33.3%だった。Ⅰ-c“熱意を持って積極的に取り組んだか”について、「強くそう思う」33.3%、「ある程度そう思う」66.7%だった。Ⅱ-b“授業の難易度”について、「難しい」33.3%、「適切」66.7%だった。Ⅱ-c“開講時に成績評価の基準が明確に示されていたか”について、「ある程度そう思う」66.7%、「どちらとも言えない」33.3%だった。Ⅱ-e“教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であったか”について、「強くそう思う、ある程度そう思う」66.6%、「どちらとも言えない」33.3%だった。Ⅲ-b“授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだったか”について「ある程度そう思う」66.7%、「どちらとも言えない」33.3%だった。Ⅲ-c“この授業を履修して自分のためになったことは何か”について、「新しい知識・技能」33.3%、「新しいものの見方」33.3%、「関連分野の学習意欲」33.3%、「問題発見・解決能力」0%、「コミュニケーション能力向上」0%だった。

●　問題点

毎回の授業内でシラバスを用いて予習・復習の解説を行い、シラバスを活用してもらえるように促していたが周知されていなかったことがわかった。
教科書や資料からの内容理解、学習意欲の刺激についても改善の余地があることがわかった。

●　改善の方策

シラバスの活用については、シラバスを活用してもらえるように予習・復習等を作成する。また、授業内でのシラバスを用いた予習・復習等の解説は今後も行っていく。
教科書を中心に効果的に内容理解が出来るような資料の提示や解説を行うとともに、興味を持ってもらえるような身近な事柄等も取り入れ、学習意欲を刺激していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	コンピューター演習B
教員名	湯浅　恭子

職名	08. 講師

履修者数	9
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.80	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.80	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.80	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
80.00	0.00	40.00	20.00	0.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.50

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞

本科目では、主に文書作成・表作成などの一般的なOfficeソフトウエア、楽譜作成ソフトウェアでのデータ作成を通じて、ファイルの取り扱いや情報の整理について学び、ICT機器の基本的な操作方法を習得する。また、課題解決に必要となる情報検索やネットワークにおけるモラル・著作権について理解を深める。コンピュータを「自分のアイディアや伝えたいことを形にするための道具」として効果的に活用し、音楽活動やキャリアにつなげられるよう、スキルアップを図る。

＜内容＞

コンピュータの基本的な構造、ハードウエア・ソフトウエアについての知識の習得、インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現況の概観。Windowsコンピュータを使ったコンピュータリテラシーの向上。近年、初等教育に導入されているプログラミング教育の意義の理解を深め、プログラミングソフトウエアを概観する。

PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行った。またPowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施。楽譜作成ソフトウエアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。期末時は、学生各自、より理解を深めたいソフトウエアを選択して学習の目標と計画を立て、演習を行った。

＜状況説明と分析＞

木曜日２時限、履修者数９名。１～２年生の混合クラスであった。授業形態は演習形式（１人１台のPCを使用）と講義形式で行った。コンピュータ操作が得意か、苦手と感じているか、学生によって当初はかなり差があった。授業初めの時期は、課題を終えるまでの時間に大きくバラつきがあり、早く課題を終えた学生には、別課題や演習内容に関する自由制作などを提示して調整を行った。苦手と感じていた学生たちも、根気よく取り組んでいた。プレゼンテーションの演習では、データ作成・ストーリーの作成・本番まで、各々意欲的に行うことができていた。最終課題は各自理解を深めたいソフトウェアを選択して演習を行ったが、「社会に出て必要だから」との理由で表計算ソフトウェアExcelを選択する学生が約半数、他は楽譜作成、プログラミングなどを行った。

●　問題点

・予習復習の時間

・課題演習に要する時間の個人差への対応

●　改善の方策

・予習復習の時間：学生個人のPC環境は年々整ってきているように感じるが、やはり未だ自宅ではPCが家族共有であったり、所持がないというケースも見られる。予習は教科書を使ったものを増やし、またスマートフォン・ネットワーク上のソフトウェアなどを使っての課題作成を、操作方法・環境を整えることも含めてサポートする。

・本年度は、学生の個人差はあったものの、対応できる範囲内ではあったが、短期大学では社会人学生の割合が多い年度もあるため、個人差への対応準備を引き続き行っていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	英語圏異文化コミュニケーション2
教員名	ﾚﾝﾂ I. K.

職名	04. 准教授

履修者数	8
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.50	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.20	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.83	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.83	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.83	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67, 4: 16.67, 3: 33.33, 2: 16.67, 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

科目名	法と経済(日本国憲法を含む)B
教員名	小久保　智淳

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00, 4: 50.00, 3: 0.00, 2: 0.00, 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	現代の心理学(発達心理を含む)B
教員名	徳富　政樹

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.32
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.35
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.60
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.13
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.90
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.20
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.35
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.35
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.43
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.62
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.58
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.33	4.23
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.67	4.36
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
100.00	0.00	0.00	0.00	0.00

Ⅲ	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.50

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

東 邦 音 楽 大 学 大 学 院

ピアノ領域

授業改善のための学生アンケート集計結果　大学院

専攻	01. ピアノ領域
科目数	8

履修者数	14
回答者数	9

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	9	0	0	0	0	9	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	9	0	0	0	0	9	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.67	8	0	0	1	0	9	0
				88.9	0.0	0.0	11.1	0.0		
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	9	0	0	0	0	9	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	9	0	0	0	0	9	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	9	0	0	0	0	9	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	9	0	0	0	0	9	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	4.83	5	1	0	0	0	6	3
				83.3	16.7	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	9	0	0	0	0	9	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	9	0	0	0	0	9	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	9	0	0	0	0	9	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	9	0	0	0	0	9	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	ピアノ特別演習
教員名	國谷　尊之

職名	02. 教授

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

2021年度は、大学院ピアノ特別演習のレッスンを、1年次1名、2年次生1名、計2名担当した。2年次生は実技、論文ともに能動的に取組み、大学院での研究として十分な成果を上げることができたと感じている。1年次生は中国人留学生であるが、新型コロナウィルス感染拡大に伴う入国制限のため対面でのレッスンができず、オンラインでのレッスンとなった。しかし、この学生は制約の多い条件の中でも多くの楽曲に取組み研究を着実に進めることができた。2年次での研究へとつながる1年間であった。

●　問題点

残念ながら中国人留学生からのアンケート回答は得られなかったため、回答者は1名のみとなり、問題点等はアンケートの数値には表れにくいと考えられる。しかし、実際にレッスンを進めている中で研究が順調に進捗していくのを目にすることができ、特に問題はなかったと考えている。

●　改善の方策

1年次生の来日がかない対面レッスンがスタートできることを願っている。今年度の成果を修士論文と演奏につなげられるよう努めていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	ピアノ特別演習
教員名	小林　律子

職名	02. 教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

令和3年度、1名の大学院生を担当した。院生は大学ではKonzertfachに在籍していた。Konzertfachのカリキュラムにおいては多くのレパートリーの習得が必須であり、また1年に複数回の演奏会が設定されていた。強い意志を持って着々とこなしていたが、その反面余裕がなく追い込まれる場面も多々見受けられた。しかし、このKonzertfachでの経験によって多くの達成感と自信が得られたのではないかと思う。
更に深い学修を志し進学した大学院では、これまで通り目標をきちんと設定し意欲を持ってレッスンに臨んでいた。元来自立心の強い性格で、学修スケジュール等ほとんどを自ら決め、客観的な意見が必要な時には教員に相談し自分の考え方に反映させていた。
アンケートの集計結果からは院生の姿勢が十分に窺える。大変頼もしい、理想的な院生であると言える。

●　問題点

特にない。

●　改善の方策

特にない。修士課程残りの1年、更に充実した学修ができる様、見守りたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	ピアノ特別演習
教員名	太田　幸子

職名	03. 特任教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.50	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.50	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

令和3年2名担当。1人は留学生。言葉の問題は特にありませんが、体が弱く、設問Ⅰ－aの出席良好とありますが、いつも気使いをしておりました。そのためⅠ－cの数値が低い結果になったと思います。
又Ⅱ－eにマークを入れたのは、意味がわからなかったものと思います。
2年生は、決して丈夫な学生ではありませんが、自分の専門において、完成度の高い演奏ができておりました。

●　問題点

留学という意味をしっかり自覚して欲しい。

●　改善の方策

日本の環境にも慣れ、留学生として意欲的に学生生活を送って欲しいと思います。
よりきめ細かく身守り、適切な指導を心掛けていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	ピアノ特別演習
教員名	浦川　玲子

職名	06. 専任講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

大学院生1名の履修であるが、当該学生はモチベーションが非常に高く、熱意と積極性を持って日々の練習・研究に十分な時間を充てている。教員の指導についての受け止めも非常に良く、高評価である。学生が高度な概念や技術を身につけ、知的刺激により視野を広げ、研究手法を工夫する手立てが養うための、意義のある授業内容となっている。

●　問題点

学生が身につけた力を、大学院修了後の社会人としての活動に繋げていくことが重要である。

●　改善の方策

学生が自己を深く知り、自らの力で未来を切り拓いていけるよう、引き続き指導し見守っていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	アンサンブル表現研究A(伴奏法)
教員名	田中　梢

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	–	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

生徒は日本人1名と中国人1名。今まではもう一コマの室内楽と一緒になってアンサンブルの演奏会をすることが目的でシラバスを作っていたが、伴奏法の授業のみだったので生徒の希望で演奏会はやらないことに。中国の生徒は演奏能力に問題があり、優秀なもう一人の生徒との共同作業でのレッスンにやりにくさがあった。しかし途中で欠席回数により授業断念となった。一名の生徒は優秀だったので生徒の希望に合わせてたくさんの課題をこなす事が出来た。室内楽の伴奏もこなす事が出来た。演奏会は出来なかったが、歌手との試演会をする事が出来た。

●　問題点

例年あることだが、演奏能力の差がある生徒たちの集団レッスンは本当に難しい。
伴奏法と室内楽と両方の授業でアンサンブルを学べると考えてきたが、伴奏法だけだと本当の意味でのアンサンブル能力は身につかないかなと思う。

●　改善の方策

授業についていける能力のある生徒がそろってくれると授業はやりやすい。
伴奏法・室内楽と分けずに2コマをひとまとめとしてアンサンブルとして授業したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	ピアノ特別演習
教員名	藤井　一興

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

科目名	鍵盤音楽史研究
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	－	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	作品研究A(バロック･古典期)
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	－	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

管弦打領域

授業改善のための学生アンケート集計結果　大学院

専攻	02. 管弦打領域
科目数	1

履修者数	1
回答者数	1

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.00	0	1	0	0	0	1	0
				0.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	0	1	0	0	0	1	0
				0.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.00	0	0	0	1	0	1	0
				0.0	0.0	0.0	100.0	0.0		
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	アンサンブル表現研究(室内楽)
教員名	澤　敦

職名	05. 特任准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

声 楽 領 域

授業改善のための学生アンケート集計結果　大学院

専攻	03. 声楽領域
科目数	13

履修者数	41
回答者数	36

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.80	29	5	1	0	0	35	1
				82.9	14.3	2.9	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.92	33	3	0	0	0	36	0
				91.7	8.3	0.0	0.0	0.0		
	c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.64	12	6	12	5	1	36	0
				33.3	16.7	33.3	13.9	2.8		
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.92	33	3	0	0	0	36	0
				91.7	8.3	0.0	0.0	0.0		
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.94	34	2	0	0	0	36	0
				94.4	5.6	0.0	0.0	0.0		
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.97	35	1	0	0	0	36	0
				97.2	2.8	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	36	0	0	0	0	36	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	4.73	20	5	1	0	0	26	10
				76.9	19.2	3.8	0.0	0.0		
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.97	35	1	0	0	0	36	0
				97.2	2.8	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.97	35	1	0	0	0	36	0
				97.2	2.8	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.97	35	1	0	0	0	36	0
				97.2	2.8	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.97	34	1	0	0	0	35	1
				97.1	2.9	0.0	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	声楽特別演習
教員名	佐藤　泰弘

職名	03. 特任教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.67	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.67	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.67	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

この度の声楽特別演習は３名が履修していて、1名が大学院1年生、2名が大学院2年生である。大学院一年生の日本人学生は大変勉強熱心だが、悩みも多く、レッスン中にその悩み相談の時間を設けつつ、試行錯誤しながら声楽テクニック向上とレパートリー作りを地道に取り組んだ。大学院2年生は2名共、中国からの留学生で、最終学年ということもあって、昨年度よりも更に真剣で熱心な学習意欲が感じられた。学位審査演奏には2年生2名共が研鑽が役立った、実り多き演奏を実現出来た。

●　問題点

シラバスの提出はないため、私がレッスンでの特に改善しようとした目的が、学生に充分に伝わらなかった。そのため、アンケートでは私が施した工夫はあまり学生に実感として感じられなかったようだ。

●　改善の方策

レッスンの開始時と終盤時に、学生に今日のレッスンの目標提示を明瞭に伝えて、レッスンの結果、どのように改善されたか、レッスンを受講する学生本人が達成感を感じられるような詳しい説明が必要であると反省して、そのための方策を検討していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	作品研究A-Ⅰ(日本歌曲)
教員名	山崎　明美

職名	03. 特任教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.33	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

講座の目的は、日本歌曲の成立、発展の変遷を辿りつつ、日本歌曲演奏に必要な学識を深め、その専門的能力を養うことである。日本歌曲演奏における日本語の発音のあり方を系統的に学び、ベル・カント唱法と結びついた自然な日本語の表現を学ぶ。さらに詩の解釈、朗読を研究し、詩人、およびその文学的背景を探求し、加えて作曲家について多岐にわたる文献を参考にしつつ、その演奏法を習得する。授業の進め方は、各自演奏を行い、担当の歌曲についてそれぞれが資料を作成、それをもとに研究発表を行う形である。教員は学生にさらなる資料の提示、または補足を行い、学生各自の積極的な研究を促し、資料の紹介、演奏者として取り組むべき内容、さまざまな課題を示す。各自が今後の演奏において役立つよう助言を行う形態である。楽譜の選択から、楽譜の読み方、研究の結果をどう演奏に反映させるかと言う教員自らの研究結果に基づき、授業を進め、必要に応じて視聴覚資料も用いている。本講座履修者3名のうち全員から提出された。アンケートは、本人の受講についての設問3項目、教員の授業の進め方についての設問5項目、学生が実感する到達度についての設問4項目よりなる。回答は積極的肯定：５、消極的肯定：４、普通：３、消極的否定：２、積極的否定：１で回答されている。アンケート結果は、設問Ⅰ-cが3点台外は5点であった。

●　問題点

Ⅰ―ｃ「1回の授業のために、平均どれくらい研究をしましたか」が３，33となった点だろうか。

●　改善の方策

4時間が33.3パーセント、2時間が66.7パーセントという結果である。時間としては充分と思われる。「とても楽しかった。大きな流れをつかんで声を出す練習になる曲が多く体の力を抜く練習をする必要があることに気がつけました」という自由記述があった。学生への曲への取り組み方は確かに伝達されていると実感している。さらに興味の幅が広がる授業にすべく自身も研究を深めていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	作品研究A-Ⅱ(日本歌曲)
教員名	山崎　明美

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	–	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

講座の目的は、日本歌曲の成立、発展の変遷を辿りつつ、日本歌曲演奏に必要な学識を深め、その専門的能力を養うことである。日本歌曲演奏における日本語の発音のあり方を系統的に学び、ベル・カント唱法と結びついた自然な日本語の表現を学ぶ。さらに詩の解釈、朗読を研究し、詩人、およびその文学的背景を探求し、加えて作曲家について多岐にわたる文献を参考にしつつ、その演奏法を習得する。授業の進め方は、各自演奏を行い、担当の歌曲についてそれぞれが資料を作成、それをもとに研究発表を行う形である。教員は学生にさらなる資料の提示、または補足を行い、学生各自の積極的な研究を促し、資料の紹介、演奏者として取り組むべき内容、さまざまな課題を示す。各自が今後の演奏において役立つよう助言を行う形態である。楽譜の選択から、楽譜の読み方、研究の結果をどう演奏に反映させるかと言う教員自らの研究結果に基づき、授業を進め、必要に応じて視聴覚資料も用いている。本講座履修者1名から提出された。アンケートは、本人の受講についての設問3項目、教員の授業の進め方についての設問5項目、学生が実感する到達度についての設問4項目よりなる。回答は積極的肯定：５、消極的肯定：４、普通：３、消極的否定：２、積極的否定：１で回答されている。アンケート結果は、Ⅰ―a 4点、Ⅰ―c 3点、外は5点である。

●　問題点

設問ⅠはⅠ―a「この授業への出席は良好であった」が4となった点であろうか。Ⅰ―cは予習復習の時間を問うものである。回答は3時間であった。

●　改善の方策

アンケート対象は１名であった。大学院生として学ぶこの年代は、身体の変わり目でもあり、体調を崩す傾向も見られる。そのほかの設問がほぼ5であったことを考慮すると、授業目的の伝達はスムースにおこなわれていたのではないかと思われる。これに慢心することなく、自身の研究も進め、授業に反映させていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	声楽特別演習
教員名	山崎　明美

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

大学院2年生の留学生を1名担当している。その1名からアンケートが提出された。大学院においては大学における学びをさらに進化させ、プロとして一歩踏み出すための研究を行うことを主眼としている。個人レッスンの形式で行われ、必要に応じて、伴奏者が同伴されると言う形式で進められる。レッスン目的は、1、声楽技術の習得・呼吸法、レガート唱法の習得、なめらかな声区転換などの技術の追求、読譜能力を高めるなど、2、さらにそれらを向上させること。3、言葉への十分な取り組みを行うこと。語学としての基礎知識を習得する事はもちろん、正確で美しい発音、内容を正しく発音する。想像力を持って表現するなどである。4、曲の背景を理解すること…作曲家について、その時代背景、音楽背景、他の作品との比較、またテキストとなっている詩への深い理解、詩人の事などである。また、オペラ、歌曲、宗教曲等のそれぞれの分野から、学生の適性を見極め、今後の演奏における中心となる課題に取り組んませるようにしている。後期に修了実技審査があり、修士論文も提出され、審査を行う。レッスン時間は、学生との打ち合わせを年度初めに行い、他の授業に差し障りのない時間を確保する。 アンケートは本人の受講についての質問3項目、教員の授業の進め方についての質問5項目、達成度等を問う質問3項目よりなる。回答は積極的肯定:5、消極的肯定4、普通3、消極的否定2、積極的否定1で回答されている

●　問題点

非常に優秀な学生で日本語も滑らかで、修士論文においても真摯に取り組み結果を得られた。全項目に渡り5を選択している。

●　改善の方策

日本での2年間で多くを学んでくれた留学生である。彼の信頼感に応えることができ非常に嬉しく思っている。今後とも自身の研鑽も含め、大学院での教育に当たっていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	声楽特別演習
教員名	武藤　直美

職名	04. 准教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.50	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

1年生2名の受講者に対し、シラバスに提示された授業計画に沿ってレッスンが行われた。個人レッスン70分の時間内ではテクニック、ディクション及び楽曲分析等の指導に対し、受講者は独自の方法で学習し、積極的に授業に臨んでいた。

●　問題点

今回の結果から判断すると、実技の指導方法については特に問題点はないと思料する。

●　改善の方策

次年度も授業計画に沿ったレッスンを基本とするが、修士論文に向け更なる指導の強化を追求、実践していく所存である。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	声楽特別演習
教員名	大島 洋子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

● 現状の説明

2021年度 大学院生は1名。2年に在籍。
レッスンは毎週水曜日に文京校舎で行いました。レッスン時間の70分に10分をプラスして80分にオフィスアワーに組み込み、当日学生の方から相談がなければ80分をレッスン時間としました。
レッスンは必ず発声練習から始め、次に練習曲(Concone25番)を用いて伴奏を付け、リズム、メロディーに合わせて母音唱法で歌います。
ここでは正しい音程感覚(言葉が付くと各母音によっての音程に微妙な差が出る為)や強弱の微妙な音の扱い方、楽譜に書かれている様々な音楽記号を音として色付けする事で表現力を高めます。

この学生は大学院1年次にはソルフェージュが得意でなく、音程やリズムが不確かな事も多く、前年度の一年間は曲と同じ時間を発声について取り組みました。
本来真面目な学生で1年次に行なって来た基礎練習により声の斑も少なくなり、高音もかなり高い所まで出るようになりました。

● 問題点

2020年度と2021年度の2年間に渡る学生との関係は、学生の努力も有りかなり友好なものであったと思います。

● 改善の方策

2年間に日々に稽古を重ねる意識を持ち努力して大学院修士課程を修了しました。
卒業後は中国に帰ると聞きました。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	アンサンブル表現研究(声楽)
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.67	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

科目名	作品研究B-Ⅰ(外国歌曲)
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.75	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.25	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.67	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	作品研究B-Ⅱ(外国歌曲)
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	6
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.50	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

科目名	作品研究C-Ⅰ(オペラ)
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.75	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	作品研究C-Ⅱ(オペラ)
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.75	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.50	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

科目名	声楽特別演習
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	歌曲･オペラ史研究
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.25	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.60	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.60	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.80	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	3.67	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.80	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.80	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.80	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

作 曲 領 域

授業改善のための学生アンケート集計結果　大学院

専攻	04. 作曲領域
科目数	2

履修者数	9
回答者数	7

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%) 5	4	3	2	1	有効回答数	無効回答数
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.14	4	1	1	1	0	7	0
				57.1	14.3	14.3	14.3	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	5	1	1	0	0	7	0
				71.4	14.3	14.3	0.0	0.0		
	c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.67	2	0	1	0	3	6	1
				33.3	0.0	16.7	0.0	50.0		
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.86	6	1	0	0	0	7	0
				85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.86	6	1	0	0	0	7	0
				85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.83	5	1	0	0	0	6	1
				83.3	16.7	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	6	1	0	0	0	7	0
				85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	5.00	1	0	0	0	0	1	6
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.57	4	3	0	0	0	7	0
				57.1	42.9	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.86	6	1	0	0	0	7	0
				85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.71	5	2	0	0	0	7	0
				71.4	28.6	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	6	1	0	0	0	7	0
				85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	作曲技法特別研究Ⅰ
教員名	井上　淳司

職名	05. 特任准教授

履修者数	7
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	3.80	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.60	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.80	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.80	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.75	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.40	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.80	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.60	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業は大学院生作曲専攻生のための必修講座で、作曲専攻生が在籍している年度であるならば他専攻生も履修が可能となっている。今年度は作曲専攻生が２名いたため他専攻生が５名おり合わせて７名が履修した。作曲専攻生は２名とも特別な事情によりオンラインでの参加であった。週に1コマ（90分）で、議論等授業の活性化を図るためにも二年次生と合同の講義とした。特に制限をしているわけではないが、資料の豊富さもあり自ずと取り扱う題材は近代西洋音楽が中心となり、所謂クラシック音楽の系譜を追って、前バロック期から現代音楽へと調性音楽の誕生からその延長上にある無調音楽、さらにまた現在の多様な音楽におけるその構造（構成、旋律の扱い、和声法、リズムの扱い等）や作曲家の扱う題材をも時代背景を踏まえながら、作曲するという行為からの視点により楽曲を考察し研究することによって、技法のみならずその精神性にまで深く考慮することを目的としている。

●　問題点

対面の他専攻生は作曲経験がなく、また、作曲専攻生はオンラインのため疎通がやや困難ということもあり、作曲経験が無いと分からないような高度な講義内容は出来ず、対面者に合わせてが中心となり、作曲専攻生には物足りなかったかもしれない。

●　改善の方策

履修した学生に合わせた内容にすることは当然であるため、方策としては仕組みを変えるしかない。複数のクラス設定、他専攻への制限等が考えられるが現時点では現実的では無いかもしれない。が、少なくとも次年度以降も学生の研究を今以上に喚起するような題材や授業展開は心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	作曲楽書特別研究
教員名	上山 典子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設 問 文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	–	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

● 現状の説明

本授業は英語で書かれた文献（音楽書、理論書、音楽事典の項目、演奏会の楽曲解説など）を読むことで、その内容的理解を深めることを目的とする。履修者は年間の授業を通して英語による音楽書を読むことに慣れ、日本語で書かれた文献からだけでは得られない知識を獲得することで、音楽的視野を広げることを目指す。また、英語圏の文献で日本の現代音楽や作曲家がどのように解説されているのかを知ることで、世界における我が国の音楽事情や音楽文化における位置づけについて考える機会とする。

シラバスでは、「The Harvard Dictionary of MusicやThe New Grove Dictionary of Music and Musicians 第2版などの音楽事典から20世紀以降の作曲家（邦人作曲家を含む）や作品、音楽用語の項目のほか、20世紀を中心とする作品の楽曲解説、CDの解説書、論文等を取り上げる」と記していたが、「履修者の専門、興味関心、語学力によっては、扱うテキストおよび下記の授業内容を変更する可能性がある」と注記した通り、今年度は、当初予定していた講読文献を大幅に変更しての授業運営となった。本授業の履修登録者は声楽専攻の修士1年生とピアノ専攻の修士2年生の合計2名、加えて、2020年度にすでに本授業の単位を修得済の打楽器専攻の修士2年生が聴講生として参加したが、彼女たちの主な関心領域は1900年頃までの時代にあったため、20世紀という時代にこだわらず、19世紀から17世紀ころまでに遡った内容の文献を幅広く講読することができた。

聴講生を含む参加者3名はいずれも意欲的で、音楽学領域の話題、文献などに大きな関心を持っていて、文献講読においても非常に能力が高かった。専門実技の領域で高いパフォーマンスを展開できている学生は、音楽史や音楽文化といった作品が生み出された背景や作曲家が生きた時代背景などに対しても、学習意欲が高いことを改めて感じた一年だった。

● 問題点

正規の履修者は2名のため、今回の授業アンケート回答者も2名に限られる。毎年（そして担当者のこの他の授業同様）、授業外学修時間の確保が問題として浮き彫りになるのだが、今回はこの項目に限って、有効回答者数がなぜか1名分しかなかった。記載しなかったのか/忘れたのか、間違えて記入したのか・・理由は不明だが、回答数は1名で、3時間というものだった。

● 改善の方策

本授業の予習・複数時間として「3時間」という回答は、実際のところ、本授業にとっては十分な時間という印象を持ってしまうのだが、このほかの授業全体の平均点が3.41であることを考えると、担当者としては、授業外時間学習の確保に一層の努力が必要という数値として受け取らなければならないと感じた。文献を講読したり、単語の意味調べをすることに限らず、関連する作品の音源を入手して聴いてみる、といった実技専攻の学生にとってより取り組みやすい学習方法の提供を模索していきたい。

共 通 科 目

授業改善のための学生アンケート集計結果　大学院

専攻	05. 共通科目
科目数	5

履修者数	16
回答者数	11

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%) 5	4	3	2	1	有効回答数	無効回答数
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.55	6	5	0	0	0	11	0
				54.5	45.5	0.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.82	9	2	0	0	0	11	0
				81.8	18.2	0.0	0.0	0.0		
	c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.18	1	2	0	3	5	11	0
				9.1	18.2	0.0	27.3	45.5		
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.82	9	2	0	0	0	11	0
				81.8	18.2	0.0	0.0	0.0		
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.82	9	2	0	0	0	11	0
				81.8	18.2	0.0	0.0	0.0		
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.91	10	1	0	0	0	11	0
				90.9	9.1	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.91	10	1	0	0	0	11	0
				90.9	9.1	0.0	0.0	0.0		
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	5.00	2	0	0	0	0	2	9
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.73	8	3	0	0	0	11	0
				72.7	27.3	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.91	10	1	0	0	0	11	0
				90.9	9.1	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.82	9	2	0	0	0	11	0
				81.8	18.2	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	11	0	0	0	0	11	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	楽書研究
教員名	上山 典子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設 問 文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.50	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	–	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.50	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

● 現状の説明

本授業は英語で書かれた音楽事典や文献の内容を読み、その理解を深めることを目的とした。履修者には年間の授業を通して英文で書かれた音楽書を読むことに慣れ、日本語で書かれた文献からだけでは得られない知識を獲得することで、音楽的視野を広げることを目指した。月曜1限開講の本授業の履修登録者はピアノ専攻の修士2年が1名、声楽専攻の修士1年が1名の計2名という小規模クラスとなった。履修性はいずれも社会人学生で、例年になく高い英語力と地道な予習活動により、授業はかなりのハイ・スピードで出発した。しかし初夏の頃になって、このスピードが履修者たちにとって実はかなりの負担になっているように思われたため、その後は少々速度を緩めながら、すなわち担当者による解説や関連話題の提供などを多めにとることで、多読に偏らない授業運営を心がけた。（これは今年度に限ったことではないが、大学院生は専門実技のレッスンなどで非常に忙しい生活を送っていると思われる。講義系科目の担当者としては、単位修得に十分な予習・復習活動を求めなければならないという思いと、やはり専門実技を優先すべきだという思いとのジレンマに陥る。）

授業は、履修者の希望も取り入れながら、海外のオーケストラ楽団の演奏会用プログラムの楽曲解説や、Harvard Dictionary of Music、New Grove Dictionary（第2版）の項目の講読などに取り組んだ。語学の能力だけでなく、きちんと事前予習に取り組んできてくれたので、授業は極めてスムージに進めることができた。

● 問題点

例年、設問I-cの授業のための予習復習に対する取り組みが課題となっていたが、今年度は「4時間」が1名、「2時間」が1名だった。回答者の母数が2のため、平均値を算出する意味合いは難しいものがあるが、3時間程度の予習は理想的に思われる。（と言っても、元々の英語能力が高い学生の場合、講読文章の意味調べにかかる時間も必然的に短くて済むため、楽書研究のタイプの授業に関しては、予習時間の多さが必ずしも意欲や成果に比例するというわけでもない。）

● 改善の方策

今年度に限らず、楽書研究の授業全般に関する方策について――実技レッスンや修士論文の執筆と並行して、演習的性格を持つ授業の履修は大きな負担だとは思うが、楽書購読の授業においては、やはりある程度の予習が必須となる。確かに、辞書を用いずに多読を重ねる訓練もある意味では効果的で、この授業でも、意味調べの予習は敢えてせずに、まずは自力で読んでみる、という考え方もあるかもしれない。しかしこうしたことが可能になるのは、一定の語学力を備えた学生にとってであり、ほとんど学生にとっては、依然として地道な単語の事前調べが必要に思われた。今後も予習、そして復習の徹底を図っていきたい。

しかし同時に、本授業は英語を文法的に正しく読むことではなく、あくまで英文で書かれた楽書の内容を理解することを目的にしていることも、忘れないでいたい。そのためには、授業時間外の「自修」の内容、あり方、そして学生にどう促すか等々、担当教員として常に考えていく必要がある。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	演奏表現研究
教員名	上山 典子

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.33	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	1.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.67	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.67	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

● 現状の説明

本授業は大学院1年以上を対象とする通年授業で、月曜2限に開講している。分析を通して個々の作品の構造やそれぞれの作品が属するジャンルとしての特徴を把握するとともに、これらの作品を生み出した作曲家の意図や当時の時代背景、音楽社会・文化などにも目を向け、豊かな演奏表現につなげることを目的とした。 前期はバロック時代～古典派のいわゆる大作曲家の作品を中心に取り上げ、時代による形式構造の変化や作曲家の特色を把握した。後期は19世紀ロマン主義時代から、多くの履修者にとってこれまであまり馴染みがなかったという20世紀半ば頃までを対象に、作品が生み出された音楽史的背景に対する理解を深めた。講義形式を基本としたが、履修者による作品分析、作品批評など積極的な参加とディスカッションを求めた。また、取り上げる作品の鑑賞（DVD映像など）とその補足説明も重視した。

履修者は修士1年生のピアノ専攻1名と管楽器2名、修士2年生のピアノ専攻1名と管楽器1名の計5名で、最終的に全員が単位を取得した。例年、比較的出席状況の良い科目だが、昨年度同様、今回も2名の留学生の出席は著しく不良であった。そのうち1名は、新年度当初に数回出席したのを最後に、前期はその後一度も出席せず、10月半ばになって突然現れた。担当者としては、履修の意志がないと理解していたため、正直驚いたが、学生本人は「コロナが怖かったため」という理由を欠席の説明としたため、やむを得ず、単位を付与することになった。またもう一人の留学生も、欠席が非常に多めで、出席する際も、授業開始時間に現れたことは皆無だった。毎回最後の30分程度になって現れるため、遅刻を注意したが、残念ながらまったくもって改善は見られなかった。授業中に学生に対して質問したり、意見や感想を求めたりしても、ほとんど反応はなく、授業に対してまったく関心を持ってもらえていない様子だった。そのほかの3名に関しては、概ね出席良好で、学習意欲も非常に高かった。

なお、今回の授業アンケートの回答者は、最終授業日の出席者のため、留学生1名を含む合計3名となっている。

● 問題点

アンケートの結果、設問I-cの授業のための予習復習に対する取り組みが1.00と、とくに低い結果となってしまった。（昨年度は1.5だったことから、一層悪化した。）アンケートの回答者3名全員が、「1時間未満」と回答した事実は、深刻に受け止める。

また、学習意欲が決して高くはない留学生に対する対応も大きな課題と感じる。（もちろん留学生が全員そうであるという意味ではなく、能力も意欲も高い留学生は過去にも多く在籍していた。）こうした意欲低下の問題は、学生自身の問題というだけではなく、より魅力的な授業を提供しなければならない担当者の問題でもあると認識している。

● 改善の方策

前述した留学生を除く履修者の出席状況はおおむね良好だったが、履修者がこの授業の予習復習に費やした時間は決して十分なものではなかったことを、改めて認識し、反省している。輪読や演習系授業にあるような「宿題」といった性格の課題を出しにくいことから、思えば、学生に対して明確な時間外学習の指示や指導を行わないまま一年が過ぎてしまった。予習復習を明確な課題という形で提示しなくても、学生が自発的に授業内容を振り返ってみようと思うような、魅力ある講義を提供できるようにも努めたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	民族音楽表現法研究
教員名	櫻田　素子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.67	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.67	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.67	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.67	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.67	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

「民族音楽表現法研究」は、西洋音楽とは異なる特徴をもつ諸民族の音楽の表現方法について、人間の営みという観点から多角的にとらえて学び、研究すると同時に、諸民族の音楽の例を演奏実習し、民俗的な手法によって習得する授業である。また、民族的・伝統的な手法を用いて実際に作品制作も行ない、以上全てに於いて、演奏表現、作曲法、総合芸術のクリエイション、学習法、指導法、等に関わるグローバルな知識と技能を身につけることを目的としている。

授業は、水曜日の第２時限に開講し、受講者は4名。

前期は主に、スライドを使用した講義と視聴覚資料の視聴、関連する文献の講読と発表、ディスカッション等を実施した。これらにより、民族音楽を通して見えてくる、世界の様々な音楽表現に関する知識や論考、研究方法等を掘り下げていった。

後期は主にインドネシアの民族音楽ガムランを題材とし、民族楽器を用いたアンサンブル実技演習を行ない、フィールドワークや伝承、音楽分析、採譜といった様々な視点から、民族音楽の表現を学び研究した。また、ガムラン楽器等を用いたアンサンブル作品を各自が創作し楽譜を作成、提出する課題に取り組み、各自の作品を受講者全員で練習し演奏することにより発表を行なった。

アンケートは4名中、3名が回答した。未回答の1名は日頃からコロナ感染への恐怖心が強く、年間を通してやや欠席が多い学生であり、アンケート実施日にも欠席。

設問１の、本人の出席状況や授業への積極性に関しては、2名は大変熱心に取り組み、1名は、ある程度、と回答している。

設問２の、教員の努力や工夫、熱意に関しても、2名の評価は最も高く、1名はある程度肯定的である。

実際に、各授業内に提出させたコメントシートや課題レポート、ディスカッションに於ける発言内容、出席状況を踏まえると、2名は年間を通じて大変熱心に受講し、1名は記述や発言いずれも自分の意見を述べることに消極的であった。

設問３の受講者本人にとって意義のあるものであったか、という種類の問いには、3名全員が、全問、強くそう思う、と回答。

以上設問全てを総合してみると、学生と教員それぞれについての授業態度や取り組み方については、両者の齟齬があるように見受けられるが、授業内容の目的自体は達成されていたと捉えることができる。

●　問題点

結果的に、総合的に意義のあるものと感じることができた授業にもかかわらず、学生本人の取り組み方が、肯定しながらもやや消極的な回答になったり、また、教員へ対する評価が一歩引いたものになる、ということはどういうことか。それは、その学生が、実際に受けた内容ではない、別の期待や理想を予め持っていて、時にその期待に答えるような内容にならず、また本人自身もそうした要望を何らかの形で表現することができなかったのではないか、と考えられる。

●　改善の方策

改めて各回の授業内容をわかりやすく伝え、また、各自の表現をどのように引き出せるかを見直し、授業の組み立てと手法の選択へ工夫を加えていく。また、１回1回の授業に於いて、学生それぞれがその日の内容について、どのように、どの程度、自分のものとすることができたかを、丁寧に確認していくことが必要と考えられる。コメントシートへの記述内容の細やかな指定や、なかなか発言ができない学生へのフォロー等、学生とのコミュニケーションをより積極的に行なうことで解決する点が多いと考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	身体表現演習
教員名	渡辺　恵

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.50	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	1.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.50	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.50	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	－	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.50	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.50	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.50	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は受講生２名という少人数でしたが、大変熱心に取り組んでおり、有意義な授業となりました。音楽に乗って動くことを楽しめていたようです。また、使用した音楽についても興味を持ち、質問も積極的にしていました。

●　問題点

生徒たちは授業への準備、出席状況が良好とは感じていない部分があったようですが、教員から見て、問題はなかったように思います。

●　改善の方策

１年を振り返った時に後悔が無いよう、今年度も繰り返し学ぶことの重要さを説明したいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	フランス語
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.41
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.91
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.92
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.95
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	－	4.78
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.89
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.92
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.97

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較

東邦音楽大学大学院
東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

2021 年度　授業改善のための学生アンケート実施報告書

令和 4 年 3 月 31 日　発行

編集発行　　：東邦音楽大学・東邦音楽短期大学　FD 委員会

〒112-0012　東京都文京区大塚 4 丁目 46-9
TEL　03（3946）9667
FAX　03（3946）2455

印刷・集計　：株式会社　教育ソフトウェア